

XROSS JAMMER

F. S. S. D E S I G N S 6

MAMORU  NAGANO



永野護が放つ最新デザイン!

ファイブスター物語 公式ビジュアルガイド第6弾

コミックス第14巻以降のエピソードに登場した
GTM、騎士、ファティマを中心に掲載!!

KADOKAWA



ISBN978-4-04-107991-1
C0076 ¥3300E

定価：本体 3,300円（税別）

KADOKAWA



076033001

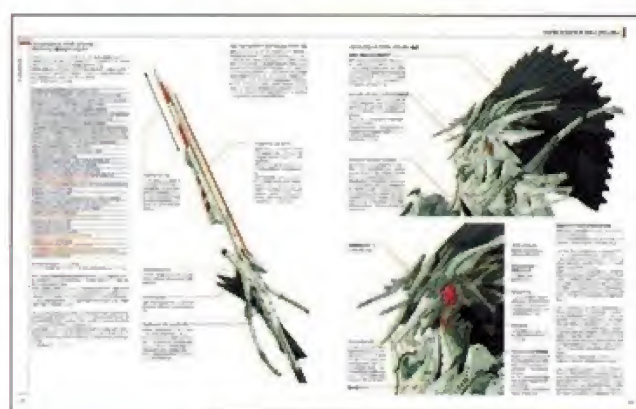


The Five Star Stories

MAMORU NAGANO'S

XROSS JAMMEER

完全初出の新規描き下ろしイラスト50点以上！
著者自身がすべて手がけた解説テキスト！
名称の新旧対応表(完全版)やツァラトウストラ・アプターブリンガーの詳細も！



XROSS JAMMER

F. S. S. D E S I G N S 6

MAMORU  NAGANO



XROSS JAMMEER

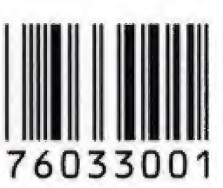
The Five Star Stories[®]

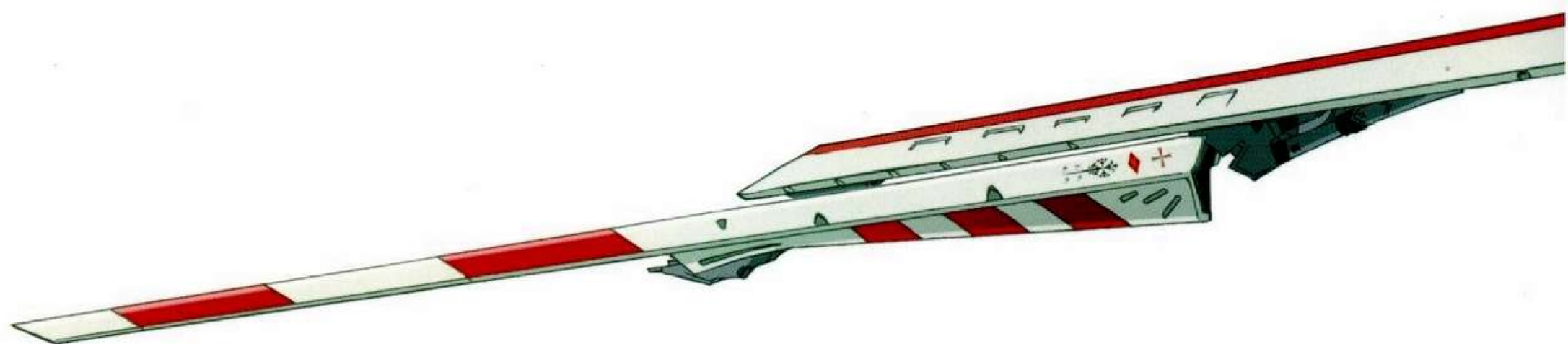
MAMORU NAGANO'S
PILOT

ISBN978-4-04-107991-1
C0076 ¥3300E

定価：本体 3,300円（税別）

KADOKAWA






XROSS JAMMER

F. S. S. D E S I G N S 6

F. S. S. D E S I G N S 6

XROSS JAMMER

MAMORU  NAGANO





DESIGNS 6

Characters XV

Both 3032 Battle of Bera

Both 3035 PALSUET

Both 3036 SPROUT SONG XOUME

MAMORU  NAGANO



XROSS JAMMER

ベラ攻防戦 ボォス3032

United MINOGSHIA Kampf Trukk



旧ハスハ連合共和国の戦いの意義

星団暦3030年、バツハトマ魔法帝国を中心とする各国枢軸軍の侵攻によってハスハ連合共和国はバラバラに分裂し、旧首都ベイズは炎に焼かれた。

その旧ハスハ連合共和国全土が戦場になったミノグシアの戦いに侵攻する各国の思惑はバラバラである。攻める枢軸も一刻も早く占領下に置きたい、戦いを早く終わらせたいといった至極まっとうな理由は皆無である。

それは、枢軸のバツハトマにとってはボオス星の国家バランスを崩すことによる自国の強国化もあり、ロツゾやウモスは占領下における国益の拡大、ガマツシャーンは自国の主張とミノグシアの弱体化、各国騎士団はその利益配分を手にするためと、さまざまな理由で、どの国家も旧ハスハ連合を疲弊させ、戦争を終わらせる気などまったくない。

長期の戦時下において利益を得ようとするだけなのである。

もちろんこれによって利益を吸い取られるのは旧ハスハ国家である。

またミノグシアを助ける名目で枢軸と対峙しているフィルモア、クバルカンは戦後の自国の影響を最大の目的とし、その最終的な目的は領土であることは明白である。

全ての国家が占領と利益を得ることは非常に時間がかかるとわかっているのだ。

純粋な理由で戦争終結に向け援助に回っているのは現時点ではコーラス王朝とバキン・ラカン帝国だけと言っていいたいだろう。

ミノグシア大陸とカステボーの全体戦況

戦場となっている地域は主要国家の首都近く、または攻め込むための橋頭堡(きやうとうぼ)きょうとうぼ、戦場において進軍、攻略をするための最前線の基地となる場所、もしくは前線の要の場所となる地域が多いが、目標となっているのはそれ以外にもミノグシアのGTMバガ・ハリ製造工場近郊も多い。我々の世界だと国境から徐々に首都に向かって進軍していくのがセオリーだが、星団の戦いはいきなり主要地区へ攻撃を仕掛けることも多い。GTMによって短期決着を付けるため、または占領地区を素早く蹂躪(じゆりよく)制圧し領土化するためである。

決戦兵器GTMの存在が、そういう戦いを選択させるのだ。

それ以外にもベラのように国境での戦いもある



のは、我々と同様の理由で、戦力が少なく、首都に攻撃を仕掛けても自軍の損害が莫大になる可能性が高く、国境からじわじわ相手の疲弊を待つという戦略である。開戦時、連合国家首都であったハスハント市をいきなり襲うのはお膳立てと勝算があり、なおかつ自軍の損害もある程度は覚悟した上での戦略で、このリスクを背負っても枢軸主宰国家のバツハトマにとっては首都陥落という言葉以上の戦果が序盤で必要だったのだ。

また、北部ミノグシア2国と南部のナオス国にほとんど戦火が広がっていないのは単純にリスクである。北部はまずベラを占領下に置き、ナカカラ北部を支配下に置いてからでなければリスクが大きい。南部ナオス国は枢軸の兵力を分散させてまで進軍する理由のない国家であり、バーガ・ハリ工場の送り先であるナカカラへの航路を押さえれば良かった。

だが、そのため中間のナカカラの工業都市ホーダウンは壊滅的な被害を受けている。

またこの戦況図であらためてわかるのはこれだけの国家の進軍を迎え撃つミノグシアのAP騎士団の凄さだろう。1または2個のAP支隊がひとつの国家の進軍を止めているのだ。AP騎士団、各支隊の戦闘力の凄さがわかると思う。

聖宮ラインの立ち位置

見てのとおりラインはミノグシア各国とカステポールのちょうど中間のイースト・ハスハと呼ばれる場所に位置する。

イースト・ハスハやウエスト・カステポールはほとんどが手つかずの荒野や砂漠で、人の住む場所や都市、国家がない。それほど過酷な環境なのかと思われる方も多いだろう。

そんなことはない。砂漠や荒野はあれど海に囲まれた半島的なこの地区は住みやすい場所も数多くある。

なぜここにライン以外の大きな都市がなく、人が住んでいないのかと言えば、「セントリー」の存在である。彼らがここを空白地帯にしているのだ。魔導大戦序盤、ここを通過してミノグシア東部へのショートカットを試みたウモスの先行派兵軍は磁気嵐と雷によって移動中に壊滅状態になった。そのことが大國ウモスの介入が遅れ、ナカカラにフィルモア軍を駐屯させることになった最大の理由でもある。

ミノグシアの戦いとはちよつと外れるが、この全体図で見ると聖宮ラインの位置とその政治的な立ち位置もわかるだろう。

「二羽の小鳥」においてリリとショークがラインにいたのはカステポールにあるフィルモア帝国統治区が近く、ハスハの影響も少ないからだだったことがこのマップからひと目でわかるだろう。

3030年のバツハトマを主体とする枢軸連合軍は旧ハスハ共和国のほぼ全域で侵略戦争を開始。ハスハ連合共和国首都のあるハスハントはほぼ占領され、首都ハスハは陥落した。

ボオス星ミノグシア大陸の大半を占めるハスハ連合共和国の各地で展開された戦闘は13のハスハ連合共和国を完全に分断し、旧ハスハの中核が残った国家、首都はハスハント西のスパース市に撤退し、ここを拠点とし、ハスハント共和国、カッツェー公国、シーゾス王国、ボルサ諸島列島、そして分断され北部に残されたペラ国、合計5つの国家で「ミノグシア連合」を形成し、かつてのハスハ連合共和国の体制を維持している。

ペラ国とツラック隊の置かれた立場

序盤の戦線は地図を見てもらえばわかるが、ハスハント中部と南部をバツハトマとロッゾが攻め、首都陥落直後に背後となるペラを封じるためにロッゾ正規軍の半数がペラ国境まで一気にツラック隊を押さえ込んだ。これは本来このハスハント北部を攻略する予定であったウモス4ヶ国連合が雷によってイースト・ハスハで壊滅したためにロッゾが移動してきたのである。

この戦いでツラック隊は支隊長以下半数以上の戦力を失い、孤立していった。ペラ攻防戦の話はここからスタートする。

地図を見るとハスハント側から右へ伸びたペラの国土はハスハント東がナカカラで、フィルモア軍勢が戦闘展開している地域であり、枢軸側はこ

の西側からの進軍が難しいことがまずあった。

ペラへと軍を進めるためには山沿いの狭い地形を越えるしかなく、ここにツラック隊は陣取って開戦から耐え抜いてきていた。大軍はボトルネットワーク状になったこの地形では団子状態になり、数の勢いで押せず、ツラック隊のGTMを消耗させ数を減らし、薄くなった箇所に大軍を突撃させて壊滅させる作戦であった。

北部ミノグシア2国の動き

本来共闘可能な北部ミノグシアのイエエンシング共和国とバトラント共和国は国土の繋がった南部のナカカラの動きを警戒し、ハスハント側はペラとツラック隊ががんばっている間、様子見を決め込んでいた。

彼ら2国が警戒していたのはナカカラからガマツシャーンとウモスの主力が攻め込んでくる可能性が非常に高かったというところもあり、ペラ国への静観は単純には責められない状況でもあったが、2国的にはミノグシア連合とは距離を置き、北部ミノグシア連合として中立の立場を取って、ミノグシアの戦いには参加しないという表明でもあった。

その後、膠着状態となり、攻めるロッゾは再編のために主力軍をベイジに置き、ペラへの侵攻は

ドレンノ連邦とハブハミトン公国、そしてロッゾの2軍であるロッゾ傭兵騎士団に任せていたのだ。とは言えこれら3騎士団が全てペラを攻めていたわけではなく、自分達の消耗を避けるために交替でペラ国境をつついていたにすぎない。

その後ツラック隊はご存じのとおり、稼動GTM数が限界まで消耗し、1個中隊規模にまで戦力は落ち、ペラが落ちるのは時間の問題であった。

アマテラスことソープとラキシスが偶然支隊長代理ナルミと出会ったことで事態は急速に変わり、ツラック隊の戦力は徐々に復活していった。そのため総攻撃のタイミングを逸した枢軸は数ヶ月以上攻めることができない状態になったのだ。

ペラの戦い以後、ペラは持ち直したが、戦線そのものは大きな変化はなく、ミノグシアの戦いはしばらく膠着状態となった。

だがこの膠着状態こそが、各国の政治の水面下での動きが活発化していたのである。

あらゆる国家がミノグシアの領土を求め、衰弱した旧ハスハ連合を食い物にしようとする戦いがスタートしたとも言える。

この後戦線が大きく動くのはピリジアンが予測したとおり、30年後となる。



ミノグシア連合 ツラック隊支隊長 ナルミ・アイデルマ

United Minogshia #12 Kampf Trukk Kommandant
Narumi Ideelmah

身長184cm

デザイン画は既出。

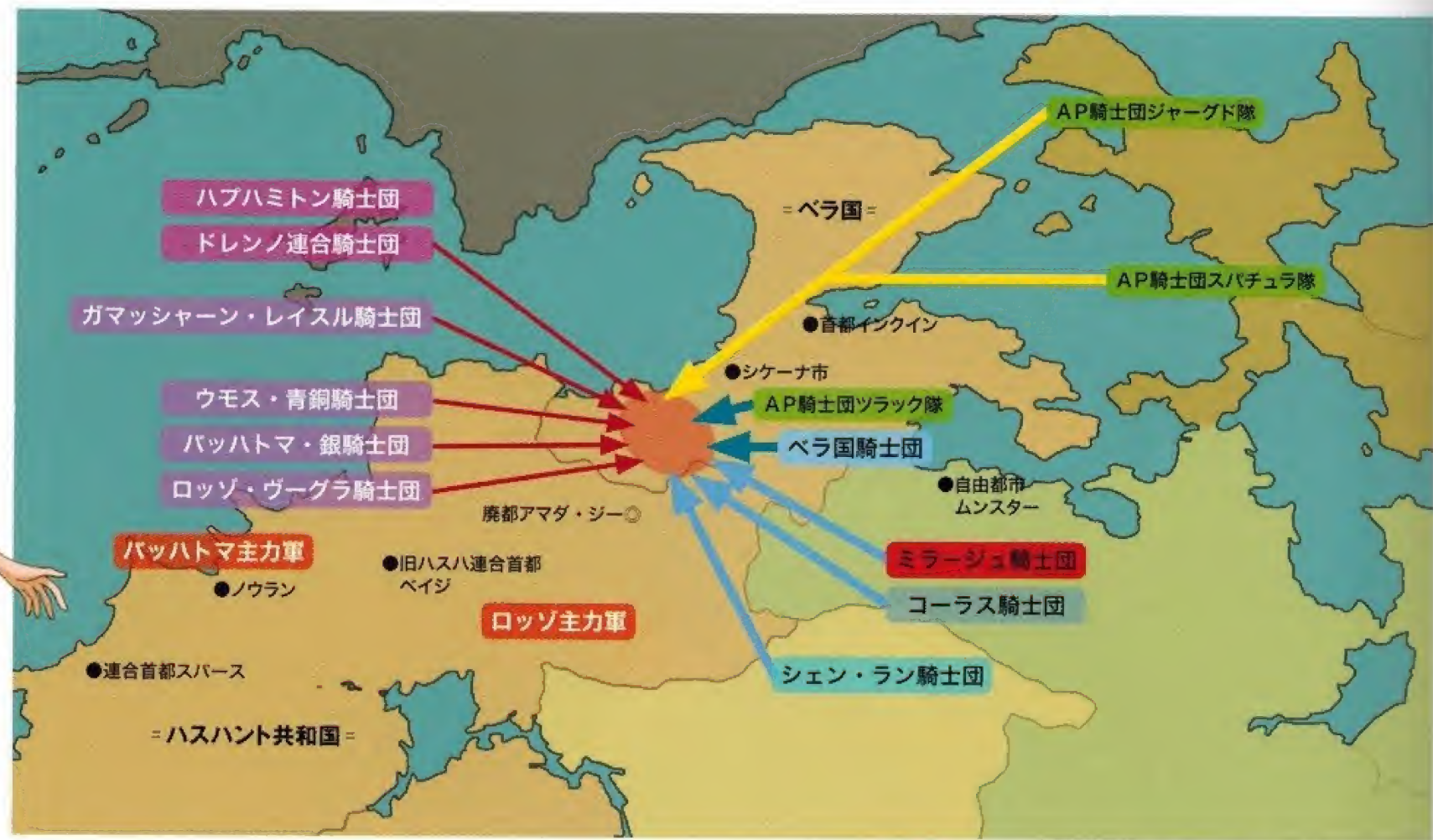
ツラック隊支隊長。本来の階級は大佐だが、前支隊長戦死による支隊長昇格のため、3032年のペラ攻防戦時では便宜的に准将扱いとなっていた。

ペラ攻防戦ののちは正式にツラック隊支隊長、ペラ国軍司令官となったが、階級は少将で通常の支隊長の軍階級である中將以上ではなかった。

ミノグシア連合内でも彼女の地位は低いままで相変わらずの弱小騎士団扱いで、ペラ戦での英雄である彼女の扱いにペラ国内では不満が高まっている。このナルミへの待遇は主にギラとバルンガによるもので、この優秀な指揮官が英雄に祭り上げられ、政治的に利用されるだけでなく、今や北部ミノグシアにも信頼の厚いナルミを警戒し、嫉妬も含めた邪魔者扱いする連合議会、軍幹部への配慮であった。

魔導大戦の集結後、ラーン近衛支隊長となり、聖宮ラーンでマグダルと共にミノグシアの再統一に向けて動くことになる。

彼女の子孫がキャナル・アイデルマで「ダリ・キア」の中核として3000年代中盤の動乱にミノグシアを支えることになる。



ツラック隊北部ベラ戦線・最終戦況図

ファティマ・ビューリー

Fatima Viewry

身長156cm 体重37kg

デザイン画は既出。
ナルミのパートナー、デカダン・スタイルのビューリー。デカダン・スタイルなのにヘッド・アシアだけを付けているのはツラック隊のホスト・ファティマだからというのと、「デザインズ4」の発表時にアシア・パーツを部分的に付けることもあるということを示したかったためだ。ミースのファティマで、ビルドの件で母親がまさかツラック隊と一緒に戦うことになるとは思わなかったに違いない。
つかビューリー、黒タイツじゃない…。まあ、軽快でよろしい。若いガーランドの作ったファティマっぽくて。

AP騎士団 全配置図と戦力

支隊	支隊カラー	装備数・配備地区（GTM数はAP支隊のみ。各国家騎士団のGTM数は含まず）		支隊長
ミノグシア連合				
デブレ近衛支隊	赤 白 黄 黒	（現在は活動停止状態）		デブレ・ビート（実際は、マドラ・モイライ）
スパース隊		90騎	南部戦線、シーズス戦線（第1大隊）	ランド・アンド・スパコーン
スキーン隊		90騎	ノウラン戦線	シュマイス・バイダー
ドーチュー隊		60騎	ノウラン戦線	エールレーン・スミダ（後ワンダン・ハレー）
マルコンナ隊1	栗色	42騎	シーズス戦線（スパース隊と合同）半数がナカカラ連合へ離脱	ゾンタ・クルーエル支隊長
スパチュラ隊2	水色 青	28騎	カッツエー西部戦線（本来のバトラント駐屯地から離脱分離）	オノラ・ドウセン（1個大隊を連れてスパチュラより離脱）
エンブリヨ隊		36騎	カッツエー南部戦線	グズリード・ロウラン
スクリティ隊	赤茶	13騎	遊撃支隊。現在はギーレル駐留（1騎はコーラス・ハイレオン）	アルル・フォルティシモ・メロディ
ツラック隊	オレンジ	24騎	ベラ国防衛	ナルミ・アイデルマ
北部ミノグシア連合				
スパチュラ隊1	水色 藤色	40騎	バトラント防衛 4分の1はミノグシア連合へ離脱	カーリム・玲於奈（旧支隊長オノラはミノグシア連合に離脱）
ジャグド隊		36騎	イェンシング防衛	ボルカノ・ストーン
ギーレル・ハスハ				
パローラ隊	赤紫	84騎	ギーレル北西部防衛	ジンセン・サルボ伯爵
ナカカラ中部連合				
ディスターヴ隊	若草色 栗色	122騎	24騎は王都防衛、残りはナカカラ北部戦線	ターナー・ラドンウェイ
マルコンナ隊2		28騎	ナカカラ北部戦線をディスターヴ隊と戦線維持	*ナイアス・ブリュンヒルデ（乗騎はラミアス）
イースト・ハスハ				
ラーン近衛支隊	紅色	12騎	支隊長ニナはミノグシア連合に出向中	ニナ・エリス（スパース市） ドヌーブ・ガセット（ラーン）
宇宙騎士団SPK				
SPK隊	銀	40騎	旧ハスハ連合より完全独立。現在はドーマ連合と行動	オロダムド・ハル

ミノグシア連合 ツラック隊GTM

バーガ・ハリKK-le

United Minogshia Main Kampf Roboter
Baga Ha Ri KK-le

全高26.3m 自重255t

魔導大戦において「最強GTM」と呼ばれたバーガ・ハリKK。KKの後に付く表記はイェンシング工場製の略である。

ペラ国の攻防戦において劣悪な環境で枢軸軍と戦い、耐え抜き勝利したバーガ・ハリKKは星団においても最強のGTMであるとの認識が高まった。

実際にはソープのチューニングもあったが、スパース隊のバーガ・ハリBSコブラと同等の強さを実戦で示したとの見方が多い。しかしそれ以上にバーガ・ハリというGTMの強さと頑丈さをあらためて知らしめることもなった。

バーガ・ハリKKは元々北部ミノグシア連合内にあるイェンシング工場で生産されていたGTMで、スパース隊やスキーン隊の使うバーガ・ハリとは頭部やアイドラ・フライヤーなどに違いが見られる。

同じイェンシング工場で生産されるジャード隊のバーガ・ハリJGやスパチュラ隊のバーガ・ハリ・フェンディと比べると支隊独自の仕様はわずかで、基本的なバーガ・ハリの仕様を多く残している。

バーガ・ハリの基本設計に則ったオーソドックスな仕様で、整備はとてもしやすかったと思われる。戦時下において生産されるバーガ・ハリはソープの言葉どおり間に合わせることが最優先であるために、支隊ごとにあった各部の仕様は統一され、各部の作りや装飾などは簡素化されている。これはどの支隊でも同じである。そのために各部の調整が完璧ではなく、実戦で不具合が多かったのはソープの指摘したとおりである。しかしそんな状態ですらバーガ・ハリは稼動し続けていたのだ。

このバーガ・ハリKKはナルミの乗騎で、頭部やアームフライヤーにマークが入っている。これは支隊長騎で、開戦時、前支隊長はナルミ騎をフォローし戦死した。その時のバーガ・ハリを回収し、引き継いだのであろう。実戦では頭部のマークは残っているものの、損傷の激しいアームフライヤーはしょっちゅう交換されて付いていなかった。





ミノグシア連合 スパース隊GTM

バーガ・ハリBSコブラ

Unitid Minogshia Flagship GTM
Baga Ha Ri BS Cobra SWANS

全高27.0m 自重270t

スパース隊の誇るGTM「バーガ・ハリBSコブラ」である。単純にBSコブラと呼ばれることが多い。

通常のスパース隊はバーガ・ハリBSを使用するが、スパース隊の第1大隊の一部のみがこのBSコブラを使用している。その数はわずか30騎である。カスタム騎のために非常にコストがかかり、整備においても手間のかかるGTMで、大戦勃発後は新たに生産する余裕はなく、故障や大破で徐々にその数は減っている。

右の通常のバーガ・ハリと比べても明らかに各関節、特に膝のツインスイングの巨大化が目立ち、スカートなどは放熱のために長い。

第1大隊以外には、アードやヒンのデブレ隊、スパース隊各大隊長、スキーン隊のシュマイスなどもこのコブラを使用している。

コブラの名称のもととなったアイドラフライヤーは放熱放電システムも兼ね、最大出力時にはアイドラフライヤーから蛇のような長いスタビライザーが伸びる。

最強とは言え現在は予備もなく替えのきかないGTMなので、ここぞという時に投入されるのかと思いきや、支隊長ランドは「最強GTMを投入しないで損害が増えたり戦闘が長引くのは本末転倒！ ガンガン使え！」と言っている。戦力とはこういう使い方をしてはじめて戦力と言えるのだ。ダメな軍隊は最強の部隊を温存しまくって、まったく使わないまま終わってしまう。それは結果的に全然最強じゃない「張り子の虎」ということがわからないらしい。最強部隊は真っ先に投入され、激戦をくり抜け、真っ先に消耗しまくってぼろぼろの状態から再編成されていく。だからこそ最強部隊なのだ。

正式な呼び名が「バーガ・ハ・リ・スパース・バトル・サーフィン・コブラ」という。剣聖SWANSの名が刻まれていることで、このGTMこそがミノグシアのGTMと言う者は多い。



ツラック隊 アークホストAF
ファティマ・ビルド
Fatima Build

身長165cm 体重38kg

モラード・ファティマ。エストの妹にあたる非常に有名なファティマ。パイロパイパー騎士団のパイパー將軍のパートナーであったが、將軍亡き後はモラードの元にずっといた。何度お披露目をしても騎士を選ばず、モラードはあきらかえていたが、ミスがその理由を一発で見抜き、ハレーを引き合わせることに奔走していた。まあ、ミスのお節介に助けられたというか、たまたまうまくいったということである。

ハレーのパートナーとなり、GTMバーガ・ハリBS-RというスーパーチューニングGTMを難なく扱い、ベラ最後の攻防戦では都合200騎以上のGTMのアークホストを務めた。

フローレス・ファティマ、さらにはコーラス、ミラージュファティマ達をも従えてのホスティングはものすごいといか言いようがない。

ファティマ達の通信管制は壮絶で、敵から、または自軍以外の通信はシャットアウトし、味方へは認証コードを送り通信をスムーズにするが、アークホストともなれば膨大な通信が同時に入ってくる。それを瞬時に分別し、マスターや指揮官に声で言う。ファティマ達へは信号で同時に複数に送るということをやっている。またマスターの命令なども瞬時にどの騎士に送るのか、どの軍単位の範囲に送るのか、司令部なのか、本国なのかなども制御し、観測部隊などの通常軍からの通信も入ってくる。もちろんGTMのコントロールをしながらである。

さらにはコーラスやミラージュなどのファティマからは友軍認識の要請コードが届いたり、それらをその都度リンクし張り直す。

通信だけでもこれほど大変なのにクロス・ジャマーの対応など、人間にはとてもできる芸当ではない。

もちろんその煩雑さをサポートするためにビューリーやブレインズが通信リンクの補助、クロス・ジャマーはオーハイネやスバルタがサポートしていたとは言え、これだけの情報を処理し、対応していたこの事実はビルドのすさまじさを物語るエピソードともなった。

彼女のアシリア・スーツはツラック隊のライトグリーンではなく、BS-Rに合わせたルビーレッドである。これはソープが彼女のアシリア・スーツの偏光率を変えて赤くしたのだ。

また、APファティマのS型はハイソックスだが、彼女は三つ折りになっている。さすがエストの妹ということで、隊内でもおとがめなしである。



ツラック隊 第2大隊長
ワンダン・ハレー

Kampf Trukk 2nd Botallion Commander
Wandoun Harrey

身長199cm 体重95kg

5話にてファティマ・ハルベルの治癒のためにAP騎士団エンブリヨ隊を脱走し、スクリティ隊と戦ったが、結果的に詩女ムグミカの擁護もあり、脱走騎士ながらおとがめなしとなった。

その後、騎士をやめ、母国ベラ国に戻っていたところで魔導大戦が勃発した。

エンブリヨ隊の大隊長にまで上り詰めておきながら、自分のファティマを失ったことで騎士をやめ、ベラの戦いでは遠くから眺めているだけであったハレーを叱責したのはナルミである。

ファティマを失い、戦うことをやめるのも、新たなファティマを得て再び戦いに挑むのも人間的には間違ではないが、ナルミが怒ったのは騎士をやめたのに戦場に来ていたことだろう。母国が蹂躪されても戦わないのはナルミにとって最も許せなかったのだ。

という経緯のハレーであるが、情けなさ満載のキャラとして描かれた。騎士垂涎のファティマ、ビルドが求めているのということも情けなさに輪をかけている。

実際には長い間騎士を廃業していてもGTMに乗った瞬間全てのカンは元に戻り、エンブリヨ隊大隊長、騎士教官であった彼の騎士としての力はツラック隊全戦力の大きな底上げとなったのは事実である。彼の功績は大きく、ベラの戦いの後、異動や支隊長への昇進の話が絶えず来ていたようだが、ハレーはツラック隊のいち大隊長のままナルミと共に支隊を支え続けることを選んだ。ナルミがラーン支隊の支隊長に異動した後、ドーチュー隊の支隊長としてビルドと共にミノグシアの安定に力を注いだ。

ミノグシアGTM ヤクトロポーター
バーガ・ハリBS-R

Baga Ha Ri BS-R

全高28.5m 自重255t

バーガ・ハリのフルカスタム騎がBSコブラだが、1騎だけ作られたこのBS-Rは駆逐騎に近いカスタムで、BSコブラよりもあらゆるところが軽く作られている。また、頭部両サイドのウイングには指揮用のアンテナポールが装備され、ペラの戦いでアークホスティングを担当したビルドにとってはとても使いやすかったことであろう。

もともとヤーボ・ビートが使用していたGTMで、ヤーボは最後は「カイゼリン」に搭乗したので、かなり長い間このBS-Rは使用されていなかったようである。

たぶん使用されていない期間も長かったのでソーブが突貫工事で仕上げていたはずである。もちろんツパンツヒも隙を狙っているいると調整していたのは間違いない。

ところで、このBS-Rがトラック隊に來た時にソーブとツパンツヒがエンジン音の違いにすぐ気がついた。

そのとおり、このBS-Rのエンジンは「ホルダ型GTM」のエンジンが使われているのだ。粘りのある力強いバーガ・ハリのSM60Miエンジンではなく、HL550型であったのだ。そのためにこのバーガ・ハリは最大出力と瞬間最大出力が他のバーガ・ハリとまったく異なり、膨大な発熱を出しながら戦い続けるという、まさに駆逐GTMのエンジンであった。通常のホルダ31A型ユーレイはHL630エンジンであり、BS-Rに使用されているHL550エンジンは「メロウラ」に搭載されているエンジンである。背中のアイドラフライヤーが恐ろしく巨大なのはその放熱システムのためである。そしてもちろんこのBS-Rは起動時に「女性が泣き叫ぶ声」が発生する。



ミノグシア軍主力GTM
バーガ・ハリBS SWANS-Hs

Boga Ho Ri BS-SWANS Hs

全高26.0m 自重265t

ブラックグリーンにホワイトがスパース隊の使用するバーガ・ハリBSである。見た目はスキン隊、ドーチュー隊と同じであるが、エンジン、スイング共にチューンされている。Hsはハスハント工場製のこと。スパース隊は旧ハスハ最強エリート支隊としての面もあり、装備面でも余裕でかなりの数のバーガ・ハリBSを保有していたが、大戦勃発後はハスハントを守るスキン隊、ドーチュー隊とともにGTMの損傷も多く、スパース隊の予備機は全てこの2支隊に譲渡された。現在ではスパース、スキン、ドーチュー3支隊の各バーガ・ハリは入り乱れ、本来の支隊カラーでは見分けられないために頭部やフライヤーに各支隊のマークを描き込んで判別している状況である。基本的に全て同じハスハント工場製で、使い勝手も同じなので、問題はないようだ。またハスハント工場から新品のバーガ・ハリも送られてくるが、これらは皆、装甲色がスキン隊のサンドグレーに統一されている。

ミノグシア軍主力GTM
バーガ・ハリDS-Hs

Boga Ho Ri DS Hs

全高26.0m 自重265t

第3支隊ドーチュー隊のバーガ・ハリである。装甲色はデザートピンクで、似たような色のスキン隊のバーガ・ハリよりも心持ち赤味がさしている。色は似ているが、各所の支隊カラーが黒なので、すぐに判別できる。現在は3支隊のバーガ・ハリが入り交じっているため、ドーチュー隊は頭部のみ支隊カラーの黒装甲パーツに入れ替えている騎体もある。そんなことしないで黒いところだけペンキで塗れば良いじゃないかと思われるかもしれないが、GTMの装甲カラーは装甲そのものがその色で生産されるため、残念ながら塗料で頭部の色を塗り変えても、放熱パーツのひとつである頭頂部は戦闘の発熱でペンキなど一瞬で燃えて元の装甲カラーに戻ってしまうのだ。なので現在は発熱の少ないところに支隊のマークを描き込んであるのだ。定数補充すらままならない現在のミノグシア軍では支隊個別のバーガ・ハリを揃え直すというのは非常に困難である。現在ではこのオリジナルドーチュー隊のバーガ・ハリDSの現存数はわずか35騎前後であるという。ドーチュー隊は定数60騎なので、かなりの数をすでに失っていることがわかる。損失した分は右のスパース隊の予備機や新たに作られるハスハント製のサンドイエローの騎体で補充されている。

■ 聖宮ラーン近衛支隊GTM

バーガ・ハリLA-Hs

Baga Ho Ri LA Hs

全高26.0m 自重265t

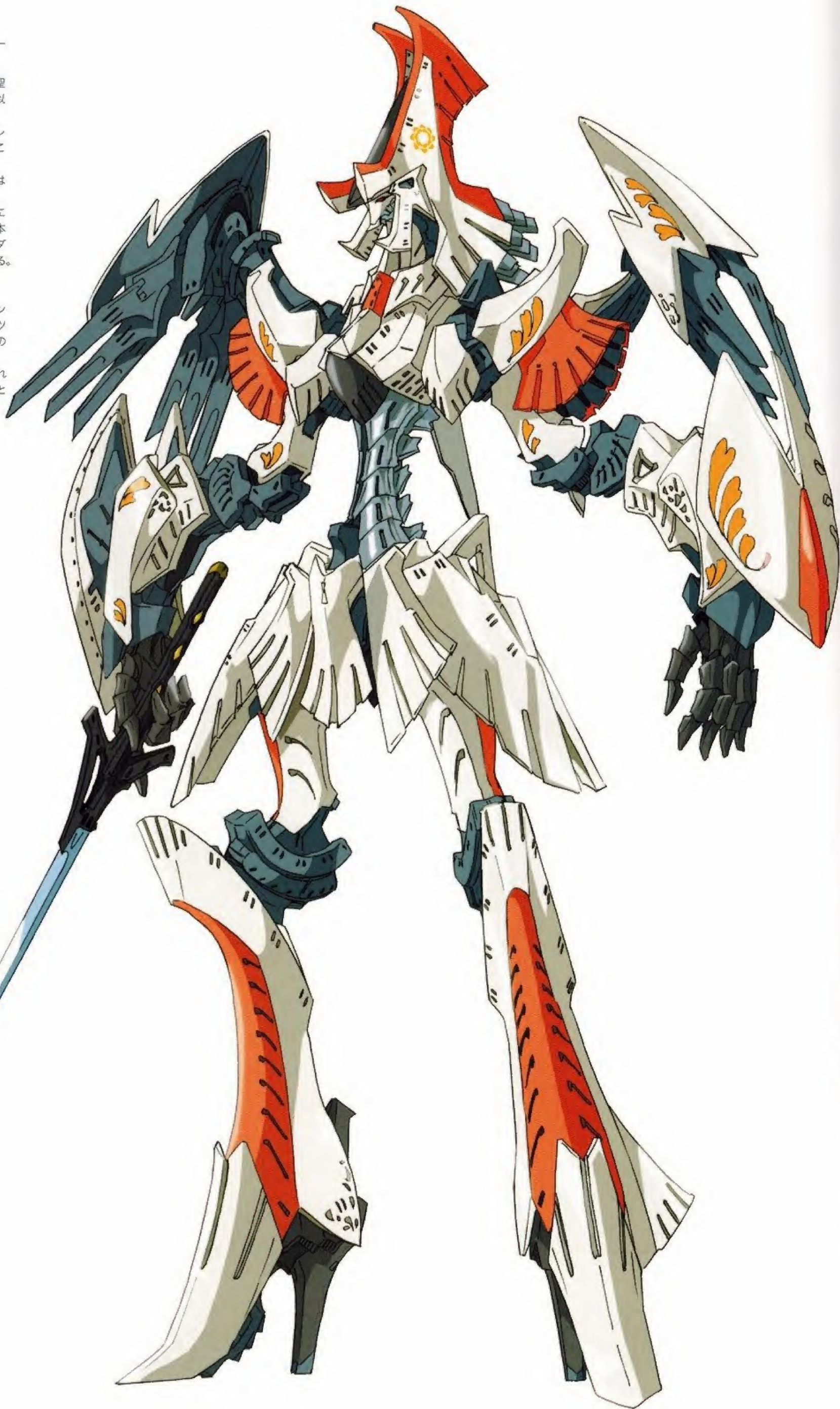
スパース隊などと同じくハスハント工場で生産される聖宮ラーン支隊のバーガ・ハリLAである。カラーリング以外、外見はほぼ同じである。

装甲カラーはパールベージュで、ラーンの女性支隊ドレスと合わせてある。また支隊カラーは紅色で、各所にこの色が入り、かなり派手である。

性能はバーガ・ハリBSとまったく同じで、そのあたりはスパース隊と双璧を成す聖宮ラーンの近衛支隊らしい。現在のラーン支隊はラーン滞在組とスパース市滞在組に分かれ、このLAもスパース市に数騎配備されている。本来詩女を護衛するためのバーガ・ハリであるが、マグダル不在のため、デブレ支隊に編入されているはずである。つまりGTMカイゼリンの護衛騎でもある。

連載再開当初、旧ハスハのバーガ・ハリは全てハスハント工場製のデザインで統一するつもりだったのだが、ツラック隊のKKでバリエーション化し、ジャグド隊だのBS-RだのBSコブラでその目論見は見事に外れた。仕方がないので4つあるバーガ・ハリの工場はそれぞれデザインの違うバーガ・ハリを製造しているということにして現在に至る。

手間がかかることはばかり選ぶなあ……。



ファティマ・ブレインズ デカダン・スーツ

Fatima Preince

身長162cm 体重42kg

カーツのパートナー。制作ガーランドはアルミオン・エイボス。
デカダン・スーツ姿である。
デカダン・スーツはヤーボのコンコードが着ていたものと同じデザインでM型に合わせたものなのだろう。色もS型のデカダン・スーツに比べると薄めである。
ビルド達が参戦するまではツラック隊のホスティングを務め、最後の戦いではビルド達の中継ホスト役を担当した。
アシリアは左のヌーリと同じである。



ツラック隊 副官 ノーザン・カーツ大佐

Kampf Trukk Co-Commander
Northan Karls

身長203cm 体重122kg

ツラック隊の支隊長付き副官。副支隊長。
階級は大佐でナルミと同じである。
元スキーン隊の大隊長で、開戦後の半壊したツラック隊にハスハントから派遣された。
支隊長ナルミよりも年上でベテランのカーツはナルミの相談役としてツラック隊を支える役目をもっている。
しかし、中央ハスハント出身の彼はミノグシア軍の意向を受け、厳しい戦況の中、ナルミ支隊長に撤退の助言を与えるという役目を本来持っていたはずである。
つまり、カーツは中央から派遣されたお目付役であったのだ。
だが、物語のとおり、果敢に戦いべらとべら国民を守り続けるというナルミにAP騎士団の存在意義そのものを考えるようになったのだろう。それ以後カーツは中央本部の意向を無視し続け、ナルミの右腕として戦い抜いた。ナルミがソープの助言を受け様々な生存戦略をスムーズに行えたのには、このカーツの見えないところでの働きかけがあったのであろう。





ツラック隊 第1大隊長
ユージン・ボレー大佐
Kampf Trukk 1st battalion Commander
Yujin Boray

身長198cm 体重110kg

階級は大佐でナルミ支隊長、カーツ副支隊長と同じである。

登場時よりキャラが立っている人物で支隊での戦歴は長い、見た目より若くまだ地球年齢で30になったかならないくらいである。主人公ソープに突っかかる人物はその後の出番も多いということか。

ツラック隊ではナルミ、カーツに次ぐ古参騎士となり、バーガ・ハリのみで構成された筆頭部隊の第1大隊を指揮する。自分より経験も戦歴もあるハレーというエース騎士に対しては、見た目より素直な人物なのでハレーを尊敬し、第1大隊長を譲ることも考えナルミに相談したようだが、大隊の部下達の信頼を考え、ハレーには第2大隊とベラ騎士連を任せることにしたようだ。

この最後の戦いでボレーもスコアを増やし、エース騎士の仲間入りをした。

ボレーの制服を見てのとおり、ショートマントは大隊長の飾りが首回りに付く。女性騎士と同じフリンジの付いたマントを着けるのが正式だが、ほとんどの男性騎士は取り払っている。マントは女性同様、胸に付くロックボタンで留めである。ジャグド隊のボルカノがマント付きの戦闘服で登場したが、マントの形状は支隊によって異なっているようである。



ファティマ・ヌーリ
アシリア・セバレート
Fatima Nouri

身長158cm 体重41kg

ボレーのパートナー。M型ファティマ。プリズム・コークス博士の製作したAFである。GTM制御スーツのアシリア・セバレートは先に登場したスキーン隊のライトイエローのアシリアとは色が異なる。ツラック隊のアシリアは薄いライトグリーンのレインボーカラーである。スバース隊は鮮やかなブラックグリーンとなる。M型なので手袋とブーツに付くウサギの毛皮のもこもこがかわいい。ツラック隊は激戦区なので騎士は結構適当な出で立ちで戦っているがファティマ達はきっちり正式な制服で戦っている。

ツラック隊 第3大隊長 エルディアイ・ツバンツヒ

Kampf Trukk 3rd Battalion Commander
L-D-I Zwanzig

身長192cm

ツバンツヒである。見てのとおり眉、腕以外にも身体中に入れ墨を入れているが、ツラック隊に入って目立ちすぎる容貌は、自分の存在をあまり公にしたいくないツバンツヒにとって邪魔なので消してしまったようである。

これは単行本に収録されたミース邸の地下の場面での衣装だが、単行本に収録されているキャラシートはつい作品集に収録するのを忘れ、「あれどの作品集に入ってたっけ？入ってねえ〜」ということが多く、忘れないうちに掲載である。
まあ、いろいろとご活躍のツバンツヒさんであるが、「スプラウト・ソング」最後のエピソードでも登場なさるので、期待である。
というか…その最後に登場するツバンツヒさんは…。
また、新しく描かなきゃ…。



ツラック隊 第1大隊副官 モーグ・ルセナー中佐

Kampf Trukk 1st Bbattalion Co-Commander
Moog Luthener

身長192cm 体重89kg

カーツやボレーと共にツラック隊の古参メンバー。ベラ出身。まだ若く、ボレーがGTMを故障させて戦闘に出られないため一時的に第1大隊長を務めていた。とはいってもこの時点で大隊は10騎に満たない小部隊だったので、本来の中隊長的な動きと変わらなかったはずである。そのモーグのGTMもソープが来た時には壊れていたのだが。

最後の攻防戦では枢軸軍の大集結にただひとりイルナーと前線に残り、枢軸軍の戦力と映像を送り続けていた。非常に危険な行動だが、電磁波妨害の高い戦場ではやはり肉眼での識別が最良なのだ。

枢軸はわざと自軍の戦力を見せつけることでツラック隊の士気を削ぐ事が目的であったのでモーグとイルナーがギャザリング(情報収集)しているのを見逃していたのだろう。

モーグのGTMスーツである。「あれ？」と感じた方もいると思うが、モーグの上衣は女性用GTMスーツと意匠が合わせてある。「リッター・ビクト」でも述べたが、騎士達の衣服は自前なので、規定の範囲内でカスタムできる。この上衣はきっとモーグがAP騎士に昇進した時の記念に作ったものであろう。上衣のサイドのバイピングやサイドの刺繍、ブーツにもツラック隊のカラーが入っている。この上衣は通常の上質なフラノとは違ってさらに高級なドスキン生地で作られ、服のラインがすっきり出る。そのため服にシワはほとんど出ない。重くなるのもっと軽い生地で作っている騎士も多いが、この生地の上衣ならばどこに出ても礼装として通用する。



**ツラック隊 第3大隊第6中隊長
エイチ・サイト中佐**

Kampf Trukk 3rd Battalion Co-Commander
Eighti Saito

身長201cm 95kg

ツラック隊の第6中隊長を務めていた。
次々と減っていく稼働バーガ・ハリとAP騎士の中で
ソープが来た当時は副官のカーツにエーティスとこの
サイトだけが出撃できる指揮官という状態だったのだ。
そのため残ったわずかなAP騎士とベラ国家騎士団を
まとめ、何とか国境で耐え続けていた。
実戦でGTMを撃破することは簡単ではなく、大破以上
でなければスコアは与えられない。
ツバンツヒと組んであっという間にGTM撃破スコア
を更新していくのに非常に驚いていた。
さすがツラック隊でGTMも壊さず生き抜いてきただ
けあって戦闘の勘は良く、ツバンツヒの初陣をきっ
ちりとサポートした。

ベラの戦いの後は、スバース隊を始め、さまざまな支
隊から異動要請や指揮官、教導部隊の教官などの話が
来ているようだが、北部が安定するまではとツラック
隊に在籍している。

**ツラック隊 第3大隊第7中隊長
エーティス・ミュクレー中佐**

Kampf Trukk 3rd Battalion Co-Commander
Edith Mücrie

身長188cm

第7中隊長としてサイトと共にツラック隊の中樞を
担い、ギリギリの戦力でベラ国境を守り通してきた。
サイトとは夫婦である。そのためかこの2人の連携
は非常に息が合うもので、ナルミもそれをわかった
上で、ツバンツヒの初陣のサポートをこの2人に任
せたのだ。2人のベテランコンビはツバンツヒも一
目で「任せて大丈夫」と見抜いたほどの腕である。

ソープが来てからは、少し余裕ができ、エーティス
は新しくやって来る志願騎士などを鍛えていたよう
である。
まあ、その中には怪しげな若い騎士だの変な売店の
売り子だのがいたのは気がついてはいたはずである。
ただ、そのことはツバンツヒにも伝えていたようで、
ツバンツヒと内密に調査をしていたようだ。

彼女が手に持っているのは野戦食のレバーペースト
にビクルスを混ぜたサンドイッチとフルーツカクテ
ル。果物のシロップ漬けでカロリーと栄養が補給で
きる。コクビットの中でも気軽に食べられるよう配
慮されている。コクビット内には長時間の作戦など
に備えて、こういった水や食事などが搭載されてい
る。ファティマが食事をとる時は騎士がコクビット
から放り上げたり、ファティマがGTMのプロムナ
ード(連絡通路)を降りてコクビットに入る。
ベラ戦以後は子供ができたので休職している。とは
いえ、戦闘になればまた指揮官として飛び出して行
くのだから。



ツラック隊 第3大隊 バイズビズ(ヴィンズ・ヴィズ)

Kampf Trukk 3rd Battalion Kampfritter Bero
Biz Viz ~ Vizvis (Z,K,K,M, No.Left 12)

身長200cm 体重89kg

ミラージュ騎士団Z,K,K,M,のレフト12。
ザンダシティの秘密結社「ローゼンクロイツ」のメンバーであったが、親分格のキュッキがどこかにすっ飛んでいったので、その後を追いかけるようにミラージュ入りした。
ミラージュに来たはいいが、キュッキ以上の半端ない強さのお姉様揃いだったので、ここで一生を過ごそうと誓ったようで、その短絡的な思考がアマテラスに気に入られたのかミラージュ入りした。ある意味忠誠と同じだからだろう。

本人はそういう性格だが、ローゼンクロイツ出身だけあり、スパイ活動や暗殺にかけては超一流で、場数も多く踏んでいる。ハスハには戦場偵察という名目で剣聖の戦いを見に来ていたのだが叶わず、その後、ログナーの命令でペラ国に潜入した。
ペラ騎士として潜入後はもっぱらツラック隊に送り込まれてくる枢軸のスパイを内密に処分していた。これは枢軸にとっていつまでも落とせないペラに多くの密偵が送り込まれるだろうと、ログナーは予想していたのだ。

ログナーが恐れたのはソーブが支隊にいて、その護衛も兼ねてミス宇宙軍とペアで送り込んだのだ。

ログナーが送り込むほどだからこの手の任務には相当の腕とみてよいのだろう。

その後、スパイであることがばれ、ツパンツヒと戦うことになったが、衝撃的に強いツパンツヒに負けた瞬間、子分モードとなり、攻防戦ではAP騎士として戦った。どのみちその後ツパンツヒはミラージュに来たので、バイズビズにとっては願ったり叶ったりである。攻防戦のラスト、姉貴分のキュッキとさらにその上のアイシャの戦いを見て単純にはしゃいでいたようである。

さすがミラージュ騎士である。



ファティマ・スパルタ

Fatima Spaluta

身長158cm 体重37kg

モラード・ファティマ。??え、お前モラード・ファティマだったの? し、知らなかった…。すまん。

作品集を作る時はたいてい以前の作品集を横に並べて設定や名前のスペルの確認などをしているのだが、ほぼ忘却の彼方というのはまあ、普通である。

スパルタは前のマスターを失った後、しばらくフロートテンブルにいたのだが、入れ替わるようにやって来たバイズビズを認め、そのままパートナーとなった。バイズビズにとっては初めてのファティマである。彼はローゼンクロイツでの活動でGTM戦闘が必要ではなく、それでまだファティマを取っていなかったというのがあったからである。

このアシリアスーツはペラ国家騎士団のもので、ミノグシアの国家騎士団は皆だいたい同じスーツである。ペラ攻防戦ではAP騎士団のアシリアに着替えていたが、数の多いS型でその分スーツの予備があったということなのだろう。これがもしL型だった日には大変である。たぶんそれまでのスーツを使い続けることになる。

最近の連載でお気づきのとおり、イグリドやエベレストなど、モラード・ファティマにナンバリングが入れられ始めた。いよいよタワーが登場してくるので、モラード・ファティマの全データもそろそろ発表しようかと思っている。





ファティマ・虹姫

Fatima Nijihime
VVS2-B-A-A-B2-A =S= SK 003 Bori

身長150cm 体重38kg

桜子のファティマ。

身長低い…。

普通のファティマの標準身長ではない。まあこの理由だけで「銘入り」というのがわかるファティマだが。ガーランドなりたての初期のファティマらしく、桜子がバランシェ・ファティマを目標に作っていた時代のものである。

ただ、当時はまだ経験も浅い桜子の作品で、工場製より遙かに上とはいえ、「チャンダナと同様の性格」というのは、「偶然そうっただけ」で、桜子はチャンダナと同じということにしてプライドを保った、というのがたぶん本当。なので虹姫の性格は桜子の後付けで、きっと桜子は同じものをもう1体作れと言われたら作れないはずである。

ひょうたんから駒的なファティマであるが、性能の方はあのおりかなり凄いの、情報収集がメイン仕事のマスターにとってはとても相性の良いファティマである。ミノグシア軍のアシリアばかりなのも飽きたので、バビロン騎士団のデカダン・スーツ…のはずなのだが、どう見ても正規のバビロン騎士団のスーツではない。

人生のほとんどを寝ているんじゃないかと言われるファティマである。

某国の密偵 エレナ・クニャジコフ

OWARAI GUMI from East
Elena Kuniazkova

身長175cm

ミス宇宙軍・お笑い組。物語中や作品集に隙あらば登場する神出鬼没のキャラクター。

ということで、バイズビズと共にいきなりツラック隊に編入となった某国のスパイだが、急だったので、ローラーガールのタンクトップとショートパンツの上にそのままAP騎士団の女性用GTMスーツを着込んでいる。彼女は背が低いので、一番小さなサイズでもかなり大きかったはずだが、制服がドルマンスリーブのワンピースなので、だぶついた感じはあまりない。ブーツだけは合うものがなかったので自前のようだ。まあさすがミス宇宙軍、このようにスカートをたくし上げてきっちり着こなしていた。よく見ると袖も折り込んでいる。

ツパンツヒにしてみれば強力な騎士が一気に2人も第3大隊に入ってくれたため、心強かったであろう。最後のジッドの突撃の時に単騎でハレーのための道を開けに行けたのもバイズビズとエレナがケツ持ちとサポートを受け持ってくれていたからである。スピードが全てのあの状況で囲まれてもしたら、ツパンツヒは敵を一撃で撃破したとしても数秒のロスが出てしまう。超高レベルの騎士の戦闘にバイズビズとエレナはしっかり付いていったということである。もちろんAPのサイトとエーティスが大隊をしっかり引き受け、手慣れた見事な連携をしていたというもある。この時の第3大隊全軍の突撃はレイスルを分断し、奇襲された本陣までの道と壁を作ったのである。その勢いはツラック隊全軍の動きをさらに活性化させたのだ。



サムナー・カロン技術少佐

GTM Maintenance in Chief
Sammner Karon Major in Technology

身長168cm 体重70kg



ツラック隊の技術将校。整備主任。

胸元を見てもわかるとおり2本線のアジャスター称号で、博士号を持つGTM整備技術士である。またツラック隊のGTM整備大隊の指揮官でもある。

消耗し尽くしているツラック隊でわずかな整備員と共に奮戦していた。眠るヒマなどなかったことであろう。

そこにおちゃらけた服装のソープとラキシスが来たのだ。スライダーという高位称号を持っていたもあれでは誰も好感は持てない。いきなり自分のテリトリーにやって来たスライダー様にどう協力しろというのか？ やり方を変えるのか？ 整備員達も同じ心境だったのだろう。

そんなソープに原因不明の故障で動かないバーガ・ハリを一発で直され、カロンは目が覚めたという。

見た目の偏見や自分のアジャスター称号、ツラック隊を切り盛りしてきた整備主任というプライドはGTMを修理することに対して何の意味もないことだと。

ナルミはベラを守るために。自分達は騎士に1騎でも多くのGTMを渡すために。それが自分がこの場所にいる意味だと。

ソープが来てからのツラック隊の整備員達は猛烈な勢いでGTMの修理、回収、調整、パーツ交換をやっていた。

ソープが現場で教えるバーガ・ハリの整備、調整技術はツラック隊の整備レベルを一気に上げ、ベラ戦終了後もツラック隊の整備はハスハント1と言われるまでになったという。

いろいろな意味でソープはツラック隊に大きなものを残していったのである。いつの間にかいなくなったソープとラキシス。カロンは生涯この2人のことを語り継ぐのであろう。

戦闘シーンや派手な騎士、ファティマを描くのはめんどくさいが、こういう整備や後方で働くキャラクターを描くのは大好きである。だいたいキャラデザインのパワーのかけ方が違う。カロン技術長は隙あらばどこかに登場しているので、かなりお気に入りのキャラだったのだと思う。

ミース・シルバー・バランシェ伯爵

Fatima Garland
Count, Meath Silver Ballanche

身長165cm

ツバツツヒと同じく単行本には収録されたのに作品集に載せていなかったミースの黒服である。

随分大人になったが中身は子供というのはモラードやコークスの願望かもしれないが、アララギ・ハイトの反応どおり、ものすごい美人である。

ミースは物語中でもかなりのガーランドスーツを持っていることがわかる。ページでのバットマ軍の治療時はバランシェらしいウルトラマリンプルーと白であったが、それ以降はいろいろな服を着ている。桜子もそうだが、この辺は女性ガーランドということだろう。

ペラの攻防戦ではファティマ達をも上回るカウンターコード（プログラム破壊コード）を自ら書いていたが、ガーランドにしてみればファティマ達の演算能力は自分が教えて作ったようなものなので当然としても、やはりそこはバランシェの名を継ぐガーランドたるべく、バランシェ・ファティマのマドリガルが作り出すであろう妨害コードを予測してそのカウンターコードを作っていたのだ。やっぱりこのあたりはもう常人には理解不可能な世界である。

しかしミースがツラック隊に来ていなければずっとマドリガルのクロス・ジャマーの中で戦うことになり、さらに苦戦していたはずである。

ビルドを連れてきたおまけとはいえ、ガーランドが戦闘に加わる時の恐ろしさが周囲にいた情報部隊には驚愕だったことであろう。

もちろん医療大隊を編成しての活躍も半端ではない。戦闘の後、最も忙しかったのはミースで、敵味方問わず負傷した騎士やファティマ、最優先の一般兵士を治療していたのだ。えらい。

ソープ、いやアマテラスは賞賛を含めてミースのことを「バランシェ博士」と呼ぶようになったが、バランシェという名を持った以上、こうなっていくのだろうなと思ったのだろう。その後のアマテラスがミースを見る目はとても優しい。



スパチュラ隊 支隊長

カーリム・玲於奈

AP Kampf Spacyula Commander
Carimoon Reona

身長190cm



AP騎士団・スパチュラ隊、支隊長。

北部ミノグシアのバトラントに駐留していたスパチュラ隊は開戦時、二つに分裂した。前支隊長オノラ・ドウセンはミノグシア軍と合流すべく、カツウェー公国へと1個大隊を率いて離脱した。後を副支隊長であったカーリムに任せ、離脱組は現在もエンブリヨ隊と共に三つ星傭兵騎士団、ドレンノ連邦軍と戦っている。

分裂したのはハスハからの造反ではなく、バトラントとイェンシングが中立を決め込み、枢軸とは戦わないという結論を出したからである。

AP騎士団としてミノグシア全土を守る姿勢を貫きたいスパチュラ隊と、バトラント国会との間には大きな隔たりがあり、苦渋の策として支隊長が離脱という形でスパチュラ隊は分裂したのである。

部隊をこれ以上大きく離脱させなかったのにはベラ方面よりも南部のナカカラ国境から枢軸に攻め込まれることを恐れ、支隊の大半をバトラントに残さざるを得なかったのだ。

残されたカーリムはスパチュラ隊の支隊長としてバトラントの防衛にあたることになった。国会に枢軸との戦いを説得するためにもスパチュラ隊はバトラントを離れず戦線を監視していたのだが、ベラ国境で大規模な枢軸軍が集結するという事態にすぐ反応した。ベラが落ちればそのまま枢軸は北部に侵攻してくると。物語のセリフどおり、バトラントに残るスパチュラ隊の半数を率いベラ攻防戦に参加した。

カーリムはかつて教導部隊の教官であったハレーのもとにいたことがあり、ベラ国境での再会はハレーが騎士に復帰したこと、スパチュラ隊として枢軸と戦えることの二重のうれしさがあつたであろう。

ベラの戦いの後、北部ミノグシア各国は旧ハスハとそれを引き継いだ現在のミノグシア連合を完全には信用していないが、少なくともAP騎士団のスパチュラ隊とジャード隊はツラック隊と共に北部限定で共闘をすると約束したのである。

今回のキャラ解説はベラ戦の各国の動きだの戦略だのがあり、連載では描ききれなかった各国家のその時の状況を可能な限り解説していますが、あんたらねえ、こちとらもう必死で何枚も何枚も地図作って、ここにウモス来るからここには〜とか言いながら毎月考えていたのだ。偉い！誰も言ってくれないので自分で褒めておく。

戯言はさておき、初登場のスパチュラ隊の制服である。

カーリムはスパチュラ隊が分離した後の支隊長なので、制服もGTMスーツも完全に支隊長様式ではない。GTMスーツは見てのとおりオーソドックスなカッティングだが、支隊カラーである水色がポイントで入っている。装飾はさすがに手が込んでいるが、葉っぱの文様はスパチュラ隊のツタの絡み合うマークと合わせてあるのだろう。この文様は彼女だけで、他の騎士は普通のスーツである。ブーツも若干仕様が異なるが、ヒン同様、履きやすいものを選んでいるようだ。

ヤーボから続くこの制服だが、サイドの文様の入るところにはフリンジが付いていない。なんで？とか思っていた方はきっといるに違いないが、誰も聞いてくれないので言っとく。

サイドにフリンジが入っていないのは動いた時にこのサイドから足が見えるようにするためで、女性騎士達の長い足をさらに強調し、つまるところ見せびらかすためである。

ジャーグド隊 支隊長 ボルカノ・ストーン

AP Kampf Jorgud Commander
Borkerno Stone

身長205cm 体重110kg

AP騎士団・ジャーグド隊、支隊長。

北部ミノグシアのイェンシング共和国を担当するジャーグド隊はイェンシング共和国国会と隣のパトラント共和国国会との間で中立を保つという決定が出され、無傷のまま隣のスパチュラ隊と国境を監視することとなった。ジャーグド隊が動けなかったのはイェンシングにあるバーガ・ハリ製造工場をなんとかして守らなければならなかったという理由もある。

南のペラでは枢軸の侵攻が激しく、ツラック隊が半壊しているという事実を知っていたが、国会の意向に逆らうことは造反であり、AP騎士団としてもイェンシングを捨てて戦いに参加することはできなかった。

だが、苦戦し消耗するペラに対して支隊長のボルカノは自軍防衛のためにイェンシング工場で増産されていたバーガ・ハリを何とかペラに渡せないかと模索していた。ペラの内情を見れば騎士は次々集まり、異様なGTM稼働率を維持しているとしても、やがては消耗し尽くし、足りなくなるのはGTMと補充パーツであるとわかっていたのだ。

ボルカノとスパチュラのカーリム支隊長は両国会に「ペラが落とされれば次は北部。それを阻止するためにもペラにGTMを送り、北への盾となり続けてもらわなければいけない」と説き伏せた結果、ペラにイェンシングからバーガ・ハリが届けられたのである。もちろんボルカノもカーリムもツラック隊に盾になり続けて欲しいなどとは思ってはおらず、自国の安泰だけを考える国会と国民に対する方便であった。

ペラ攻防戦にはスパチュラ隊と共に参戦し、劣勢で過酷な戦いになると踏み、補給部隊と支援部隊を可能な限り同行させてきたようである。

といっても明らかに不利な戦いで、ボルカノもカーリムも生きては帰れないと覚悟を決めた参戦であった。どのみち枢軸の大軍がペラを制圧すれば結果は同じで、少しでも枢軸の戦力を減らそうと駆けつけたのだ。

参戦してすぐにツラック隊の傘下に入ったが、AP支隊としての格はジャーグド、スパチュラの方が上である。しかし戦場を仕切るのはツラック隊なので当然のようにナルミの指揮下に入ったのだ。もちろん戦い続けるナルミとツラック隊に最大の敬意を払っていたのは間違いない。

ジャーグド隊の制服である。

ロングコート状なのは支隊長であるボルカノだけで、フリンジも付いている。マントはジャーグド隊固有のもので、支隊カラーの藤色で刺繍してある。仕立てはスパス隊のランドのものに似ているので、男性騎士服にはロングコートバージョンがあるのだろう。

支隊のマークは黒のスペード。トランプのスペードと同じで力や剣をイメージさせる。付けている意味も戦闘機や軍用車両に付いている理由と同じなのだろう。支隊カラーは9ページに一覧が出ているが、注意して欲しいのはバーガ・ハリの騎体色ではなく、支隊カラーは頭部などの差し色として使われていたり、支隊マークに入っているくらいである。





コーラス王朝 王女
セイレイ・コーラス

Trio de Co-Lus Corps General
Co-Lus Princess Seirei Co-Lus

身長172cm

コーラス王朝王女。
パートナーはアルセニック・バランスのシクローン。
体重が公開されているのはセイレイだからである。とはいえ成長期なのでまだまだ身長は伸びていくだろう。

着ている服はハスハのスパース女学院の制服である。ミノグシアに潜入する時、警戒されないように調達してきた物だが、既製品なので騎士であるセイレイにはかなり窮屈なサイズである。そこかしこばつばつで手足が飛び出ている感が半端ない。肩幅なんて合っていないので飛び上がっている。

行動そのものは見境のない感情的なものだが、それが実際にできるかどうかで結局人間の価値は決まるのかもしれない。アイシャを含め、国家の王女としてのセイレイに一目置いた者は多かったであろう。

ベラ戦後、セイレイはもちろんアイシャ達の参戦にきっちり落とし前を付けた。ミラージュの参戦は枢軸に囲まれたセイレイ達を救出するためのもので、コーラスはA.K.D.に対して大きな借りを作ったこと、アイシャらがバツハトマ軍を壊滅させたのは気のせい、大半はコーラスの戦果であることなど、ミノグシアに対して説明したという。その口裏合わせにアイシャはランドのいるスパース市に来たのだ。

もちろんミノグシアにも星団各国にもミラージュがバツハトマに対して「個人的なわだかまり」を持っていることは周知されていたので、アイシャらの参戦はほぼ全ての国家では不問とされ、「A.K.D.の参戦ではない」とされた。この辺もセイレイの采配の賢さであろう。

ファティマ・ラ・シクローン

Fatima La Cyclone

身長163cm 体重42kg

アルセニック・バランスのファティマ。
「風のファティマ」と呼ばれる。問題はタイ・フォンが長女としてもシクローン、モンスーン、ユリゲンヌの誰が長女なのかわからないというところか。設定はしてない。3つ子みたいなので姉妹の上下関係はないのかもしれないが、彼女らとて「ラ」を持つフローレス・ファティマなのだが、マスターが揃ってあんなので、彼女らがフローレスということ結構忘れられている。とはいえ、後半のファティマ大集合の状態では、全員が風のファティマに敬称を付けて呼んでいたんで、ファティマ間ではやはりこのシクローン達は別格ということなのだろう。





コーラス王朝軍 お目付役 マロリー・ハイアラキ・マイルスナー

Trio de Co-Lus Corps Co Commander
Meistner Princess Mallory Hiarak

身長180cm

コーラス王朝軍お目付役。
なのだが正式にコーラス軍に加わることからマロリー王女と呼ばれている。ルース家長女でトラン連邦大統領ミッション・ルースの実の妹。マロリーの参戦は国際的にはトランの関与と取られるのを配慮して、マイルスナー家の王女という肩書きでセイレイと行動を共にしている。ハスハ参戦に兄のボードの反応は不明だが、お互いに不干渉ということで距離を置いている空気もある。ともあれもうマイルスナー王家に嫁いだと認識されているので、今後はマロリー・マイルスナーと正式には呼ばれるはずである。

口は悪いがボード同様にセイレイの気持ちや自分の疑問をきちんと分析し、自分達では戦力不足と判断し、アイシャに助力を求めるとか、セイレイ以上に活動的である。後先考えてないのはマロリーの方かもしれないが、きちんとセイレイのサポートに徹していた。これは大統領の妹として政治に関わることはなかったマロリーが、セイレイが国家を背負って動いていることに少しでも助力したいと思った結果なのだろう。その損得抜きでの行動はやはりどこかボードと似ている。スパース女学院の制服を着た自分を「痛い」とか言っていたが、まあ、ギリギリ大丈夫なお年頃である。



ファティマ・ラ・モンズーン

Fatima La Mousson

身長162cm 体重39kg

マロリーのパートナー。アルセニックのファティマでフローレス・ファティマ。
ヒッチハイクを繰り返し行き着いた先はベラ攻防戦と、マロリーと一緒に出てきた時にはさすがのモンズーンも予想できなかったことだろう。バランシェ家のファティマ同士の戦いとなったが、まあ、決着は付かずというところだろう。敵となったマドリガルも令令附も風のファティマまで参戦してくると思わなかったに違いない。いや、当然だけど。
ベラの戦いは星団全土のガーランドや騎士、幕僚達にとっても非常に興味深い戦いであつたはずだ。これだけのファティマ達がクロス・ジャマーに関わった戦いなど今までなかったはずで、最後の最後はアグライアが「ストライパー」まで起動する電子情報戦であつたとも言えるからだ。

コクピット内の彼女らの前に投影されるいくつかの幾何学模様やデータは、GTMの制御にアナログなスイッチやパネル、空中投影パネルなどがまったく必要ないということを示している。ああ、そういう時代なのだと再認識するのである。彼女らは頭脳の中でたくさんのタスクを処理しているのだが、一応目視でも自分のやっているタスクや他のファティマからの情報を投影することで、騎士との会話などを中断せずに行っているのだ。会話には演算とは別の大脳の機能を使うためである。



コーラス王朝 旗騎GTM HL1 SR2m

Trio de Co-Lus Flagship GTM HI-RHIANNON HL-1 SR2

全高25.2m 自重244t

コーラス王朝の旗騎GTM。実際には「SR1」が存在するので同型機シリーズ2という呼び方をされる。

セイレイの持つ白にオレンジカラーのSR3cとまったく同じで、このマロリーのHL1 SR2ではグリーンが使われている。詳しくは前作の「リッター・ピクト」にあるので、そちらを参照いただきたい。

小型のフレームなので発熱量も多いらしく、下脚部には多くのスリットがあるが、さらに放熱パーツとして脚部側面のパネルが開き、そこから熱を強制排出している。見てもらえばわかるがこの放熱パネルのヒンジもツインスイングである。GTMのあらゆるパーツはこういうスイング可動で、単純にぱかんと開いたりしない。上にスイングスライドしてから横にアーチ状に開く。また前後に振り子のようにスイングして足の動きの邪魔にならないよう動く。2段階のアクションだが実際にはワンアクションで稼働している。

HL1の制作順としては
アルル(ハリコン)のHL1 SR1
このマイスナーのHL1 SR2
コーラス3のHL1 SR3

であるが、2989年にSR3は大破し、ソープの手によって「エンドレス」という別物のGTMに生まれ変わった。そのためSR3はもう1騎作られ、それがセイレイの駆っているHL1 SR3である。

エンドレスはその後SR4とも呼称されている。また、最初のSR1は剣聖ハリコンが使用していたために若干仕様が変わっている。

ピチカート公国 シェン・ラン騎士団長
アイリーン・ジョル

Principality of Pizzicato Kampritter Schenran
General Irene Jar

身長195cm

元コーラス王朝トリオ騎士団近衛大隊長。

現在はピチカート公国のシェン・ラン騎士団の団長。ピチカートはその音楽的な名前の通りコーラス王家ゆかりの公国で、コーラス王朝の一部でもあるが、対外的には独立国家である。

今のイギリスとオーストラリアなどの関係に似ているかもしれない。

高校時代からの同級生であるエルメラ・フロンドゥ・コーラス王妃の依頼でセイレイのお目付役兼援軍として参戦した。名義上はコーラス王朝軍である。セイレイとは古くからの知り合いで、相当セイレイを鍛えていたのである。

パートナーはバランシェが工房を作る以前のファティマ、バトラで、ナンバリングは入れられていないが、バランシェ・ファティマ達はクーンよりも上の姉として認識している。ただ、モンスーンはアルセニックのファティマからは妹にあたるために、モンスーンはバトラと呼び捨てにしていた。マドリガルらからはバトラ姉様となる。

意外とファティマ達は上下関係ではなく製造年や制作ガーランドから相手ファティマに対して呼び方を変えている。

初代ファティマであるニープやSSLに対しては全てのファティマは敬称付けで喚び、またエストなどに対してはほとんどのファティマが「様」付けで呼ぶ。



ソーブ様のひみつ

なんと、連載30年にしてようやく主人公、ソーブのいろいろ解説である。なんたることか！ご堪能いただきたい。

胸の浮き上がる紋章

胸には中央部に浮き上がる紋章がある。入れ墨ではなく何らかのきっかけで浮き上がるようになっているようだ。天照家の紋章の他、Z,K,K,M,の漆黒の花十字の紋章も浮かび上がるようである。

ベルト

革の編み込みベルト、もしくは丈夫なキャンバス生地で織り込まれた布のベルト。数本持っているらしく、ツラック隊でも数種類見られる。ズボンにベルトは普通だが、上着にベルトは基本的に作業用、仕事用である。本人もそのつもりらしい。

ポーチとポケットの中

珍しく14巻ではいつもぶら下げていた。頑丈な牛革に巻き取り縁の入ったボックス型のポーチである。硬い。中に入っているのは、ツラック隊IDを兼ねるデータポッド（マルチデバイス、通信、認証からお買い物まで色々な機能がある。隊から支給される軍用品）、プレスレット（言わずと知れたGTMマグナバレス、及び全ミラージュGTMの強制外部操作デバイス。ソーブ以外はパワーオンにすらならない）、爪切り、カン口飴3コ（おやつにもらったもの）。パンツの両サイドのポケットにはパイル地のハンドタオルなどを入れているようだ。

靴下

どこにでもある3足千円くらいの綿のリブソックスを三つ折りにして履いている。女性から三つ折りじゃなくて二つ折りくらいじゃないとあの折り込んだ幅にならない、三つ折りだともっとぼてっとなりますと、連載開始以来いるんな人に言われているが、知ったこっちゃね——。二つ折りより三つ折りの方が語呂がいいからじゃ——！素足だと足が荒れるので履いているだけと思われる。

不思議な頭脳

生化学者が最も頭を悩ませるところ。見た目は普通の人間と同じ大脳系列なのだろうが、ソーブには本来生物の持つ本能が全て欠落している。これは行動だけでなく、会話であったり、とっさの反応であったり、喜怒哀楽という感情であったり、子孫を残すために重要な愛情や性欲も全て欠落している。

人間が、生物が本能として持つ感情や行動は「子孫を残す～自分の遺伝子を残す」ということに左右されるので、これがないソーブ（アマテラス）には防衛本能もない。生物が食事を取るのも同じ理由で、生き延びるとか死にたくないという本能に付随するものだ。しかしソーブは、死なないからこういう本能は必要ない。まあ当然である。

もしかすると不老不死の代償には生き延びることという本能が必要なくなるので、本能と感情の欠落というのがあるのかもしれないが、論じること自体、無意味である。

14巻ではついに死んでいたカイエンを蘇生することをやってのけたが、これは自分が手を下したのと同様なので、「なかったことにした」だけなのだ。それ以外の理由はない。

謎な行動パターンは今後も続いていく。今後「あの時は超常の力を使ったのに、同様のパターンのこの時にはなぜ使わなかったのか」というシーンがあるかもしれないが、「そんなのわからない」のひとつで終わってしまうだろう。

これはセントリーの行動も同じである。

長い黒髪

足もとと同様、GTMステープルの中を髪もひつつめずに長いまま作業しているのは本当に危険。旋盤や重機に長い髪が巻き込まれる危険や、引っかかって頭が持って行かれるとか考えていないのか、工場の保安責任者は頭が痛いところであろう。ラキシスですら髪の毛を束ねて作業しているというのに。スライダーというのは特権階級だからといってあんまりである。

サンダル

いつも革製のサンダルを履いているが、きっと同じものはいくつも持っている。このローマタイプのもので編み込みタイプ（ジュノー戦）のものを持っているのが確認されている。ブランドものなどではなく、オーダーで作ってもらった男女兼用の細い幅のベルトのものがお気に入りらしい。

本当は危険物や危ないものが散らばっているGTMステープルや工場でこんなつま先の出るサンダルを履いていれば速攻でつまみ出されるものだが、きっとソーブは「このサンダルじゃないとGTMから来る振動を把握できないので底の厚い靴は履けないのです」とか言っているに違いない。スライダーにそう言われたら反論できる者などはいないだろう。実際ソーブは遠くから来るGTMを地面から伝わる振動だけでたいてい言い当ててしまうのも事実だ。まあ嘘ではないのだろう。

が、やっぱり危ないのでトホホなことには変わりはない。GTMの洗浄のために強酸や強アルカリの液体が床に飛び散っていることだってあるのだから、サンダルはやめとけ——。と言いたい。

ラキシス 軍務服(特務曹長)

Chief Warrant Officer in GTM Maintenance
Lachesis

ツパンツヒと買い物に行った時のミノグシア軍制服である。女性用の下士官作業服を自分なりに着こなしている。彼女のツラック隊での階級は「特務曹長」で技術「士官」扱いである。スライダーの補助という役割なので特務曹長の肩書きになったと思われる。本当は特務曹長という呼び方はいろいろとややこしいのでここでは省くが、多くの国家では「准士官」という呼称が多い。「非常に秀でた特殊技術を持つ者」という使われ方で士官同等の扱いである。軍階級の准尉とは若干異なるのだが、同義で使われている場合もありややこしい。

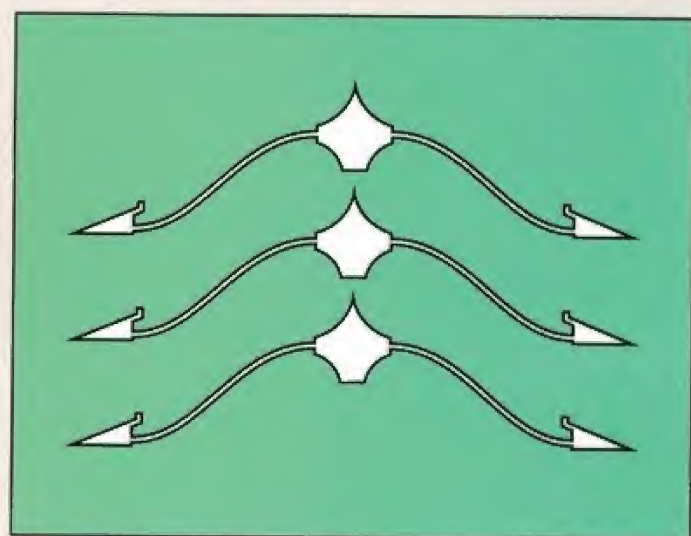
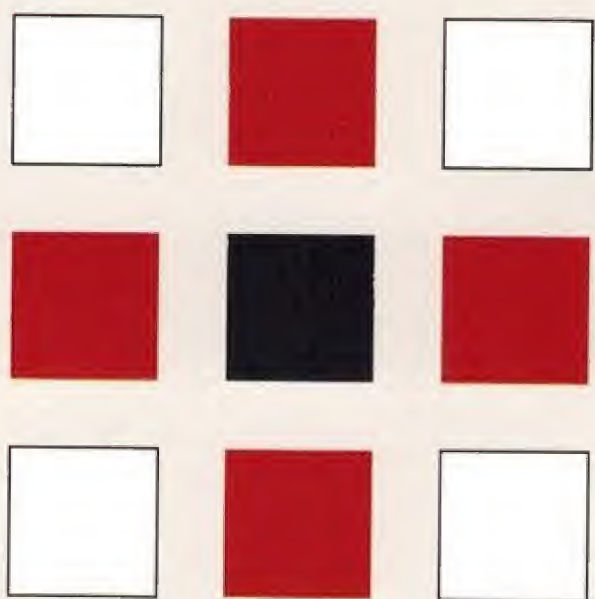
下衣は「リッター・ピクト」のミリタリーパンツと同じものだが、上衣は正式なツラック隊の軍服である。小さいラキシスには上衣も階級章もかなり大きく見える。下衣は裾が長いので安全ピンで留めているのは前と同じ。靴は正式な整備用軍用ブーツで、つま先には耐衝撃保護材が入っている。まあ危険物の多い整備場では必須である。胸にあるのは勲章の略章ではなく、ID所属の名札である。

ツラック隊の現状を公開する時に大きなGTMパーツのカーゴをよるよる押すラキシスの場面が映し出され、星団中の同情を買った。「ツラック隊を援助しなければ！」という空気を後押ししたのは間違いない。まあ、言わなくてもわかると思うが、ラキシスは1トンくらいの貨物なら片手で運んでしまうのだが、それは見せられないのと、おやつがなくなって本当に非力状態だったのかもしれないので正確なところはわからない。このニュースを多くの人が見たが、だれもラキシスだと気がつかなかったのはある意味凄いな。溶け込み方半端ない。ただ、さすがにフロートテンブルの目つきの悪いガキはひと目で気がつき、ミス宇宙軍を派遣することになったのだが。

結構ツラック隊ではラキシスの生の生態が出ていたが、よくわかるのは脱皮に失敗した時のラキシスの部屋に散乱するたくさんのお菓子。ベラの観光案内やお菓子などだ。ソープと一緒にいろいろなところに行ったり、一緒に仕事をしたり、実際には戦場なのでできないとしてもそんなものをいつの間にか集めているのがいいらしい。本当に一緒に何かしているということが彼女にとっては一番大切なことだったのだろう。

ソープすら威嚇する恐ろしい一面もあるが、中身はまったく変わっていないのがさすがヒロインである。なんでもかこの手の美少女が軍服を着ると萌え度が上がるのかツラック隊でのラキシスの人気は高い。意外だ。

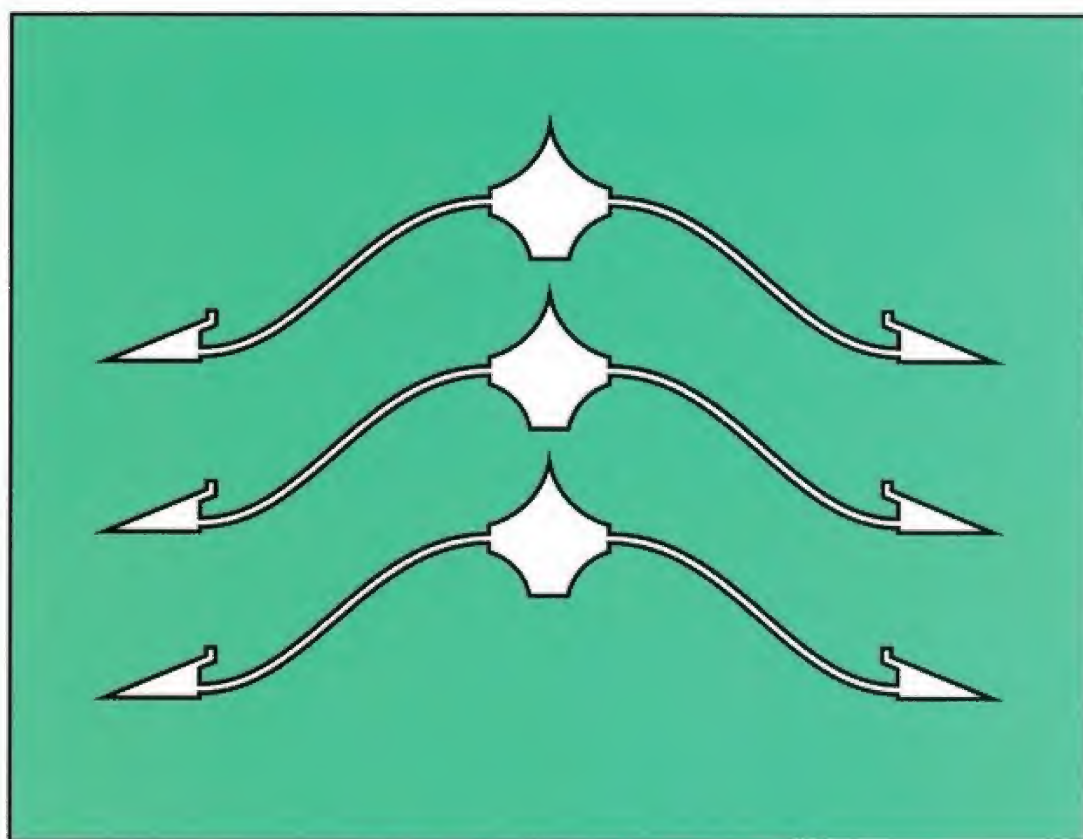




RAIDERS

枢軸軍





Empire ROSSO

ロッソ帝国
ヴーグラ騎士団





枢軸軍占領地



ロツゾ帝国皇帝
レオ・ブーチェル
Emperor Reo Vouchell

身長180cm 体重88kg

今だ本編には未登場。
ロツゾ帝国皇帝。
フィルモアやクバルカンとは違い枢軸軍の中核としてハスハントの大半を現在占領している。
上の枢軸占領地図を見てもわかるとおり、その占領地域は広く、その大半がまだ戦場である。ロツゾがこのミノグシア戦線に投入しているGTMの数は1200騎を超えるが、全てが正規軍というわけではなく、ロツゾ傭兵騎士団や影響下にある中小騎士団の数も含んでいる。正規軍は800騎ほどで、まだ本国には同数以上のGTMがあるとみられている。
ロツゾのブーチェル皇帝が永久にハスハントを支配し、ロツゾ帝国の一部として確保しようとしているのかどうかは不明だが、カラミティの大国のひとつとしてはボオス星に領土を得たいという明確な目的を持っているのは確かである。

ロツゾ帝国の立ち位置

カラミティ星の南部、フィルモア帝国の南に位置するロツゾ帝国の参戦目的は明白で、ミノグシアの覇権の一角に食い込むことである。カラミティ星の大国フィルモアとクバルカンは別目的で参戦していることは明らかで、参加した枢軸国の多くはフィルモアなどと戦を交えることなくミノグシアを弱体化させ、その国土と利益を得ることである。
また、ロツゾは重産業国家でもあり、このボオス星の戦いで多くのGTMや兵器を他国に売るという目的もあった。

開戦時からロツゾはバツハトマと共に旧ハスハントに進軍し、現在はハスハントの半分近くをその支配下に置いている。
バツハトマのボスヤスフオートによって統治下に置かないことを明言されたが、現在旧首都にはロツゾ軍を主体として枢軸各国の司令部が置かれている。

ベラ攻防戦

短期決戦で終わった首都ベイジ攻略後はバツハトマが西のノウランを目指し、ロツゾは全軍を南下させ、シーゾス国境を目指し、スバース市を包囲する予定だったのだが、ハスハント東部を担当するはずであったウモス他4ヶ国連合軍がイーストカステボーで巨大な雷によって壊滅し非常事態となった。
それを受けすぐにロツゾは半数の戦力をハスハント北部に向かわせ、北部守備軍のツラック隊を半壊させた。
バツハトマのノウラン侵攻が遅れたのにはこういう理由があったのだ。

その後、ロツゾはベラの攻略をロツゾ傭兵騎士団に任せ、消耗戦でベラを落とす算段であった。しかし、ベラの戦いは思いのほか手こずることにになり、最後にはついに近衛騎士団である「ヴァーグラ騎士団」がロツゾ本国より出撃した。

このベラでの枢軸の主導権を取ったのはウモスで、お膳立てがバツハトマであったのは物語を読むとおりである。

ウモスとガマッシャーンは出遅れた枢軸として占領地域はあまりなく、自由に動ける戦力が多かったのに対して、すでに大軍をハスハントの占領下に配備していたロツゾは正規軍をハスハント占領地から離れさせるわけにはいかず、また、初期侵攻目的であったベラを他国に任せるわけにもいかずという理由で近衛騎士団ヴァーグラを出陣させたということである。もちろんだからと落とすこともできないベラに対して最強騎士団をもって早期決着を付けたいということもあったのだ。

ロッゾ帝国 総騎士団長
ダックナード・ボア・ジィ

Empire Rosso General Kampfritter
Sir, Doocnard Bor Sie

身長210cm 体重103kg

ロッゾ帝国筆頭騎士で全軍司令官。
ブーチェル皇帝から戦争の全権を任せられ、ベラ攻防戦でもバツハトマ、ウモスと連携を取って軍を出した。大軍による早期決着を付けるために開戦時ですら投入されなかった近衛筆頭騎士団ヴーグラを出撃させた。これには中心となるウモスに配慮してのことである。もともとハスハントにはロッゾ正規軍が大量に配備されており、それぞれがミノグシア連合AP支隊と戦闘しているためにそうそう動かせず、かといってそれまで担当していた北部戦線を他国に任せるわけにもいかずと言うことでウモス、バツハトマの話に乗ったのだが、少数精鋭のヴーグラを送り込むことによる軍のアピールもその目的であった。ロッゾとしても苦しい選択であったのは間違いない。

ウモスに華を持たせるために自らは出撃せず、グレースに一任したのもそういう理由があったからなのだ。ダックナードはレイスルのナオの動きを見てすぐに軍を引かせる命令をグレースに出した。ミラージュという伏兵とすでに数においては同等となり、奇襲失敗でツラック隊の士気が上がった状態で勝つどころか自軍の損害が増えるだけというのをなんとしても避けたかったのである。

後の枢軸軍会議では真っ先に軍を引かせたのはレイスルのナオであるが、これは崩壊したバツハトマ軍を救出するためという見事な大義があったため丸く収まったというのがこの戦いの結論である。後の会議ではボスヤスフォート自らがバツハトマの失策であったとわびたことで枢軸軍各国のメンツは立ったのである。

ということで、ダックナードさんは再録だが、ガット・ブロウが追加されている。しかしなんだかごついガット・ブロウもダックナードが持つとつまようじみたいである。ヴーグラ騎士団の持つものだが、金の装飾が入った特別製である。

筆頭ファティマ・ネロス

Empire Rosso Flagship Fatima Neros

身長156cm 体重40kg

再録。ネロスはダックナードのパートナーでロッゾ帝国の筆頭ファティマとなる。ガーランドはエトラムルの設計者でもあるエーロッテン・ニトロゲン博士で、「ベルダ」の妹にあたる。

エトラムルの産みの親、ガリユー・エトラムルはエーロッテン・ニトロゲン博士の別名であることがマウザーの言葉でわかったが、そのニトロゲン博士が作った数少ないファティマで、その性能はどのファティマも特筆すべき高性能であると言われている。

ロッゾのアシリアはもこもこなどが付きとても愛らしいが、デカダグスーツは騎士達の制服に合わせたものとなっている。凛としたスタイリッシュなスーツは制服と言ってもおかしくない。

ただし、このダークカラーはネロスとマドリガルくらいで、他のヴーグラのファティマ達はライトブルーのスーツである。このネロスとマドリガルという強力なファティマがロッゾ騎士団の頂点でもある。



ロッゾ帝国 近衛騎士団ヴーグラ 騎士団長
グレース・スドール天位騎士

Imperial Guard Voughlah Commander
Grace Saddle

身長192cm

ヴーグラ騎士団長グレース。ロッゾの女性天位騎士である。スーツの色は見てわかるとおりヴーグラのライトブルーではなくてペパーミントである。このあたり女性騎士団長ならではの趣味というところか。

ダックナードの命の下、ペラに降り立ったグレースだが、ロッゾの最精鋭部隊を率いながらも、部下達にツラック隊がいかに強力な騎士団かということを述べていた。彼女の言うことは当然で、これだけ長期にわたり落とせず、GTMを次々繰り出してくるその体力を非常に警戒していた。

膨大な数で押すといっても簡単にはいかないこと。そして見知らぬ強力な騎士達がいるのではないかという推測。非常に冷静なグレースはあれだけの戦いの中でも損失を最小に抑え、戦闘後の負傷兵の回収を敵味方関係なくするようにという命令も出していた。軍指揮官として鑑のような人物である。

手に持つガット・ブロウは自前なのかヴーグラ騎士団で支給されているものとは違うタイプのものである。

つか、グレースを男性と思っていた方も多かったようで、トホホである。キリッとした吊り目に頬の出た顔は日本人には怖く見えるかもしれないが西洋ではこれこそが美人の代名詞でもある。なんだから。後でも述べと思うが、ほんっとに「記号」がないとわからないものなのか？？ それはアタクシの制作理念に反するので今後も安易な記号を使ったキャラ作りはしないつもりである。しかしきれいなひとだー。

ファティマ・マドリガル・オペレッタ

Fatima Madrigal Operetta

身長160cm 体重42kg

バランシェ・ファティマNo.23。

ペラ最後の攻防戦で「クロス・ジャマー」を仕掛けたファティマ。バツハトマのジッド、ウモスのベルミ、ガマッシャーンのナオとで綿密な計画の立てられたこの作戦では中心的なファティマとなり、ツラック隊を翻弄した。

この場合マドリガルはファティマ達の「指揮ファティマ」という立場となり、戦場の友軍と敵全ての情報を処理することとなる。想像するだにとんでもない仕事量で、その上ロッゾ騎士団長のグレースのサポート、GTMボイスオーバーの制御と、まごうことなきスーパー・ファティマである。

ツラック隊にソープがいることを察知し、一瞬たじろぐが、姉の命令に活を入れられ、指揮ファティマとして戦うことはもちろん、ソープにぎっちり全力で戦っているところを見せることがマスターにとっても自分にとってもベストであるという結論を出した。

グレースもナオもうすうす感づいていたのだろうが、延々落とせないツラック隊は何かあると踏んでいた。ファティマ達はそういった空気を真っ先に察知するので、マドリガルも覚悟は決めていたのだろうが、動揺するのはもうある意味仕方ないことである。





ロッソ旗騎GTM
ボイスオーバーGA2
Rosso Flagship GTM VOICEOVER GA2

全高26.0m 自重240t

ライオン・フレームGTMは重産業国家ロッソの威信をかけて製造された。マウザーがライオン・フレームの維持の難しさを言っていたが、実際ライオン・フレームのGTMを保有するのは中小国家では難しい。さらにそのライオン・フレームGTMを開発製造するのはさらに困難である。それが可能となったのはGTMガーランド、バラベラム・スターム公の登場である。ロッソにとって都合が良かったのはロッソの南部にあるグラウロッソ産業都市、ナーリア学術都市を学者達のために作っていたことであった。ここからスターム公が登場し、多くのファティマガーランドもここに居を構えている。そして多くの人物の隠れ家ともなっており、バローラ・プラス博士はラ・ベルダとここに住んでいた…つまりピリジアンのことである。だから彼の作るエトラムルには「プラス」の名が入っているのだが、それはここでは関係ない。

このボイスオーバーはユーレイやバーガ・ハリ同様のプロポーションでライオン・フレームの基本がわかる。ロッソの威信をかけたGTMで、さすがに単騎ではなく、複数騎存在しているのがわかっている。このペパーミントグリーンのボイスオーバーはヴァーグラ騎士団長グレースのもので、装飾を兼ねたパールホワイトが非常に目を引く。同じライオンフレームのグロアッシュと装甲やツインスイングの長さなどを比べてみると違いがわかる。グロアッシュよりも軽い分、スイングも若干薄くなっている。

ベラ攻防戦では、各国とも普段では滅多に出撃することのない旗騎GTMやスーパーGTMが登場し華やかな戦場であった。実際、あの戦で戦った多くの騎士や兵達は敵味方問わず、「うわー、見たこともないのがいるわー」とか言っていたに違いない。

ロッゾ主力GTM
グロアッシュ
Rosso Main GTM GROASH Asuf H

全高24.5m 自重270t

ロッゾ帝国の近衛騎士団「ヴーグラ」が使用するGTM。
H型は主にヴーグラ騎士団が使用し、派手なカラーリングと
装飾が施されているのですぐにわかる。

ベラ戦には頭部形状が若干異なるものもいたが、製造ロット
や騎体によって騎士が自分に合ったものを使用するために意
外と統一されていない。しかしカラーリングはほぼ同じに施
されている。

ヴーグラ以外にもロッゾの国家騎士団が使用するが、これほど
派手な装飾はされていない。これはあくまで近衛騎士団ヴ
ーグラだけの仕様である。

現存数は不明だが、500騎以上は製造されているとみられて
いる。またロッゾ以外にも供給され、1話のユーパーが個人
的に購入していたのもこのグロアッシュである。まあ、こん
な高価で整備が大変なライオン・フレームGTMを買うもの
だから腕の良いスライダーが必要になったわけだが…。

ライオン・フレームのグロアッシュの背中と肩のバックフラ
イヤーはコーネラのSBB01同様、傘の骨のような細長い装甲
を展開している。これは広げなければ後ろにまとまるよう
になっている。SBB01デモールが多くの傘の骨のような放熱
装甲を後ろに出しているのは、放熱キャパシティがライオン
フレームより少ないことで傘の数を増やし、軽くするために
細く長く作られている。



ヴァーグラ騎士団 男性GTMスーツ

Imperial Guard Voughlah Male GTM Battle Suits

ヴァーグラの通常GTMスーツである。

色は全て国旗に合わせてあり、近衛騎士団という派手さと威厳を持つ制服に仕上げられている。何より胸元の幅広ネクタイが優雅である。

ヴァーグラだけでなくロッゾの階級章は非常に大きく装飾も兼ねたものになっている。ダックナードのような最高司令官だと金の組紐が3列で、グレースなどは金のラインに3つの星で騎士団長クラスを表している。通常のヴァーグラ騎士はこの通り1本で左官クラスを表すが、ヴァーグラのものは肩章が非常に長く取られている。



ヴァーグラ騎士団 礼装

Imperial Guard Voughlah

随分前から公開されているヴァーグラの礼装。大きなマントと兜の下は左の制服である。ロッゾのカラーであるスカイブルーとグリーンの組み合わせで非常に威圧的な姿である。帝国という感じがびったりである。

右胸に付く3本の矢のマークがロッゾの国籍マークで、緑と黒のぐるぐるがヴァーグラ騎士団のマークとなっているようだ。



ヴーグラ ファティマ
アシリア・セパレート
Voughlah Assiria Separate

ヴーグラのデカダン・スーツはネロスのようなスタイリッシュなスーツだというのに。ヴーグラの騎士達は襟も裾の利いた清潔な白の硬質なイメージなのに。なんで、ファティマのアシリア・スーツはこんなにもこもこなのだ??
まったく意味不明である。このウサギの毛皮のようなもこもこは思わず触ってしまいそうだし、靴下も白いレースで、なんなんだこれはいったい??
何でこうなったのか星団中の人々が聞きたいわ!
あの過酷で壮絶な戦場で、騎士や軍人達が神経をすり減らし目を血走らせている戦場で、こんなキラキラ光るスーツにもこもこスカートに足もとひらひらのファティマが何人も動き回っているその光景は…。まあこれがファイブスターだわな。というより日本の戦国時代も西洋の騎士の時代も、ナポレオンの帝政フランス時代も、みんな派手! その時代に考えられる限りの派手な服を着て戦っていたのだから、それが人間の本性。目立たないように汚れても良いように地味な地味な、地味な地味な、かっこ悪いのかっこ悪い服を着て戦争で命の奪い合いをやっているといったこの先どういう形になっていくんでしょうかね? まあ、もうわかってるんですが。



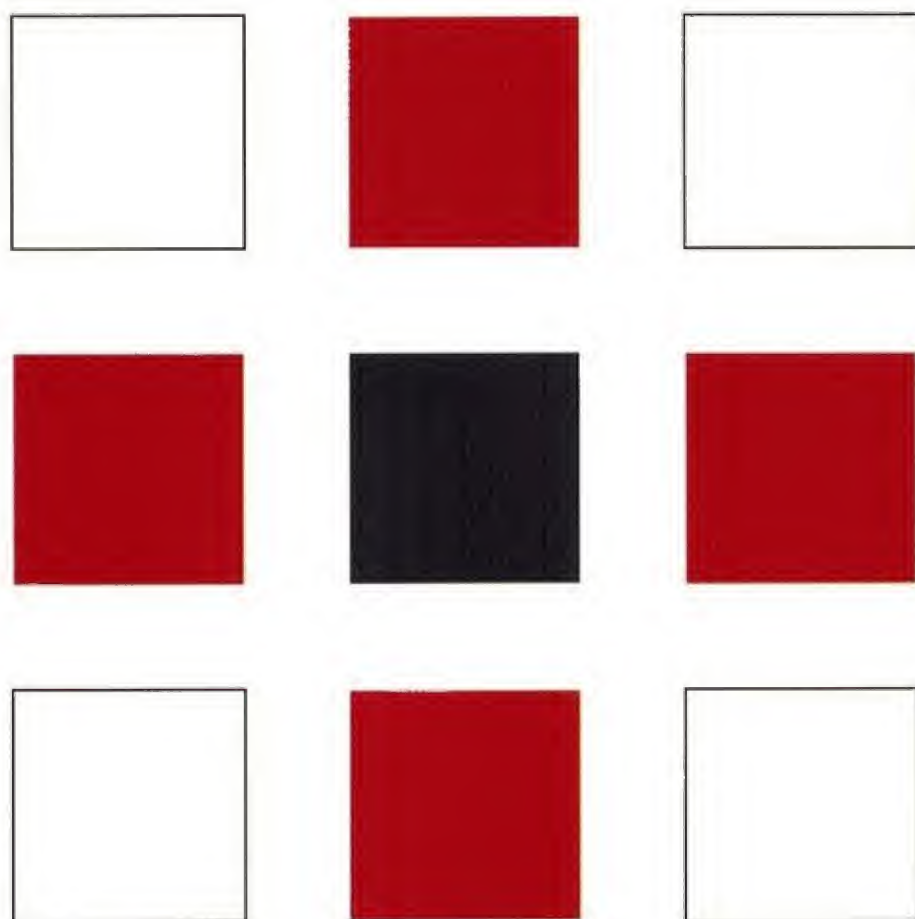
ヴーグラ騎士団 内部肩パッド
Shoulder protector

右の礼服の巨大なマントの中はこういう大きな肩パッドが入っている。一応装甲も兼ねているが、肩幅を大きく見せる工夫である。

ヴーグラ騎士団 女性GTMスーツ Emperial Guard Voughlah Female GTM Battle Suits

女性騎士用のGTMスーツも基本的には男性と変わらない。まさしくズボンかスカートかの違いである。なんでスカートなのかの理由は青銅騎士団のところに書いてあるので、そちらを見ていただきたい。
ベラ戦終了後は率先して負傷兵の救護にあたっていたが、ああいったことができるのはまれである。第1次大戦などでも塹壕で向かい合ったフランス兵とドイツ兵がクリスマスの日にどちらからともなくクリスマスを祝い、敵味方関係なく食事を振る舞いひとときの休戦を楽しんだが、次の日からは激しい塹壕戦を再開している。同じ戦場でついさっきまで殺し合っていたのに、さっきまで一緒に酒を酌み交わしていたのに…。戦争の矛盾はいつまで続くのだろうか。





NSUA

**Nationalsozialistische
Umoss Arbeiterpartei**

**ウモス国家社会主義共和国
青銅騎士団**



ウモス国家社会主義共和国。長いので単にウモス国と表記されることも多い。英語では頭文字を取ってNSUAと表記される。

ウモスの歴史は「デザインズ3」にも詳しいが、カラムティのシオルティ大陸の南、キーヤ大陸で生まれた国家である。

ウモスの立ち位置

超帝国時代より資源は掘り尽くされ荒廃した土地。その上、北はフィルモアとクバルカン、キーヤ大陸のほとんどはロッゾ帝国という大国に挟まれた地理的環境で、ウモスが国家として生き抜いて行くには厳しい環境であった。

周囲の大国から自国を守ることで精一杯であったため、星団の覇権、利権争いには出遅れていたのが事実だ。

その中で、通商を主軸に発展し、その後GTMの生産などの重工業が主体となったが資源をガマツシャーンなどから輸入せざるを得ず、今も昔も資源の確保が最も重要課題となっている。

ウモスは通商ビジネスで栄えてきたが、それら国益のほとんどは「青い影」という結社がとりまとめてきた。俗に言う経済連合である。

システム・カリギュラと接触したことによって、GTM製造を産業のメインに切り替えていった、この時にユーゴ・マウザー教授の指導の下、ヘッ

ケラー・バシントンやパラベラム・スターム公というガーランド達が多くGTMを設計し、それらを輸出、ライセンス生産する形で、今もウモスの経済の主軸である。

生産されるGTM

マウザー教授のGTMボルドックスは多くのGTMの雛形となり、製造主任を引き継いだヘッケラー博士はウモスの数々のGTMを設計し、青銅騎士団の「青騎士」と呼ばれるGTM・X-8紫仙鋼、X-9紫苑鋼を生み出した。

また、首都プロコルハルムにやって来た「グロアツシュ」の設計者、パラベラム・スターム公が「ライモンダ」「バヤデルカ」という汎用GTMを開発し、これらは多くの国家で使用され、今やウモスはGTMのライセンス生産によって莫大な利益を上げている。

参戦目的

資源の確保と領土であるのは明白だが、それ以外にもウモスには目的があるようだ。それはウモスが資源の確保に工場星として持っているカーマントー星などの労働者の確保でもあった。

ウモスは西太陽系を主に活動する無国籍集団「ドーマ連合」と組み、資源を調達していた。主な資源調達先であるガマツシャーンに頼りすぎるこ

とを危険視し、随分前からドーマ連合と組んで資源の確保に動いていたのだ。工場星の採掘に関してはアクト4のラストエピソード「カーマントーの灯火」に詳しく描かれるが、工場星の労働者確保にミノグシアの戦いであふれ出る難民を次々工場星に送り込んでいた。

この陰謀にはウモス、ドーマ以外にシステム・カリギュラが絡んでいるのは間違いない。彼らの使う「ブレイク兵騎士団」は大きく二つに分かれ、片方はフィルモアとの共同でナカカラで暗躍、もうひとつがウモスと組んでの占領地蹂躞を行っているのだ。

ウモスのミノグシア侵攻はバツハトマとも綿密な会話を重ねて計画されていたのだろうが、不運なことにウモスの先行部隊はイースト・ハスハを移動中、突如発生した巨大な雷雲によって壊滅した。ウモス第1と第3軍団混成部隊、ドレンノ連邦騎士団、ロッサム国家騎士団、ウルツシ共和騎士団、4つの集団が雷によって戦艦、GTM輸送船もろとも破壊され、総数800騎と言われるGTMを失ってしまう。

噂でしか知らなかったカステボーの大自然、超異常気象の前に4ヶ国連合が壊滅してしまったのだ。

このあり得ない事態によってウモスを含めた先行部隊は消失し、本来の目標であったハスハント北部を攻められず、急遽ロッゾの正規軍が移動し、

北部ミノグシアへの侵攻を肩代わりしたのである。この時、雷によって失ったウモスの戦力は甚大で、第1、3軍団の持つ青銅騎士団GTM200騎、ウモス連合騎士団200騎、ウモス傭兵騎士団100騎という大損害で、他の3国家もミノグシア侵攻が止まるほどの損害を受けてしまった。

その間ミノグシア中原がフィルモア、クバルカンに押さえられ、ウモスはミノグシアの空いた場所くらいしか戦力を投入できる場所がなかった。それだけにすぐ難民を拉致し、工場星に送り込むもうひとつの目的に切り替えたのかもしれない。そういう事情もあり、ベラ攻防戦では本国にいた軍団長ベルミ・クローゼが指揮を執ったのである。このベラ攻略軍は壊滅した第1軍の残りと再編成部隊からなる総軍団長ベルミの精鋭部隊である。

現在ウモス軍は第2軍団と本国に残っていた残りの第3軍がミノグシアに展開している。



ウモス国家代表
フォッケヴォルフ・ムックル総統
Der Führer Facewolf Mockl

身長165cm 体重65kg

絶えず大国の影に脅かされてきたウモスにとって、安定した領土と資源確保は積年の夢である。元々荒廃したキーヤ大陸の西端という場所は住みよい場所ではない。領土確保と同時に難民を工場星に送り込む。このウモスのやり方は非難されるべきで大儀とはとても言えないものだ。しかし、どう言われようとムックル総統以下、国民党は国家のために国民のために安定した未来を作り出そうとしているのである。

**ウモス 統合軍団長
ベルミ・クローゼ**

NSUA Commander in Chief
Bermi Close

身長205cm 体重110kg



ムックル総統の片腕と言われるウモス軍総司令官。

強面で実際冷酷なところを見せるベルミだが、枢軸軍の中核としてパツハトマとロッソに持っていかれた戦争の主導権を取り戻すべく暗躍している。北部ミノグシアの占領を最も望んでいたのはウモスで、手強く陥落しないベラを手中に収めるべく、パツハトマのジッドの計画に乗ったのはそういう理由があったからである。もちろん占領後はウモスを中心となって北部ミノグシアへの侵攻を進めていたことだろう。

作戦が失敗し、枢軸各国が撤退を始めた時、これも運命かというある意味割り切った態度であった。

ウモスの総統、ムックルの理想にウモス人として共感し、やがてそれは自らが悪人となってまで国家のために未来の利益を得るという思想に変わっていった。騎士はともかくとして軍指揮官クラスにはその思いをぶつけ、ウモスの行く末を憂いていたようだが、そのベルミの狂信じみた思考についていけない者、反発する者は政治と軍事の中央から選ざけていった。パルスエットの前マスター、レスターもそうだったひとりであった。

軍の最高司令官として絶大な権力を持つが、それは全てウモスの未来のためであると。

しかし、ベラの攻防戦で最前線に立ったのは、やはり騎士として、GTMを駆り先頭に立ち、騎士と国民と他国にその姿を見せつけなければ自らの理想も口だけのものになると知っていたからだ。ロッソのグレースと共に先陣を切って戦う姿はこの男の誠実さでもあるのだ。多くの騎士がこの男についていくのはちゃんとした理由があるからこそなのだ。騎士として最高司令官に上りつめるのは政治力だけでは不可能である。

また、この話の流れで「二羽の小鳥」で語られたウモスの筆頭騎士であったクローター・ダンチヒ公が引退し、ファティマ・オデットをバランシェに戻したのもこういった理由があったのであろう。

ミノグシア侵攻の序盤では送り出した第1、第3混成軍団が功を焦り、イーストカステポーを横断するというルートを取った時に、ベルミは壊滅する可能性があるのをわかっていたのかもしれないが、先行集団の4ヶ国連合が集合に手間取り、これ以上進軍を遅らせるわけにはいかなかった。ただベルミは気がかりだったのだ。「カステポーにいてと言われる何かが介入してくる可能性がある」ことを。後の調査で本来雷雲が発生するはるか上空から雷が先行軍を襲ったと判明したが、「まれにあるカステポーの異常気象」と結論づけられた…。

思い切り悪役なのに愛のある描かれ方をしているのは気に入っているからだ。

筆頭ファティマ・ヴィルマー

NSUA Flagship Fatima Wilma

身長159cm 体重40kg

ベルミのパートナーでウモス筆頭ファティマ。ヴィルマーのこのバesslerスタイルにはたくさんの方が反応したみたいで、大変に嬉しい。バesslerだけではなく、ほわっとした分厚い真っ赤なブーツもポイント高いのだが〜。この大きなバesslerとほわほわブーツはヴィルマーだけのようである。あとヘッドアシアの耳だれも他のファティマのものより2節も長い。お気に入りなので大きく載せてある。

8巻にてバイドバイパー騎士団のファティマとして戦った時は、見たこともない巨大なGTMにX-8ごと叩き潰され、瀕死の重体であったが、駆けつけたアイシャとアレクターの迅速な処置で生き延び、ビルド、ブーウラ、ヴィルマー3人ともモラード博士によって復活した。その後、すぐにウモスのベルミ軍団長のもとに嫁いでいる。非常に経験豊かなヴィルマーを得たことはベルミにとっても助かったことだろう。ベルミが娶ったということはベルミはファティマを失っていたということで、青銅騎士団軍団長ベルミはファティマを失うほどの激戦をくり抜けてきたということでもある。ペラの戦いでは先陣を切るX-4紅盾鋼を駆り、マドリガル達のクロス・ジャマーサポートもやっていたが、敵にビルドがいるとわかるや、ビルドの駆るBS-Rとの交戦は避けるようにベルミは部下達に伝えた。当たり前だが青銅騎士団のGTMがかつて同じGTMを駆っていたビルド相手に戦うのは非常に不利であったからである。だから頑強なロッソのグロアッシュに任せようと依頼したのである。通常のファティマ同士なら敵のファティマが自軍のGTMをよく知っている、またはかつて乗っていたということは普通にある。問題はそれがビルドとBS-Rに乗ったエース騎士相手だということだったのだ。かつて一緒に戦っていたファティマ同士が戦うことは今後もあるだろう。もちろんその最たるものはエストなのだが。

単行本では間に合わなかったがこの通りガット・ブロウを持っているのが完成型である。ベルミのガット・ブロウでカスタムである。ウークーツやオーロラもそうだが、マスターのガット・ブロウを持っている場合が多いのは指揮に邪魔にならないように持っていることと、オーロラの場合のようにマスターが重いガット・ブロウを持ちたくないから仕方なくスカートの中に押し込んでいるというのまで理由は多彩である。





ウモス旗騎GYM
X-4紅盾鋼(ハルシュカ)

NSUA Flagship GYM VOLDOX RUBY =Co Jun Ko=
X4 HARUSCHCCA

全高26.8m 自重230t

ウモスの総騎士団長ベルミの使用する特殊なGYM「ハルシュカ」。

その姿は「花の詩女」に登場したボルドックスそのもので、現在星団でよく知られているX-9型ボルドックスとはかなり違う。

ウモスが国力を上げるためにシステム・カリギュラと契約をしていることは述べたが、マウザーが残した数々のボルドックス型の設計、運用をヘッケラー・バシントンが引き継ぎ、このオリジナル・ボルドックスとも言うべきハルシュカを製造したのだ。現在のボルドックスには見られなくなっている両肩の放熱装甲は中空で見た目においてもかなり派手である。

フェイスマスクにはアイホールがなく、眼球がまったく見えないが、半透明装甲の奥にちゃんとある。色も赤を主体にした派手な装甲で、「こうじゅんこう」という呼び方をされることもある。名前だけ聞けば美しい女性騎士が乗っているかと思ってしまうが、残念ながら怖そうなおじさまのGYMである。

ウモス旗騎GTM
X-8紫仙鋼(青騎士)

NSUA Main GTM
X-8 SHIANRAN

全高25.5m 自重245t

ウモス国家騎士団の主力GTM。ハルシュカと比べると装甲以外はまったく同じというのがわかる。というか、ライオン・フレームとこのパンター・フレームは肘のパーツが識別ポイントである。実際にGTMを目の前で見ればその体格ですぐにわかるのだが、見た目的なポイントは肘のパーツである。

キーヤ大陸南端にある「ノーティガ重産業都市国家」からやって来たヘッケラー・バシントン博士がポルドックスから作り出したX-8紫仙鋼は非常に高性能で、ウモスの中核を成すGTMとして大量に生産されている。

若干装甲を変えたものが輸出版X-8として大生産され、X-9同様星団の各国家に輸出され物語でもいろいろなところでお目見えしている。



青銅騎士団 第2軍団 軍団長

オリバー・メルシュ

NSUA Kampfritter Bronze 2nd Legion Commander
Oliver Meersch

身長195cm 体重105kg

ウモスの主力騎士団「青銅騎士団」の第2軍団の軍団長。第1軍団は現在ベルミと共にいるが、メルシュの第2軍団は当初の侵攻作戦であったナカカラとイーストハスハの間あたりに展開している。ここは北部ミノグシアにも通じる地域で、バトラントに向かっていたランドとヘアードがメルシュの指揮していた第2軍団第2戦闘団(中隊、カンブフ)と遭遇した場所である。まとまった侵攻ができないウモスはミノグシア全土にばらけて展開しているようだ。ウモスの筆頭であった第1軍団はもともとミハエル・レスターが仕切っていたが、政治に負けてベルミ・クロウゼに追い出される形で騎士団を去った。メルシュはその時のレスターの同期でベルミを良く思っていないが、そのやり方に対してメルシュはウモスの政治そのものに疑問を抱き始めたようである。第2軍は12の中隊(カンブフ)から構成され、4個GTM大隊規模となる。その数はGTM定数144騎という大部隊であるが、メルシュの言葉通り細かくばらされてミノグシア各地に展開しているようだ。大隊数4個で軍団とはおかしく聞こえるが、GTM大隊1個は追従戦闘師団と宇宙軍が内包されているため、GTM大隊4個は通常の軍隊だと4個師団に相当する。そのため軍団呼称なのである。

ということで「運命の3人の女神・クロウソー」のエピソードが終わり、第3話「トラフィクス」が始まる直前の特集でメルシュのキャラクターが発表されたのだが、実際に登場するまで何年かかったことやらである。パルスエット関連のエピソードで出る機会はあったものの、いつも削られ、ようやく登場である。


青銅騎士団 AF
ファティマ・ジャカルナ

NSUA Hosting Fatima Gaculna

身長162cm 体重45kg

ウモスの騎士、オリバー・メルシュのパートナー。ガーランドはアニー・ポロン博士。メルシュが軍団長なのでホスト・ファティマである。M型はこのような短めブーツである。ヴィルマーのようなほわほわではなく、フィット感のあるものだが、スーツの後ろがパッスルになっていて他の青銅騎士団ファティマとちょっと異なる。

アニー・ポロン博士はノーティガ重産業都市国家にいるファティマ・ガーランドで、ナーリア学術都市やイスハ特別市に近く、国境、国籍を無視できるこの地域は多くのガーランドが住んでいる。



ウモス指揮GTM

X-9紫苑鋼

NSUA Main GTM
X-9 VOLDGX

全高26.2m 自重225t

紫仙鋼と装甲だけが異なり、X-8よりも軽快である。中隊以上の指揮官が使用する指揮騎として開発されたが、結構な数が生産され、輸出やライセンス生産版ではこちらの方が多いと言われている。このカラーリングはメルシュのX-9で指揮官用らしく赤が入っている。

青銅騎士団 男性騎士服

NSUA Kampfritter Bronze Male GTM Battle Suits

ヘルメットやマントに付けられた装甲板が目を引く。しかし騎士にとってはあまり意味はないものなので、式典用である。

GTMに搭乗する時には外してしまうが、騎士によって部分的に付けたり付けなかったりしているようだ。

各所に入るウモスの国家マークが目を引くが、胸元にあるHのような模様は青銅騎士団の騎士団マークである。

序盤にカステボーの超自然現象によって青銅騎士団はエリート部隊の半数を失ってしまったが、ベラ攻防戦に出撃したのは残ったベルミの精鋭部隊と再編された第3軍団の青銅騎士団から成っていた。

それでも総数100騎近くがベラの攻略に参加し、ロッソのヴークラと共に激戦を繰り広げた。

ツラック隊が多くの戦闘で鍛え上げられた精鋭支隊なら、攻める枢軸側も精鋭部隊ばかりで、意外とそれがあの規模の戦いでも損害が少なかった理由かもしれない。基本的な戦い方がツラック隊のGTMを消耗させる作戦で、精鋭部隊ならではの押し引きもあり、無理に戦ってはいなかったということなのだろう。

青銅騎士団の制服の色は所属軍団によって微妙に色が違い、この第1軍団所属の青銅騎士は赤が各所に入っている。

女性騎士は黒なので第2軍団の制服である。

青銅騎士団 女性騎士服

NSUA Kampfritter Bronze Female GTM Battle Suits

青銅騎士団、女性騎士服。

GTM・X-8に搭乗する女性達の戦闘服である。もちろん男性同様、コクピットに入る時には邪魔なマントや飾り装甲を外してしまう。

スカートの中はショートパンツ。どこの騎士団の女性騎士もそうだが、ズボンも選べるのにあえてミニスカートタイプの騎士服を着込んでいるのはちゃんとした軍の意向、または騎士団の意向があるからなのだ。

「見た目格好良く。精悍で、清潔で、規律正しく」

というのがある。実はこれは全ての軍隊に言えることで、どの国家の軍隊にも「儀仗兵」や「近衛部隊」というものがあり、これらは一般国民に「広報的な役目」も与えられている。

どの国の儀仗兵も閲兵式や祭典の時に必ず登場し、背の高い見た目もハンサムな兵士達で構成されている。これは軍隊というものを一般の人に「うへー、カッコいい〜強そう〜」という認識を植え付けるためのものだ。じゃあ儀仗兵はモデルとかイケメン、美女で固めればいいじゃないかという短絡的な思考もあるだろうが、往々に置いて儀仗兵が選出されるのはその国の筆頭エリート部隊からである。

つまり兵の中見も、屈強で精鋭部隊で見た目も格好いい、というのが儀仗兵の役目なのだ。見た目だけが格好良くても良くあるファッションモデルに軍服を着せただけの状態だと、どこかへなへなでとても強そうには見えない。

精鋭部隊で格好いいということが大切なのである。

これはもちろんプロパガンダで、国民に対して軍隊への間接的な勧誘であったり、気持ちよく税金を払ってもらったりとさまざまな目に見えない役割がある。もちろん対外的にも精悍で格好いい兵士達は威嚇するためにも必要である。

長くなったが、そういうこともあり女性騎士達は足を見せるスカート姿が多いのだ。こんな背の高いすらっとした騎士が長い足を見せて邁爽と歩いて行ったりGTMに飛び乗って出撃していく姿は子供達にも大人にもしびれるほどに格好いいはずである。別にスカートタイプを強要されているわけではないが、パンツルックでもこのスタイルだから格好いい。厚ぼったいタイツではなくストッキングを履いている女性騎士もそういう理由だ。(素足は傷だらけの場合があるので避ける女性騎士も多い) もちろんこれは男性騎士にも言えることである。国家の代表となる騎士達はそういった役目もあるのだ。

ベラの市内にラキシスとツパンツヒが買い物に行ったが、ツパンツヒは化粧を落とし、ラキシスもぎっちり軍服を着こなしていた。あの時に戦闘に疲弊し疲れ切った顔でくたびれた騎士服を着ていたベラの市民達も不安に駆られるだろう。実際過酷な戦闘を繰り返しているのは市民には周知の事実で、それでも尚、騎士達は精悍な姿で市民の前に現れる。戦場での威嚇ではなく、市民に安心してもらうために。それが大切なことだったのである。





ファティマ・パルスエット

Kampfritter Bronze Light Suits
Fatima Palsuet

身長158cm 体重40kg

あれ？

まあ、青銅騎士団と言えばパルスエットさんですね。これはレスターといた頃のパルスエットの青銅騎士団デカダン・スーツ。

デカダン・スーツも所属軍団の色に合わせて色は変えられている。騎士団カラーに当時の所属であった第1軍団の赤が入っている。

現在のところヨーンをパートナーにしてGTMでの戦闘はないが、騎士団所属のスーツを着ると、おお、さすが筆頭部隊のファティマ、という感じがする。

前にも書いたが、膨大なファティマさん達を描いていると、つい手慣れでヘッドキャパシタや、手袋、リボン、靴下と靴などが同じような味付けとなることに気づいている。

髪型はまあ余程のファティマでなければたいい首くらいまでの長さなのだが、手袋を描き忘れるとか、靴の色が同じになっているとか後でしまったとなることも多い。今回は大きく所属国家に分かれているので、デザインの描きわけはとても楽しかった。

まだまだ登場するパルスエットさん。がんばっていただきたい。



青銅騎士団 アシリア・スーツ

NSUA Kampfritter Bronze Fatima
Assiria Separate Suits

冷酷で堅そうなウモスにおいてもファティマのアシリア・スーツはこの通りフリル、レースバリバリのかわいらしさである。

M型のジャカルナよりもスーツの上着の裾が長い、後ろはバスル化はされていないようだ。

ヴィルマーもそうだが足もとがふわふわとかひらひらしているのはやっぱりかわいい。

こんなファティマ達がべらの戦場であちこち動き回っているとひとりくらい持ち帰りたいと思ってしまった方は多かったのではないかと。

で、青銅騎士団のアシリアは所属する軍団によって軍団カラーに変えられているようだ。

マスターの移動や再編成でそのたびにスーツを変えるのはけっこう面倒くさいと思われるかもしれないがアシリアスーツは色を変えられるのでそれほどの手間ではない。

青銅騎士団の第1軍団は赤が入り、第2軍団は黒、第3軍団は白、第4軍団は銀が入っている。

この子は第3軍団の白である。

とはいってもミノグシアの戦いのような大規模戦争では当たり前カラーの変更が間に合わず、バラバラのスーツの色でファティマ達は走り回っている。まあ、それもかわいいのだが。



ウモスとロッゾの地理関係 そして謎の南部聖域

枢軸のウモスとロッゾのことに触れるとどうしてもキーヤ大陸についての解説が必要となるため、『デザインズ3』からのマップを再掲載し、あらためて解説しておく。

ウモスの北、海に向かってがシオルティ大陸でクバルカン法が鎮座する。ミラージュのイマラの出身国アティア王国はシオルティ大陸とキーヤ大陸の繋がる中間に位置し、北はフィルモア帝国となる。

その南、キーヤ大陸の大半を占めるのがロッゾ帝国である。

見てのとおり、単行本9巻で登場したスパチュラ国の名残があり、帰還した炎の女皇帝の旗艦シグからバスターランチャーで一瞬にして壊滅した場所でもある。ロッゾはこの重産業国家スパチュラの名残ともいわれるが、その西に位置するウモスは国土の大半が荒野で、超帝国時代の掘り尽くされた施設の残骸がいまだに残り、荒廃した土地が広がっている。

ロッゾの南にはナーリア学術都市、グラウロッツ、イスハ特別市といったロッゾの領土内ながら帝国の影響を受けない自由都市が数多く点在し、ここに多くのガーランド達が住んでいる。

またその西にはノーティガ重産業都市国家があり、ここは独立自治区でカラムィティの多くの国家の重産業を担っている場所でもある。このノーティガがすぐ近くにあるためにガーランド達が住みやすいといった利点もあるのだ。

これがカラムィティ星南部の国家だが、最南端には怪しげな名前地域があるのがどうしても目に入ってしまう。まるでRPGゲームのラストダンジョンのような怪しさである。物語にも作品集でもまだ一切触れられていない場所である。

語られなさすぎて『デザインズ3』にこういう場所があったことすら知らない方々も多いだろう。

いったい何なのであるか？ここは。

「ファイブスター物語」には多くの不明な名称や地図には怪しげな場所があるが、そういうところを想像されるのも面白いと思う。たいていの場合、こういう場所にはすでにエピソードが用意されている。



Republic Gamaschane

ガマッシャーン共和国
レイスル第1党騎士団



ガマツシャーン共和国とは 超帝国南都ハツードンの名残から生まれた

連載当初より物語の中で、また星団パワーバランスなどでその名を聞き、絶えず星団列強の一角に位置しているガマツシャーン共和国だが、物語本編には国家首脳も騎士もGTMもまったく登場せず、どういふ国家なのかまったくわからず、かつての作品集でもこの国家だけは収録されていなかった。

そのガマツシャーン共和国がついにペラ攻防戦に登場し、枢軸国の中でも最大の注目を集めたのである。

意外と知られていないが、ガマツシャーン共和国はボオス星の国家である。ハツードン大陸の南部に位置する国家で、すぐ北にはパツハトマが鎮座する。

ミノグシアからは東端に位置するが、ミノグシアのカツツエーやスパーズ市からは海をはさむだけで非常に近い。

この国家の位置がガマツシャーン共和国の置かれた立場そのものという説もある。

つまり、聖宮ライン、詩女の所在地からは最も離れている。ということである。

ガマツシャーン共和国の前身、ハツードン連合共和国は旧超帝国南都ハツードンから派生した国家であると言われる。

南都ハツードンはセントリー・マグマの力によってその大半を消失した。その名残はねじ曲がるようにゆがんだハツードン大陸の南部を見れば、誰もが納得するだろう。あまりに不自然な地形なのだから。

その南都ハツードンから逃げ延びた人々と移民が中心となってハツードン連合共和国が生まれたが、当時の植民星であったボオス星の星ではカラミティ星などの列強の支配下に置かれ、搾取や傀儡政権などで独立国家と呼べるような状態ではなかった。

星団暦に入り、ハツードン連合共和国は北と南に分裂し、北は通商や交易が中心のハブハミトン公国、南はねじ曲がった大陸から産出される豊富な天然資源の輸出を軸に発達させたガマツシャーン共和国と、別々の道を歩むことになったのである。

ペラ攻防戦でナオがハブハミトン騎士団を気にかけているのはそういう理由もあったのだ。

さて、この歴史を見てもわかるとおり、ガマツシャーン共和国は植民星の時代を長く経て、現在に至っている。

詩女が茜の星に誕生した時代。ハツードンの人々はミノグシアの人々と同じ立場にあったのだ。だがミノグシアやカステボーと違い、ガマツシャーンには詩女の存在はほとんどない。ミノグシアの国家が詩女と共に発展し、星団でも大きな発言力を持つに至ったことはハツードン、ガマツシャーンの人々には複雑な想いであろう。

同じ民族なのにと。

同じボオス星の民族として詩女は聖宮ラインとミノグシア大陸の人々の支えとなっていたが、そこからハツードン大陸は離れた、除外されているというのがハツードンの人々の大半の意見である。それゆえ、ミノグシアに対する反発も多いのだ。ハツードンとカステボーの間にあるメヨヨやコーネラはこういった経緯を持たない比較的新しい国家のため、あまり詩女を意識していないというのもある。

強国だが地味な国家のジレンマ

そういう経緯を持つガマツシャーン共和国の現在だが、パワーバランスの順位を見てもわかるとおり、豊富な地下資源を持つ国家として非常に強い国力を持っている。

国を仕切るのは3党首と呼ばれる三権分立をそのまま「党首」に当てはめたような政治システムで、彼らは「レイスル3党首」と呼ばれ、立法、行政、司法の三権をそれぞれ代表している。

とはいえ、3党首は象徴的な存在として扱われ、実務は一般の民主政治と変わらない。3党首はハツードン時代からの名家から選出されているが、君主制度をわずかに残した民主国家という言い方もできる。

強国であるはずのガマツシャーンが絶えずジレンマに悩まされているのは、歴史、政治、軍事において目立ったものがないということ。それはつまり星団での発言力が弱いということをも意味する。

軍事においては強国ゆえの戦力を保有し、多くのGTMや騎士団を持つが、いまいち話題にならず、存在感のない国家という立場を国民は気にしている。

飛び抜けて目立った歴史もなく、カリスマ的な支配者や有名なエース騎士がいないガマツシャーンにとって、ミノグシアの戦いで存在感を強めることも参戦理由にあつたはずだ。

もつとも他にも参戦理由があり、兄弟のような国家であるハブハミトン公国がすぐ北のパツハトマ魔法帝国の圧力を受け、枢軸連合に加入し、そ

れを助けるためという理由と、前記したミノグシアへの反発があつたことである。

が、まあどれも取って付けたような参戦理由で、他の国家のような大義も目的もないのが事実である。

これもガマツシャーンという国家をよく表している。

隣国コーネラ帝国との関係 バルター博士の登場

セントリー・マグマによってねじ曲げられた大陸はその造山エネルギーから莫大な資源や宝石などを作り出している。ガマツシャーンはこの豊富な資源を持つため経済的にはとても潤っている国家だが、重産業はこれと言ったものがなく、軍事において最大の兵器であるGTMはカラミティのウモス国や、ロッゾ帝国に頼っていた。

主力GTMスイセンは独自発注のウモス製GTMだが、GTMスコータイはツパンツヒがエンジンを設計した、ヘッケラー・バシントン博士設計のアルタイ、シャムラの兄弟騎である。

ハブハミトンがスコータイを装備しているのはガマツシャーンからの供給である。

しかし、GTMを全て他国に依存するというところに危機感を持っていたガマツシャーンは、何とか自国開発、製造を模索していた。その時に隣国コーネラ帝国がバルター・ヒュードラー博士を前面に押し出し、売り込みをかけてきたのであつた。この当時は無名のGTMガールランド、バルター博士はボルドックスの設計者ユーゴ・マウザーゆかりの人物という触れ込みで各国に売り込みをかけていたのであつた。

もともとコーネラ帝国はガマツシャーンの資源を輸入してGTM製造に乗り出していたので、ギブアンドテイクという理想的な形でガマツシャーン独自の新規GTMの開発が始まったのであつた。これがGTMエクベラハで、パンター・フレイムの非常に素性の良いGTMであることがわかり、筆頭騎士団レイスルの主力GTMとなつたのである。

エクベラハはご想像のとおり、コーネラ帝国のSBBデモールと設計は共有しているところが多く、兄弟とはいかないまでも非常に近いGTMである。

これからわかるとおり、マウザーはかなり前からコーネラに接近し、バルター博士の援助をしていたようだ。その繋がりもあつてシステム・カリギュラが接近してきたのだろう。

レイスル3党首 ヤオーニ・マルグレス4世

Leader of Three, the Loythru Yaogni Margres IV

身長168cm 体重95kg

ハツードン名家のひとつマルグレス公家の当主でレイスル3党首のひとり。

30以上あるハツードン由来の名家はそれぞれ土地や事業を持ち、ガマッシャーの豊かな経済を牛耳っている。

マルグレス家は公家で、セントリー・マグマによってねじ曲げられたと言われている「マグマ・バイブレーション山脈」から大量の資源を採掘精製する事業をいくつかの名家が取り仕切っており、その中のひとつである。

ガマッシャーの国家を表すように3党首とは言え正直あまりぱっとしない感じの方々が多く、ナオが3党首のひとりに選出されたのは、ガマッシャーの星団に向けての宣伝ということがあったのだろう。

レイスル3党首 メスティ・ウラスバーン

Leader of Three, the Loythru Mesty Ulasburn

身長185cm 体重77kg

レイスル3党首を輩出するハツードン名家のひとつウラスバーン家の当主でレイスル3党首のひとり。

ガマッシャー共和国は共和制を取るが、ハツードン連合共和国の時代から名家と大地主が政治と経済を仕切っていた。その名残で数多く残るハツードン時代からの家が、立法、行政、司法の最高責任者となって形ばかりの国家代表となっている。国家そのものは共和議会が全てを決定し、彼らはその決定を国家代表として公布するだけである。とは言え、3党首を輩出する名家は国家の中心となる事業や鉱山の代表者でもあるので、かなりの権力を持ち、その時代時代に沿った党首が選出されているようだ。ただ名家といっても長い歴史の中でその血統は途絶えていたり、新興勢力の政治家や実業家、軍人が入れ替わっていたりするので、新陳代謝は行われている。



ナオの生い立ち

とても長いがご了解いただきたい。

ナオ・リンドーはレイスル3党首を輩出する名家のひとつ、リンドー家の跡取りである。

この若さで党首となったのは、祖父が「黒騎士ロードス・ドラクーン」であったからである。

ドラクーンの娘がリンドー家に嫁ぎ、ナオを産んだが、騎士の血を持って生まれたナオにはその時点で国民から多大な期待を寄せられた。黒騎士ドラクーンの孫、目立つた歴史もないガマツシャーン共和国にとって、これほど星団中に自国のニュースを知らしめる機会はないと、国家、国民揃っての大合唱で盛り上がった。

だが、実際のナオの騎士の力を取り立てて飛び抜けたものではなく、並以下の実力しかなかった。まさしくガマツシャーン共和国そのものである。

だが、そんなことは盛り上がる世論に許されるわけはなく、ナオは実力以上の持ち上げられ方をされ、若くしてレイスル3党首のひとりに選出された上に、筆頭騎士団レイスルの騎士団長にまで選任された。もちろんファティマもないのでGTMには乗れず、「名誉騎士団長」である。

なんともむごい仕打ちである。その上に祖父ドラクーンのパートナーであったファティマ・エストを引き合わせ、「次の黒騎士はナオか？」というデタラメニュースをばらまかれ、「シュバイサー・ドラクーン」という呼び方も勝手に付けられてしまった。

レイスル3党首家の名より黒騎士の名の方が有名だということである。なんとも情けない国家である。

もちろんエストはナオを次の黒騎士と認めず、ガマツシャーンはこの事実をひた隠した。

ナオは名ばかりとはいえ、騎士団長であったので、各国の軍事演習にもかり出されることが多く、事情を知らない他国の騎士や軍人からはレイスル3党首と言う立場とドラクーンの孫ということで演習の助言を求められることが多かったが、意外やナオは戦術家としては非常に才能があつたのか、的確な指示と指揮で各国の騎士や軍人から「天才的な戦術家」という評価が高まった。

ただこれはナオ本人の才能で、唯一の本当のことだった。しかしそれがまたガマツシャーンの国民にとってはレイスル党首、黒騎士の孫に加えて天才戦術家という燃料投下で、さらに誇張されたニュースをばらまかれることになった。「天位殺し」だのいったいどこから湧いて出たのかわからないような嘘までばらまかれる始末であつた。

自分への期待が高まりすぎたために呑気なナオ

も危険を感じ、しばらく身を隠してほとぼりが冷めるまで国を離れていたという。

お披露目での出会い

人にまったく警戒心を与えないナオは人当たりも良く、この短い休暇を楽しんでいた。

ハスハ連合共和国時代の自由都市ムンスターでは自由都市ならではのファティマのお披露目がよく開催されていた。

トランのバストーニュのような国際的なお披露目は政治外交も兼ねた大イベントだが、通常はあれほど派手ではなくひっそり行われる。

ナオはそれまでも何度か国内のお披露目には出ていたが、認めてくれるファティマはおらず、「シュバイサー・ドラクーン」に見合うファティマなどそうそういなくて当然」と言われ、ファティマを娶る実力がないという事実が隠蔽されていたのだ。

しかしまたまたムンスターで知り合った騎士に「気軽にファティマ見物するつもりで出ればいいじゃん」と言われ、この騎士と共に披露目の会場に行ったのだ。

その騎士もなにやら国内のほとぼりが冷めるまで世界を見て回っているということで、ナオはこの騎士と意気投合したのである。

バストーニュやヴァキシティなどの国際的なお披露目では、銘入りの高名なファティマ達や性能の高いファティマには有名な騎士団や騎士達がステージに登場するファティマに群がって順番に挨拶をする派手できらびやかな世界だが、通常のお披露目はずらりと並んだ工場製や銘無しのファティマ達の前に騎士達が次々とお目通りをし、ファティマは後から相性の良い騎士を見つけた時だけお披露目仲介人にその旨を伝える。

だが、著名騎士団やある程度名の知れた騎士にしてみれば本命以外の余計なファティマを娶るわけにはいかず、こういった工場製ファティマ達の

お披露目に来るのは、並以下の騎士であることがほとんどなのである。

で、ナオはファティマ達に挨拶をしていたのだが、いきなり適当な服を着せられた名無しのファティマが仲介役も介さず、ナオの前にやって来て自分から挨拶をしたのであつた。

普通はファティマが選んだ騎士に断られるという事態を避けるため、後から仲介役を介して騎士の了解を得た後にファティマが騎士に挨拶をするのだが、いきなり自ら騎士に声をかけるのはルール違反でもあつた。

黒髪のちよつと目のつり上がったファティマで、胸に名札が付けられており、名札にはマジックで「レイニャ」と書いてあつた。

ファティマに選ばれることはないと思っていたナオにとつては青天の霹靂で、断る理由もなくナオはそのファティマを娶ったのである。

その時、ナオをこの会場に連れてきた騎士のファティマは目を丸くして思わず

「おおお、おねえさま、なぜこんなところに……」と言いかけたが、ナオを選んだ銘無しのファティマににらみつけられ黙ってしまった。

言う必要もないが、ナオを連れてきたのはボードという騎士で、メルクラという聞いたこともない名前のファティマと一緒にあつた。

高名なファティマがその素性を隠すことは余計なトラブルを避けるためにもたまにあるが、この時はこのファティマの保護者でもあつたフィルモアのステイル・クープ博士が、ひっそりこの子がマスターを選ぶように采配をしたのである。ナオを選んでしまったのは予想外だが、意外と不思議なことではないとクープ博士は感じたという。クープ博士などのガールランドは自分の作ったファティマ以外にも名無しや工場製のファティマ達をなるべく多く嫁がせるために後見人となつてこ

ういった小さなお披露目にファティマ達を連れてくるのはよくあることであつた。

で、なんでクープ博士がこのファティマを「ひっそりとマスターを選べるように」依頼したかといえば、このファティマ、騎士相手に何を言うかわからないと言う恐ろしさがあつたからである。

例えば、目通りに来た騎士に向かって

「あなたは私には不釣り合いです」とか平気で言うぶつ壊れファティマだったからである！

クープ博士のもとにこの困ったファティマを連れてきたのはマドラ・モイライという若い女性騎士で、「聖帝預かりのファティマだったのですが、私とは相性が合わず、引き取ってもらえないか？」という理由であつた。

そしてこうも言つたという。

「シャープスお爺さまの新しいGTM、この子なら開発を手伝えますよ」と。

本国に戻つたナオはこのファティマを連れてようやくGTMに乗ることができたのである。

連れのファティマはもちろん騎士達からは「レイニャ」と呼ばれ、国民からは「さる高名なガールランドの作つたファティマである」と、また嘘ばかりの記事を書かれ、実は嘘ではなかったとわかるのはかなり先であつた……。

ベラ攻防戦の最後、攻撃に失敗したバツハトマのジイドを無事救出したナオと令令謝、GTMハロ・ガロのまごう事なき活躍はガマツシャーン国民を熱狂させたことであらう。

天照家はナオの実力の正解には知り得ていなかったが、令令謝をパートナーに持ち、天才的な戦術家ということで非常に警戒していたのはミス宇宙軍の言葉でわかる。

だが、ナオにはまだまだ隠された秘密があるようだが……。

レイスル3党首 レイスル騎士団長
ナオ・リンドー
(シュバイサー・ドラクーン)
Nao Lingdo "Laythru"- Schweitzer Dragoon
身長188cm 体重78kg



ガマッシャー共和国 旗騎GTM ハロ・ガロ フィルモア帝国新型GTMラミアス・エリュアレ

Gamaschane Flagship GTM Hello Gallo
Empire Fillmore GTM "LAMIAS"
Type Gargon's Euryele

全高27.5m 自重240t

このフィルモア帝国の最新GTM「ラミアス」がガマッシャーのナオの乗騎となったのは先の理由による。設計者シャープス博士は3騎作ったラミアスをマドラ、ナイアス、そして剣聖慧茹に渡したが、剣聖マドラと慧茹は同じ「ゴーゴズ・メドゥーサ」を使用しているのに、1騎残ったハロ・ガロは別のテスト騎体として令令謝に渡されることになった。極秘の新型GTMを他国に渡すというのはフィルモアにとっては意外と珍しくはなく、古くはカイゼリンがそうであるように、ハロ・ガロもずんなりとガマッシャーに渡された。これにはさまざまなデータを取りたいというフィルモアの意向もあったのだろう。何よりナオと開発にかかわった令令謝という組み合わせがクーブ博士の興味を引き、それを同じ帝国老人クラブのシャープス博士に頼んだというのが事実である。怖いものなしの老人クラブである。年を取ったらメンツや慣習にとらわれることなくこうなりたいものだ。

ドージョージ型フレームというライオン・フレームをさらに堅牢にした設計で、3騎のラミアスは指揮駆逐型として換装されている。後に大量生産に入るラミアスはこの3騎とは異なった汎用GTMである。ソープが一眼で見極めたように、指揮駆逐型のラミアスはGTMカイゼリンやメロウラと設計思想を同じにしている。そのため外見もカイゼリンを彷彿とさせる見た目になっている。特に白の装甲のハロ・ガロはよりカイゼリンに近い。

ベラ攻防戦であのアイシャのソニック・ブレードを同じソニック・ブレードで弾き、ブラフォードとキュッキの連弾攻撃を受け止めたハロ・ガロの頑丈さは特筆すべきものである。



超弩級ファティマ・令令謝(レレイスホト)

Dreadnought super Class Fatima
Lei Lei Sha ~Le Le ist Hotos

身長160cm 体重40kg

バランシェファティマNo.18。「超弩級ファティマ」
一応S型だが、半分くらい「ほっ」とい型」
実はまだ謎のファティマ。

「薔薇の剣聖」と呼ばれたマドラ・モイライがそこの橋の
下の段ボールに捨てられてにやーにやー泣いているのを見か
け…じゃない、かどうかは知らないが、マドラのもとにいた
のは確かである。妹であるヒュートランが生まれた時はバラ
ンシェ邸にいたが、それ以外はまったく謎のファティマであ
った。
それもそのはず、令令謝はバキン・ラカン帝国の聖帝ランダ
のもとにいたのだから。やがてランダから前聖帝ミマスの時代
に移り、ミマスはマドラを呼び出し、「実戦でGTMを制御さ
せることに問題があり、非常に危険なファティマなので預か
っていて欲しい」と依頼した。マドラが令令謝を連れていた
のはそういう理由があったのである。バランシェはなぜこん
なやっかいなファティマを作ったのか、その理由がわかるの
はかなり先である。ヒュートランのような理由ではないよう
だ。

とにかくその後マドラによってクープ博士に預けられ、シャ
ープス博士の新型GTM「ラミアス」の開発を手伝い、一段落し
たところでムンスターのお披露目にクープ博士と共に無銘の
ファティマとして会場の片隅にいた。クープ博士にとって一
人でも多くの騎士に会わせて、相手を選ぶ可能性を高めたい
というのが理由である。
バランシェ公の令令謝とわかれば、令令謝とわかって求めて
くる騎士の数は激減し、注目されればそれだけ令令謝の異常
な性質が公に出てしまう。だからであろう。
これはバランシェとも相談して得た結論である。

そこでナオと出会ったのである。ただこの出会いは聖帝ミマ
スから頼まれ、マドラが仕組んだ可能性も否定できない。マ
ドラがナオにファティマを渡すのはある意味、理にかなって
いるのだから。
「超弩級」とされるファティマは彼女とヒュートランくらい
しかないが、それ故、星団中の騎士が探し回っていた。
しかし令令謝としてお披露目に出れば前記の理由でひと騒動
あるだろうし、彼女が騎士に向かって暴言を発すれば処分対
象になることは間違いなく、それをクープは恐れたのだ。
物語中でもナオに向かって相当なことを言っているが、あれ
はもちろん御法度でマスターの実力をけなすような言動はフ
ァティマとして許されないことである。
まあ、それも含めてバランシェ・ファティマということなの
だが、令令謝本人は「エストに認められなかったおかげでナオ
が自分のマスターになった」と喜んでいるのも本当である。

ベラの戦いでは自分達の存在をずっと記憶し続けてくれる
「アークマスター」であるソープの存在にいち早く気づき、そ
のソープが敵であることにもかかわらず、マドリガルやバシ
テアを鼓舞し、戦い続けた。「自分達がソープ相手にたじろ
いで性能を発揮できずマスターを失うことになればソープが落
胆する。それはつまり父であるバランシェから仕事もできな
いファティマと見捨てられる」。自分の存在の否定、それが最
も恐ろしいことだと令令謝はわかっていたのだ。本来こうい
った判断をバランシェ・ファティマ達はするはずなのだが、
京とアトロボスの戦いでは薬漬けであった京はそこまでメン
タルが弱っていたのかもしれないし、何よりソープのGTMと
のタイマン対決であったことも大きかったのだろう。

また、最後のアイシャ達の参戦に関しては、とっくに勝敗は
決しており、これ以上の戦いは無駄であるというナオの判断
に基づくもので、ナオも令令謝も八口・ガロで出撃した時か
らフォクスライヒバイテと戦う気などなく、いかに部下達を
無事に引き上げさせるかというきっかけを作りたかっただけ
なのだ。
凄いのをそれを察したアイシャもこの場をどうすれば良いか
考えており、さらに凄いのをそれを察したファティマ・京が
きっちり助け船を出したということである。
別にヒュートランに豆腐をぶつけたという過去で令令謝が
「だめですにゃああ〜」になるわけではなく、あれは令令謝と京
の出来レースである。「ここで戦いはおしまい」ということだ。
あの規模での戦いになれば一瞬の判断の遅れが大損害を出し
てしまう。戦況を見極めたナオならではの判断である。
もちろん令令謝はヒュートランのことなど屁とも思っておらず
豆腐の件がばれたらヒュートランを叩きのめしてやる気満々
である。勝てるかどうかは別にして令令謝は気だけは強い。

ただ…彼女が「超弩級」と言われるのには別の理由があるよう
なのだが、それは現時点では誰も知らない。令令謝が本当の
名前で戦う時、それはもう彼女ではないのかもしれないが。



令令謝 デカダン・スーツ
Lei Lei Sha Loythru Light Suits

レイスル騎士団のごく普通のスーツで
ある。アシリアも取り立てて派手なわ
けではない。超弩級の筆頭ファティマ
としては意外であるが、ごく普通の感
じのスーツになったのはガマッシャ
ーの国民性を考えると「超弩級のバラ
ンシェファティマ様なら星団ード派手
なファティマスーツに！」とかになる
のは当然で、そのド派手なスーツが目
も当てられないくらい悪趣味なものに
なりそうだったのは重々わかっていた
ので、ナオはこれだけは好きにさせて
くれてと頼み込んだのが手に取るよう
にわかる。

レイスル3党首 レイスル騎士団長
ナオ・リンドー(シュバイサー・ドラクーン)
Nao Lingdo "Laythru"-Schweitzer Dragoon

身長188cm 体重78kg

「ボォス星はミノグシアの民だけのものじゃないぜよ」
ナオがいつも言う言葉である。

同じボォスの民として植民星からの歴史を持つハツードンのガマッシャーン共和国にとって、自分達はボォスの民ではないのか？という問いかけがここにある。
ミノグシアとは離れ、ラーンや詩女も身近ではないハツードンの民にとってラーンや詩女は遠い存在である。だが、自分達も昔からのボォスの民であるという想い。強国となったハスハからは距離を置かれ、取り残された感をガマッシャーンの人々が持っているのは事実だ。それをナオは代弁しているのである。

びっくりされた方も多いと思うがナオのエピソードは非常に多く、シナリオも用意されていた。それは「ナオは主人公クラスとして作られた」という理由による。先のページのエピソードもそのひとつだが、ナオのエピソードを描くとさらに物語が伸びてしまうので、こういう形でナオの人物像を残しておきたかったのだ。

超帝国剣聖クルマルスの意志を持つ人物であることはおまけのようなもので、ナオが実際に強い騎士なのかどうかということはどうでもいいことである。ただ、その豊かな感性と器の大きさにより、彼が何者であろうとファティマの令令謝はナオを選んだだろうということである。
ああ見えても令令謝は全身全霊をかけてナオをサポートする。無駄な戦いをさせない。危険極まる戦いは避ける。戦う時はヒュートランもかなわないほどのフルサポートを行う。その令令謝の途な想いにナオはしっかりと応える。そういう関係である。

ナオがはいているのはキルトでスカートではない。スコットランドの民族衣装だが、リンドー家の家紋色で織られたキルトである。で、気が付かれた方もきっと多いと思うが、この格好はアクセルのかつてのステージ衣装でもある。アクセルの先祖がスコットランド出身なのかは知らないが、なぜはいていたのかは謎である。



ファティマ・レイニャ

正体を隠し、ムンスターのお披露目に出た時の格好である。
やり過ぎじゃ！ お前は！
つぎはぎの付いたエプロンはともかく、
つっかけ履いたままで、家事仕事置いた
まま来ました！的な格好では普通の騎士
は避ける。まあある意味「ほっといて型」
みたいなファティマなので仕方がない。



レイスル騎士団
女性騎士服 後ろ

Kampfritter Laythru GTM Male Battle Suits Back



レイスル騎士団 女性騎士服

Kampfritter Laythru GTM Female Battle Suits

レイスル騎士団の女性騎士服である。男性よりも細めに作られ、肩のショートマントは形そのものが異なる。配色は同じで、コートは前がはだけているが、男性と同じズボンタイプもあり、この辺は騎士服を発注する時にオーダーする。このあたりはどこの騎士団も同じである。レイスルの持つガット・ブロウにもオレンジイエローがあしらわれている。

レイスル騎士団 男性騎士服

Kampfritter Laythru GTM Male Battle Suits

レイスル騎士団の騎士服である。

基本的に国家紋章の色であるブラックブラウンとオレンジイエローの組み合わせのスーツにナポレオン時代のような帽子が特徴的である。

レイスル騎士団はガマッシャー共和国の筆頭騎士団でそれなりにエリート騎士団である。ガマッシャーの状況からあまりたいしたことのない騎士団かと思われるが、ナオの戦略家としての名声が高いためにいろいろな国家との共同演習が頻繁に行われている関係で、大国と遜色のない経験を積んだ騎士達で構成されている。もともとロードス・ドラクーンが剣の指南をしていたこともあり、彼らの強さは折り紙付きである。

ガマッシャーはその国力から非常に多くのGTMを保有しており、バツハトマと同格の戦力を有していると思われる。その筆頭であるレイスル騎士団は3つの戦闘団に分かれ、GTM総数260騎以上という大騎士団である。

ベラの戦いでナオが引き連れていたのは第1戦闘団で3つの大隊から成り、本来ならば総数90騎程度だが半数くらいであった。この数はウモスやロッゾと合わせたときで良いだろう。新型のGTMエリベラッハは24騎、スイセンは36騎だったので、1大隊にエリベラッハ8騎、スイセン12騎という振り分けだったのだろう。もっとも新鋭騎のエクベラハが24騎しか間に合わなかったという事情があったのかもしれない。



レイスル騎士団
ファティマ アシリア・スーツ山吹色
Kampfritter Laythru
Fatima Suits Assilia Orange



レイスル騎士団
ファティマ デカダン・スーツ
Kampfritter Laythru Fatima Light Suits

レイスル騎士団のファティマ達の
デカダン・スーツ(ライトスーツ)。
令令衛が着ているものとほとんど
同じで、イエロー主体のかわいい
スーツである。



レイスル騎士団
ファティマ アシリア・スーツ黒
Kampfritter Laythru Fatima Suits Assilia Ebony

筆頭騎士団レイスルのアシリア・ス
ーツはなんと2色ある。
ガマッシャーの国旗を司る黒と黄色。
このどちらかをファティマ・スーツの
色にすることは決定していたが、黒に
するのか黄色にするのか意見がまとま
らないまま2色のアシリア・スーツが
採用された。騎士団のイメージとし
てもスーツにかかるコストを考えてもど
ちらかの色に統一した方が良いに決ま
っているのだが、物事をなかなか決め
られない自信のなさが表面化したガマ
ッシャーの国民性である。
端から見る分には2色あって華やかで
楽しい。まあ、結局これがいまだに2
色に分かれたままの理由である。



オートマチック・フラワーズ
=零零=

Automatic Flowers ZERO ZERO

身長160cm 体重40kg

Power Gauge:

BF18-Smk

Type: TY-PHON Dreadnought super Class

OUT of Clearance 3A-3A-2A-2A-2A

バランシェ・ファティマNo.18「ゼロ・ゼロ」
「タイ・フォン」型ファティマでもうひとりい
る「先先(マーター・マーター)」
"Mater Mater"と共にいずこかへと消え去
った。



超帝國剣聖 剣聖騎士団

セブンソード3

ナオ

Nao Dio Crumars

身長238cm 体重123kg





Characters

キャラクターズ





セントリー “ブリッツ”

Centry "Briz" of The Plasma Supreme ruler

全長：無、質量：存在しない

セントリー・ブリッツ。

ボォス星カステポーとその周辺大陸において最強を誇る「なにか」。生命どころか物質でも幽体でもない「なにか」である。

物質でないこの「セントリー」達に物質世界の我々はいかなる影響も与えることはできない。エネルギーというものを使用する我々のあらゆる兵器は通用しないというか、「そこにないもの」に対していくら攻撃しても無意味ということである。

だが、セントリー側からはその「無のなにか」の周囲から反応する物質によってブリッツは強烈なプラズマを発生させる（炎はプラズマの一種。エネルギーの形態の一種で気体でも液体でも固体でもない）。

このセントリー・ブリッツは雷雲や雷を周囲に生みだす。

セントリー・マグマは熱エネルギー反応を起こすために、マグマなら水蒸気や熱風を周囲に反応させ、竜巻や津波、地震といった天変地異を巻き起こす。

セントリー・バルサーは周囲に強烈な重力波を発生させ、重力（グラビトン）をコントロールし、電磁波に影響を与える。セントリー・バルサーは星同士を引き寄せて破壊することも可能だ。

セントリー・カラットは素粒子のひとつである光子（光子）に影響を与え、光エネルギーを自在に操る。光は時間の単位でもあるので、つまり時間、時空にも影響を与え、カラットの居る場所は時間が通常の進み方と異なると言われる。

セントリー・ライブに至ってはあらゆるこの世の物質を自在に変化させることができる力を持っている。反物質や我々の知らない素粒子、空間物質なども含めてだ。つまり星や宇宙ですらである。ライブは太陽系一つをこの世から消失させることすらできる。これは全てのセントリーの持つ特性を持っているということだ。デルタ・ベルン星がライブによって破壊されたのはこの力のこくわずか一部である。

ジョーカー世界にある光には全てセントリー・カラットが存在しているし、同じく炎を含むプラズマにはブリッツが、重力や電波にはバルサーが、熱、温度にはマグマが、そして物質全ての中にライブが存在しているのである。こんなものに人間がどうこうしようということ自体が、いかに無駄で愚かなことかということである。

セントリーは歴史の中で数々の事象を引き起こし、人間に直接影響を与える時もある。それは最近だと枢軸軍のハス八侵攻時、ウモス連合4ヶ国がイースト・ハス八を横断する時に雷によって壊滅した。

理由は我々にはわからない。セントリーに聞いても無駄である。縄張りを犯したとか、セントリーにはルールがあり、何か理由があるはずだといった人間の理屈などまったく通用しない。セントリーに問えばいい。「なぜあの時は手を下し、この時は無視したのか？ なぜ？」と。

きっとアマテラスと同じ返事が返ってくる。

「理由などない」である。

だがそういう行為に人間はいつも自分達の多くが納得できる理由を探し求める。その結果「全て間違った」推論や議論を繰り返すのである。責めてはいけない。「その事象に理由などなくとも自分が納得できる理由を探す」それが人間の思考の本質だからだ。

何もいないのに何かがいる。こちら側から何の影響も与えられないのに向こうからは我々世界の物質に影響を与えることができる。つまり平たく言えば「高次元」の存在であるのかもしれない。ただ、本来人間には見えないセントリーがまれに見える時がある。このブリッツはその中でも最も目撃されているセントリーである。



ラキシス GTMスーツ

Lachesis Kampfsuits

身長162cm 体重37kg

相変わらずのラキシスである。
身長、体重は変わっていないが、ツラック隊のおやつも支給されなくなるひもじい状態を耐え抜き、連日の激務にずっと付き合っかなりがんばった。えらいえらい。
ツバツツの差し入れのタピオカミルクティーもおやつがなくなった時期なので一発でなびいてしまったのはかなり情けない。

このスーツはシアン夫人が作ったもので戦闘をメインに可能なデカダン・スーツということで、GTM制御専門と言うべきアシア・スーツよりも軽快である。
同じ時期に作られたパルスエットのスーツも同様で、どちらもそれぞれ1着のみのカスタムスーツで同じものはない。
ラキシスのものはより戦術的に作られ、あらゆる攻撃をバリアで弾くようになっている。
ミラー・マークもサイドの黒いカウンターパネルも全て戦闘用のデバイスである。
ヘッド・アシアは髪飾りにも見えるように作られ、アンテナには見えない。ツラック隊で普段付けていたものはデザインは同じだがもっと小型である。

靴だけはシャーロット・オリンピアのふざけた3色アイスのプラットフォームピンヒールだが、外国にも3色アイスがあるのかとちょっとびっくり。

この靴のプラットフォームはつま先は2センチほどだが土踏まずあたりで5センチほどになりその後どっかんの12センチ以上のヒールが付いていて、履き心地は良いらしいのだが、プラットフォームの形状から歩くと滑りやすいということである。
まあステージ用の靴である。
銀座の松屋でたまたま見かけてすぐに購入したのだが、このブランドの靴を当時発見するのは至難の業であった。
昨今のアパレルが厳しい状況でイギリスのこういったファニー、ポップ、ガーリーブランドはがんばってくれているのでうれしいし、何よりその作りが安くならず、製造はイタリア製でイタリア高級ブランドに負けない手作り感満載の作りである。
ヒールのアイスコーンなど手巻きに近い造形でびっくりする。
これでヒールの強度もきちんと確保しているのだから凄い。
まあ、値段もジミー・チューとかマノロ・ブラニクのレベルで…ジミー・チューより高かったか…。

考えてみたら、作品に登場させるメインキャラクターの服はもちろ永野デザインだが、1シーンだけ登場するような女性キャラの普段着は既製品をそのまま使わせてもらったりしている。
多くはないが永野デザインではない既製品でもメイン級で登場するのはこのシャーロット・オリンピアの靴やフル・フォーザ・シティのラストでアラニアが着ていた「ボディマップ」の服とかで、イギリス製が多いことに気がつく。まあ、なんとなくわかる気もする。



バーナー・恋・ダウド(ミキータ・オージェ)

Burner Renn Doudo as Michietta AUGÉ

身長145cm

愛称は「恋(レン)」。

レンダウドと続けて呼ばれることもある。

ツラック隊最後の戦いでレイスルのナオ騎士団長と共にいた。

パートナーはバランシェ・ファティマの“バシデア”。

戦いに参加できないことをぼやいていたが仕方がない。現在の彼女の力もまた「ちょっと強いのかもしれない騎士」程度でしかない。同じ境遇のマドラ・モイライにも及ばないのだから。これはナオも同じである。

騎士としての力は比較にならないほど落ちているとはいえ、炎の女皇帝の子供としてスコーパー能力を持つ彼女はナオも気がつかない「ララファ」の行方を感知していた。

超帝国剣聖、7剣聖のひとり。

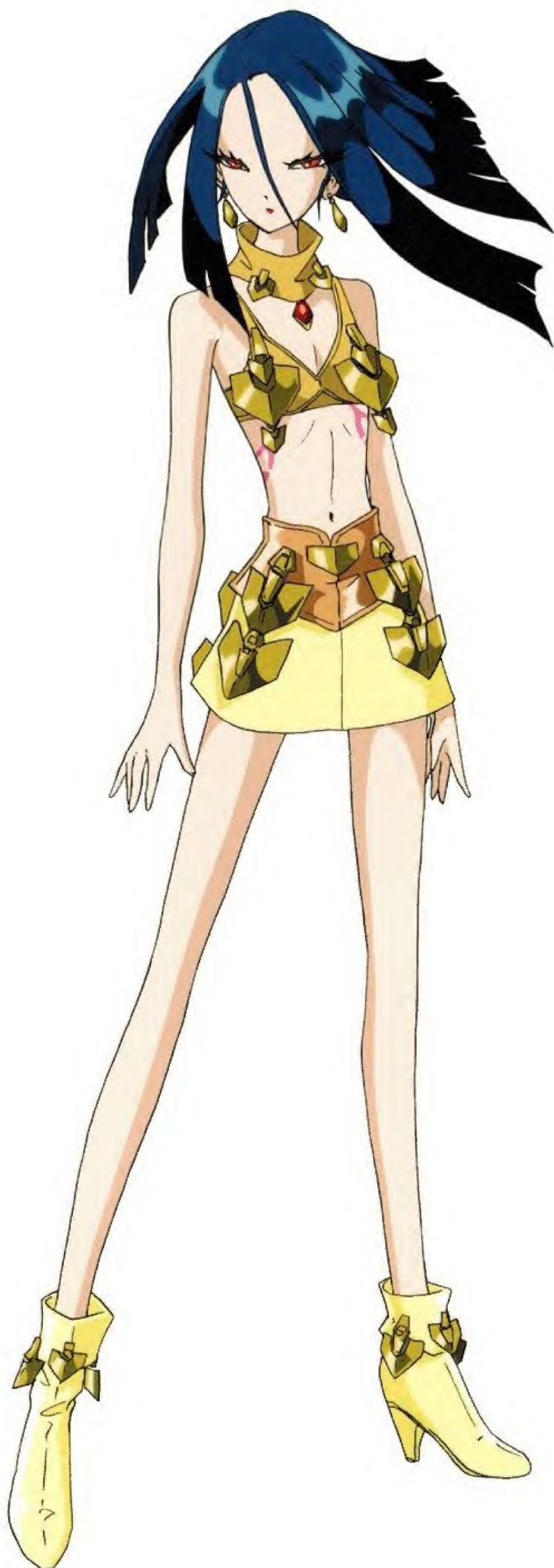
GTMシュツツィエンを現在も所有していることがわかっている。その名から気がついた方も多と思うが、ミラージュ騎士団左翼No.21のレンその人である。

ところでミラージュ騎士のナンバーはかなり前後している。バイツェルやキューキィ、このオージェなどもなんだかそれ以後のナンバーよりも後から入っているのに若いナンバーである。ミラージュのナンバーは連載開始前からだいたい決めてはいたのだが、ふと思ひ直すと正規ナンバーですら最初からおかしい。アマテラスが産まれる頃より天照家にいるログナーがNo.4で、2900年代にミラージュとなったはずのアイシャが2である。アイシャのNo.2は天照家No.2の意味も含めているし、ログナーは最初から4番と決めていたというもある。斑鳩などもそれに合わせてはあるが、基本的にミラージュのナンバーと入団時期はまったく一致していない。

3960年時点で32番目のカーレルというのは多いのか少ないのか？

実はこれも漠然と考えられていて、ミラージュのナンバーと団員が多い時期というのはエピソードにミラージュに関わる事例が多い。アマテラスの活動が物語の2988年から3159年、そして3960年あたりから4100年までと決めてあるからである。つまり、3000年代中盤はほとんど出番はないということだ。とはいえ、ログナー、プロミネンス、オージェ、ツパンツヒ、マウザーは延々出てくるだろうし、現在ミラージュ騎士に学生が多いので3200年代くらいまではミラージュで登場するだろう。

物語では内宮高等学校小学部の小学生だが、ちびっ子ログナーと対等にケンカをしているところをよく見られているので、「あの方は凄く偉い人」という認識を誰もが持たざるを得ない。ただ、偉そうな口調はログナーに対してだけで、ミラージュ内では新人の立場をわきまえ、誰に対しても丁寧な言葉使いだし、その口調はとても優しい。元々の本人の性格がよく出ている。



超帝國劍聖 ミキータ・オージェ
Michietta AUGÉ "the Seven sword"

身長220cm





ファティマ・パシテア

Fatima Posithea The Charites

身長168cm 体重43kg

オージェのパートナー。

バランシェ・ファティマNo.35。

前のマスターを失ってからコークス博士のところに行ったが、ナオの連れてきたオージェに反応してオージェをパートナーとした。

とはいえ、その後オージェはすぐにミラージュ入りするので「出戻りファティマ」である。

パシテアは美と優雅を表す「カリテス」のシリーズの一人として生まれた。

カレ、アグラリア、エフロシューネ、タレイアなどと同じ時期に作られ、この5人はタイプ以外は非常に似ている。この時作られた5人はアグラリア、エフロシューネ、パシテアの3人がL型で、L型ファティマを3人というのは他のガーランドでは見られない。

スーツはL型なのだがなぜかソックスを履いて識別が非常に怪しくなり、何が何だかわからないが、アシリア・セバレートはそういうものなので気にしないでいただきたい。これはアシリアのL型スーツだと非常に重苦しくなるのを避けるためで、ティスホーンもほわほわブーツを履いて柔らかく見せる工夫がされている。L型スーツをデザインする時にいろいろと試しているのだが、ものすごい重装甲スーツに見えてしまい、軽く見せるためにさまざまな工夫をしている。

アンドロメダなどはスタイリッシュなアシリアでショートブーツがきっちり合うのだが、パシテアはこのボリュームのあるフリルがががんの衣装で、これを着てわざわざ歩くところを想像すると、足は肌色で足もとは軽やかな方が良く判断したからだ。

金髪に黒という元のデカダン・スーツやミラージュ・アシリアに合わせて作ってあったのか、このアシリアとデカダン・スーツはミラージュに戻ってもそのまま使用している。たぶんもともと漆黒の黒十字を外したままでも使えるようにしてあるのだろう。

ファティマ・アグライア

Fatima Agloia The Charites

身長165cm 体重41kg

バランシェ・ファティマNo.36。

4話での回想シーン以来、ようやく本編登場のアグライアである。キュキがアイシャらと共に行動しているのが彼女の出番も今後普通にあるだろう。

ロングタイト型の下衣だが、アシリアは重いので上衣だけがヘリオス繊維装甲でスカート部は同様の光沢処理がしてある軽い素材である。

しかしミラージュ・ファティマ達のアシリアは全員別デザインでクローム光沢という派手さ。アシリア・ヘッドパーツはほとんどが透明かこのアグライアのような内側にハードクロームパーツを蒸着しているかのどちらかで、恐ろしいほどコストがかかっている。

で、アグライアさん。初めて「ストライパー」システムを使ったファティマである。あの時はもうページがなくてストライパーを使われたミラージュGTM各騎がどう動くのかとかも見せたかった……わけはなく、ストライパーの本格始動は3159年なので、まあ本当に顔見せということである。

アレクトーが気絶していてもアグライアやカレヤ京がフォクスライヒパイテを自分のGTMのように動かしていたのだということである。

まあ、アレクトーが気を取り直してやる気になったので、ストライパーはエンジン制御のみ行っていたようだが、お姉様方に自騎のフォクスを制御させるアレクトーの太っ腹というか、なんというか、まあソープも怒ってはいない。極秘のミラージュGTMを実戦で出撃させた以上、やれることはやっておくのがセオリーである。



ファティマ・アレクター

Fatima Alekto

身長163cm 体重39kg

バランシェ・ファティマNo.39。

ミラージュ騎士団のアシリア・セバレートとしてはたぶんこのアレクターのものが初公開だったはずだ。

実は本編中ではすでにアレンジがなされ、肩幅が非常に大きくカットインされている。80年代の肩張りファッションを彷彿とさせるシルエットに切り替わっているのだが、気がつかれた方はいらるだろうか？

またアシリア・ヘッドパーツがヘアバンド風になっているが、アレクターの髪型だと幅の広いヘアバンドがとても似合うはずなので一回やってみただけである。

画像が2点掲載されているのはアシリア・セバレートのアンテナの表示ありと表示なしのパターンである。なんで2点掲載かといえばアンテナまで表示させるとキャラクターがちっこくなるからである。

さて、ミラージュ・ファティマ達だが、デカダン・スーツバージョンが連載開始すぐに何点も公開され、カラフルでスタイリッシュなミラージュ・ファティマ達の人気は今でもトップランクである。しかし、ミラージュ・ファティマ達は意外とそんなに派手なスーツデザインではない。フィルモアやハスハ、今回のウモスのファティマに比べるとデザインそのものはとてもシンプルである。

他国のファティマ達は大時代的なデザインだが、ミラージュ・ファティマ達はどれもシンプルでスタイリッシュなデザインがイメージとしてあるために、L型はともかくS型やM型はとても軽快である。



ファティマ・京

Fatima Kyo

身長162cm 体重39kg

バランシェ・ファティマNo.17。
ナンバリングを見てわかるとおり、令令謝のすぐ上の姉となる。
ヒュートランが生まれた時期に京と令令謝がいたのはまだ2人
共にお披露目には出ていなかったのかもしれない。バランシェ
邸で一緒に過ごしている時間も長かったのか京は令令謝を「レ
レイス」と呼んでいた。妹とはいえ愛称で呼ぶことは珍しい。
アシリアは一応以前の和風なイメージに合わせて作ってあるよ
うで、ヘッドパーツはこの通りかんざし型である。

ベラ戦で次々と登場してくるミラーージュ・ファティマの中で、
なぜかこの京だけ登場せず、「おかしい…」と思っていた方がい
たかもしれないが、京は最後のあの時のために取っておいたの
だ。あの場面、バランシェ・ファティマ対バランシェ・ファティ
マという、壮絶さを最高の状態で演出するためだったのだが、
想像以上の戦いに皆様声も出なかったかと思う。片方のファティ
マとGTMが精神ぼろぼろになるというまさに壮絶な戦いだ
ったのだ。

……。いやほら、ファイブスターは強すぎる奴ら同士の戦いは
もう一週回ってあんなことになるのはご存じかと思う。



ファティマ・カレ

Fatima Kake The Charites

身長160cm 体重38kg

バランシェ・ファティマNo.34。

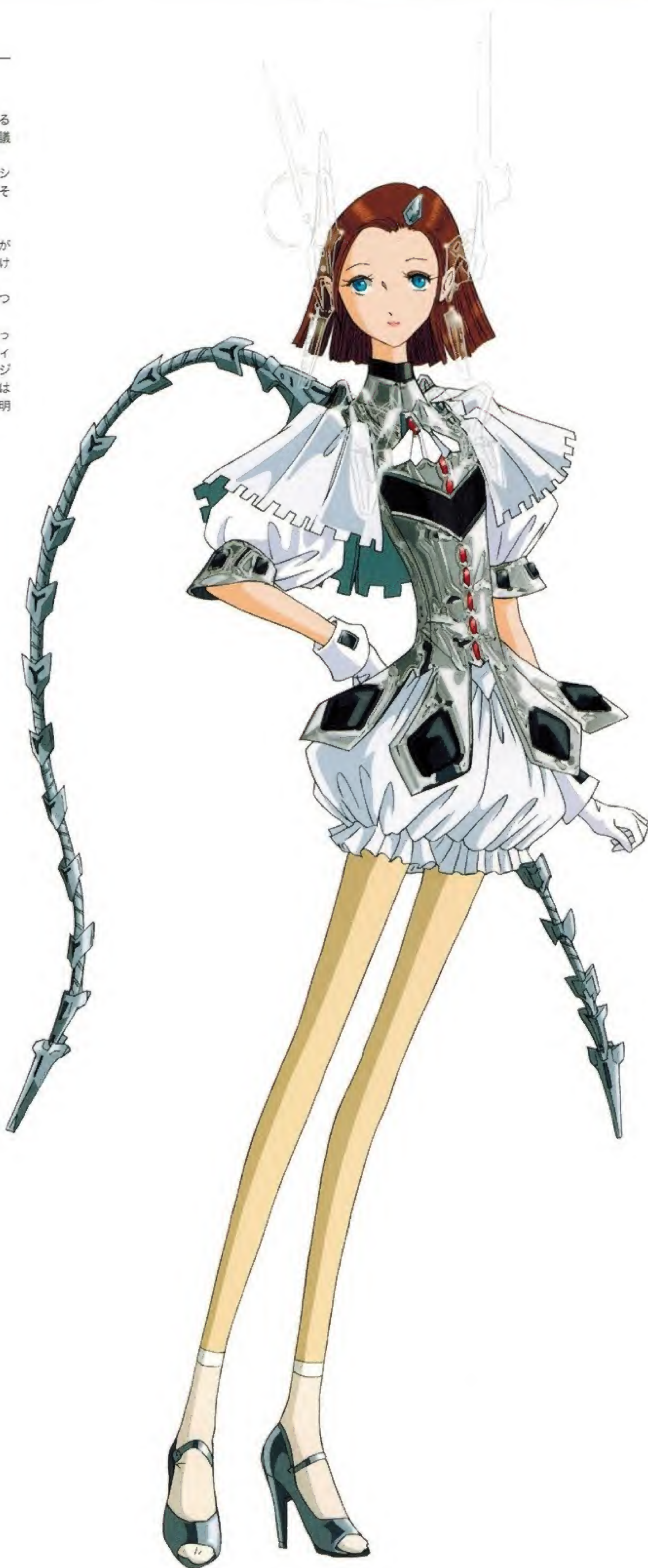
S型なので先のカリテス・ファティマの中では一番若く見えるが、実はアグライアやバシテアよりお姉さんというこの不思議さが、ファティマである。

カレのスタイルはもともとお気に入り、地味目のグレーのシンプルなワンピースに肌色の足に白い靴下というイメージはそのままアシリアにも受け継がれた。

襟無しのすっぱーんと思いきりカットिंगされたマントがあまりにもエッジが効いていて、実際このような戦闘服でなければとても間が持たないであろう。

アシリアは超ショートタイプでバルーンパンツが大きく目立つデザインとなっている。

後ろの垂れ下がるインジェクターは有線で、テスト状態であったミラージュGTMの制御状況をリアルタイムに他のファティマに打ち出していたのだろう。通常はこの尻尾みたいなインジェクターは使われず、光アンテナである。ヘッド・アシリアは完全に透明で制御のメカパーツなどどこにも見えないが、透明な制御システムがちゃんと内蔵されている。



ワспен・ナンダ・クラック ユーゴ・マウザー教授

Waspene Nanda Crack
as Professor Yugo Mauser

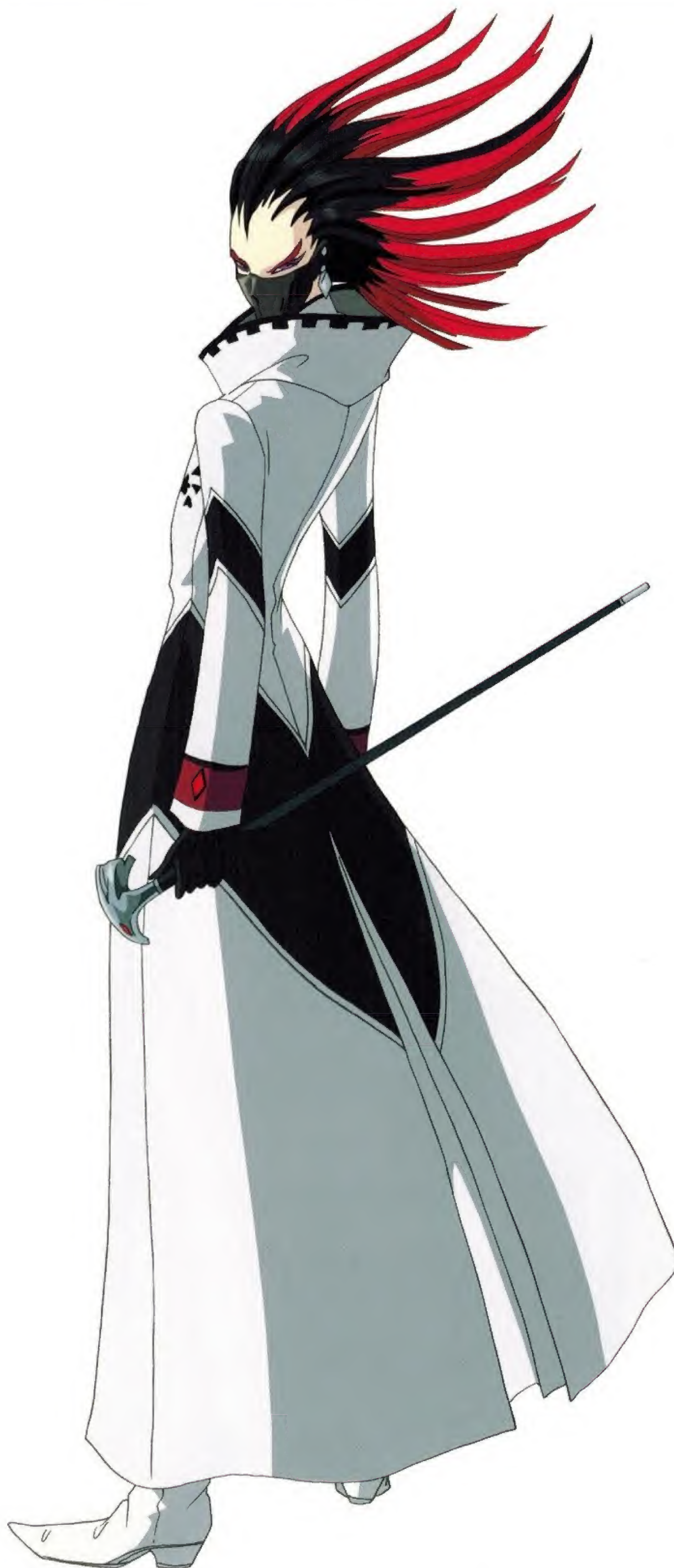
身長205〜??cm 体重95〜??kg

ミラージュ騎士。パートナーはラ・ベルダ。
ようやく登場と言いたいところだが、クラック以外の名前ですぐに登場されていた方である。設定自体は古く、シャフトやパイソン、スパークなどと同時期に作られていた。作品集「デザインズ1」の中に成長したタイトネイブと一緒にいるイラストも公開されている。

ツバンツヒと同じく、「スベック〜ストーイ・ワーナー・エルディアイ・ツバンツヒ」に対して「クラック〜ワспен・ナンダ・クラック〜ユーゴ・マウザー」というコードネームである。ツバンツヒはカリギュラの認識番号がそのままツバンツヒで通ってしまっているので、ややこしいが。基本この2人に関してはツバンツヒとマウザーである。

「花の詩女」でツバンツヒと共に登場した。
彼がクラックだとずっと黙っていたのは、ツバンツヒは「花の詩女」公開後の連載再開と共にすぐに再登場することが決まっていたが、クラックはツラック隊エピソードの後で、彼が再登場する時までの楽しみにしておこうと思ったのだ。
「花の詩女」ではツバンツヒもクラックもその後の重要キャラクターとなることは決定していたため、まずツバンツヒのエピソードを片付けてからこのクラックのエピソードに入るつもりだった。強烈なこの2人を一つのエピソードで同時に出してしまうと收拾が付かなくなるので、登場をずらしたのだ。
また、再登場にあたり、非常に美形キャラとなっているのはこれも予定通り。自在に身長や体の一部を変化させられるポリメリゼーションキャスターならではの反則技である。

ツバンツヒ同様、GTMガーランドでもありシステム・カリギュラのメンバーだった人物だ。
物語中でも不思議な行動が多く、バインツェルを見逃したり、バルター博士に対して非常にきめ細かな対応をするなど、完全にその時の気分で動いている。
彼がミラージュ騎士団に加わることになるエピソードはちょっと先、スプラウト・ソングの終盤になるが、彼らしくとても変わった入団エピソードとなる。
また、レフトミラージュらしくミラージュに所属しているのかわかす怪しい場面がいくつも出てくる。実際本人はミラージュ騎士団の一員であることをあまり意識していないようだ。そういった意味で生粋のミラージュ・レフトナンバーである。



ファティマ・ラ・ベルダ・ピソソリ

Fatima La Belda Pissenlit

身長158cm 体重40kg

パートナーはクラック。

フローレス・ファティマで「たんぽぽのベルダ」。

ラ・ベルダ・ピソソリと呼ぶ。

ロizzoのネロスのところでも述べたが、エトラムルのガリユー・エトラムル博士、つまり本名エーロッテン・ニトロゲン博士による数少ない人型ファティマである。

エトラムル型ファティマを搭載するGTMデモールのモニターと解析においてベルダほど適したファティマはいないのは確かである。

性格は結構独特で、マウザー相手に情け容赦ない漫才は今までなかったパターンである。

は、おいといて、結構「フローレスの呼び方はどうやって決めているのか？」と聞かれるので答えておくと、「風のファティマ」はコーラスのイメージ通りで、「湖のオーハイネ」はその見事な金髪が湖の光を乱反射するように光り輝くからである。ベルダはそのふわふわのソバージュの髪がやはりタンポポの綿毛のように風になびくからそう呼ばれている。



天照家中納言
メレトレ・清花(さやか)
Information Department Ten Sei Sya General
Meretore Sayaka

身長168cm

ぬー、うまい英単語が見つからない。中納言で典星舎の指揮官となると情報部指揮官で、ブリッツェンフォースの戦闘員でもあり、天照王朝の大臣でもある。
まあ、メレトレさんはそういった立場である。マエッセンからは「メレトレちゃん」などと呼ばれているが、まあ本名の「さやかちゃん」と呼ばれるよりはマシだろう。
ひでえ。

このまるで権威の塊のような出で立ちは天照家典星舎そのものと言ってもいいのかもしれない。今後はメレトレを中心に天照家典星舎の描写が増えていくだろう。
ぬ？ 怪しげな奴がメレトレさんの執務室の外で靴脱いでなんかしてる？
ミラージュ相手に本当にご苦労様である。



ヨーン・バインツェル

John Weinzell

身長188cm 体重75kg

意外やヨーンの最近のデザイン画がなく、ここに来て登場である。なんだか彼はミラージュ入りしてからのイラストばかりで、何を今更という気がするが、キャラクター発表から30年経ってもまだミラージュ騎士ではないのもトホホである。

シアン夫人にもらったこの戦闘スーツ、ミノグシアに合流していたシアン夫人がAP騎士のために個人用戦闘スーツ、またはGTMスーツをいくつか試作していたのだろう。AP騎士団の制服に使用されている金具を始め、生地や防御システムなどがこのスーツにも流用されている。ヨーンとシアンが出会ったのはちょうどタイミングが良かったということだろう。

ヨーンは気にしていないが、このジャケットはGTMスーツである。またパーシャに作ってもらった装甲入りの手袋はバルスエットがいろいろと継ぎ足して現在の彼に合うように縫い直されている。拳の装甲部はパーシャのデカダン・スーツの装甲生地である。

物語中でもヨーンと関わる人物は皆ヨーンのことを知っている。シアン夫人、リリなど。これはヨーン・バインツェルという若い騎士が騎士の間では有名ということなのだ。

ちゃあですらわかっていたくらいだから。

ヨーンとエストの確執、黒騎士デコースへの復讐、これらは騎士の間でよくかわされる話題でもある、彼が今後どう生きていくのかいろいろな方面から注目されている。

そしてそのことはもちろん、黒騎士デコースもわかっているはずである。

ヨーンとデコースの対決はどうなっていくのであろうか？

第6話の山場のひとつである。





クラーケンベール・メヨヨ大帝

The Great Mejojo Krakenbele

身長196cm 体重78kg

メヨヨ大帝。たぶん今はこの身長よりさらに伸びているはずである。
大戦冒頭での髭のスタイルが付けひげだったとちゃあにばらされた。髭の付いた戦闘指揮服は宝塚系のイメージで結構好きだったが、物語の成り行きで取ってしまったのが、少し残念である。

さて、クラーケンベールだが、今後も重要なところで登場してくる。魔導大戦ラストではあっと驚くような行動を見せるが、それこそが帝王たる資質である。
戦を否定することは正しい。だが、その戦の中で彼が見せる行動や言葉は戦人としてのまっとうな正義である。それは端から見ても気持ちのいいものだろう。

大戦序盤での登場はあの付けひげに合わせた大時代的なものであったが、次回はどんな格好で登場してくるのだろうか？ それも楽しみである。まあ、こいつの格好は永野の普段着をそのままというのもあるので、その時の気分だろうが。

ファティマ・アンドロメダ

Fatima Andromeda

身長163cm 体重43kg

バランシェ・ファティマNo.19。

令令謝の妹。というだけあって、バランシェもちょっと反省したのか非常にまともで上品なファティマである。顔つきが他のバランシェ・ファティマと異なるのは人種的なものでバルデノなどとはまたちょっと違うイメージである。

以前パワーゲージとその最後にアルファベットが表記されていた。BrとかFraとかである。これはISOの国際国家コードやIOCのオリンピック国家表記のような、地球の主な国家や都市の省略表記で、そのファティマの大雑把な人種のイメージである。このアンドロメダなら「Mrc」で、モロッコである。

ラキシスはBelでベルギー、クローソーはEstでエストニア。最近だとカプリコーンがPolでポーランド、なのだが、エベレストはBrtで「ブリテン」。イングランドでも英国のGBRでもない。またイグリッドのBrはなんとベルリン。

この辺はどうにでも取れるようにIOCなどの3文字コードではないのでご注意。小文字使うし。

だって、東洋人でUSAとか普通にあるわけなので、なるべくイメージしやすい国家や都市を使用している。本当は国家とかではなく人種、民族の表記が良いのだろうが、ノース・アリアとかアングロラテンとかフランク族とかデーン人とかだが、地域が多岐に渡るのでこういう表記を使っている。

L型ファティマなのでロングコートである。各所に付いた白のリボンがメヨーヨ・ファティマのポイントでもある。エストカレンダーをお持ちの方はエストがメヨーヨのデカダン・スーツを着ているので参照されたい。

アシア・スーツのヘリオス装甲繊維は胴体部の重要なところだけを覆っているので腰から下、肩より先の腕部などは通常のデカダン・スーツと同じで軽く作られている。

彼女とGTMアグニムが登場するのはちょっと先になる。





剣聖ピアノ・メロディ3
剣聖ハリコン・ネーデルノイド

Co-Lus Melody3
The Top of Chivalries Harricon Nadelnoid

身長203cm 体重88kg

アルルの父、桜子の父。
コーラス王朝メロディ家3代目当主。
剣聖。

フンフトとの会話の後、彼が最後に向かった場所は詩女マグダル・アトールと剣聖デブレ・カイエン、剣聖マキシ・カイエン・シルバーが向かう第6話の最後の戦い、エンディングの場所でもある。

詩女フンフトとハリコンは同じジュノー星の人間なのだということもあるのかもしれないが、フンフトが詩女になる以前からこのピアノ・メロディとは面識があった可能性も高く、当時のフンフトの持つ千里眼、スコーパー能力でピアノの正体がわかっていただろう。

なによりも歴代詩女の記憶を引き継いだ時点でフンフトはハリコンのこともほぼわかっていただろう。

ハリコンの登場シーンは以前にも何度かあったのだが、いろいろ都合で割愛されてしまい、コーラス4との出会いもカットされたまま過去回想の詩女のシーンで登場と相成った。

物語にはあまり関係がないが、ここで彼らの子供達、アルルと桜子の認識を言っておくと、アルルは父を知っていてそれがハリコンだとわかっている。しかし母は誰なのかを知らない。桜子は逆に、母が詩女フンフトであることを知っており、それを自分の呪われた境遇だと思っている。だが、桜子は父親が誰なのかは知らない。

つまり、ややこしくなるが、フンフトのセリフから、別々にこの2人を産んではいるが、子供達はどちらかの親を知らないのである。

まあ別に今後この関係が物語に出てくるわけじゃないのできっぱり言ってしまうと、アルルの母親はバラカ家の王女シリセで、これがまたコーラスのメロディへのお家騒動に繋がっている。ハリコンの目とアルルの目は同じ色で血の繋がりを感ぜさせる。

桜子の父親は当然ハリコンである。

つかもう、コーラスの王子様達はやりたいほう…言わなくてもわかっているか。いや、ホント。

ハリコンの名はハリケーンの別読みでパートナーのユリケンヌと同じ名前でもある。このあたりの組み合わせも因果関係があるが、一緒に出たユリケンヌがマンティックモードだったのがひじょーに気になる…。

バルスエットがヨーンに「私達は騎士様達の生体予備パーツでもあるんです」と言っていたが、もうひとつは「騎士達の記憶の保存体でもある」とも言える。

さまざまなファティマ達が騎士達との経験をしっかり記憶に刻んでいるからだ。



超帝國剣聖 ララファ・ジュノーン

The Top of Chivalries
Ra Ra Fa Jünicorn

身長220cm

超帝國剣聖。
炎の女皇帝の娘。

セブンスード、超帝國剣聖騎士団の中ではもっとも優しい剣聖と言われる。不思議な行動で、かなり前からジュノー星を中心にふらふらと姿を現しているようだ。非常に騎士の血の強いコーラス王家に興味を示し、コーラス周辺にはララファの影がいつもある。ほかの超帝國剣聖らと連絡を取っているわけでもなさそうで、彼女の行動は謎ばかりである。

彼女らの着ているスーツは我々の知る繊維ではないようで、縫い目らしきものがない。たぶん一番近いのはボスヤスフォートらが着ている流体素材なのだろう。ミラーージュ・ファティマのアシリアの光沢はこの流体素材を塗布されているようだ。怖い顔つきから男性かと思われた方もいるかもしれないが、超帝國剣聖達は皆鋭い目つきをしているので、仕方がないかもしれない。鋼のような、いやまさしく鋼以上の筋肉が体を覆い、胸など進化の果てに何とか残っているという程度だからだ。これで残すところあとはフラーマ・アトールのみとなる。

肩の防御装甲は可動し、全方位にバリアを張る。オージェのもの似たような感じであるが、超帝國剣聖にバリアなど必要あるのか疑問である。が、これが必要な相手は…。

皇子ワイプ・ボルガ・レーダー

The Prince of Scholtz
Wipe Volga Lader

身長185cm 体重68kg

フィルモア帝国皇太子。帝国でただひとりしかない「皇太子」つまり「皇子」である。

英語ではエンペリアル・プリンスと呼ばれる。が、皇子はまったく異なり、「プリンス・オブ・ショルティ」という呼ばれ方をする。現在の英国と同じ呼ばれ方である。統合フィルモアの領土の呼び名であるショルティ王子、つまり皇太子となる。初代フィルモア帝国サイレン皇帝の時代よりずっと守られてきたしきたりである。そのしきたりはワイプ自ら連載で語っているので、ここでは省略する。

彼が正式な出で立ちで帝国政治に登場することはなかったが、フィルモア王家からの4人目の皇帝「フィルモア4」の後であった剣聖慧茄とバランシェ邸での会談では皇子の服をまもっていた。その衣装は皇帝と同様で、ボルガ王家の濃藍色とグレーのストライプのドレスコートにホワイトがあしらわれている。

皇子は帝国の政治にはまったく関わることはないが、帝国の緊急時に現在の経済主体、資本主義社会形態で合議制の帝政を一気に完全専制君主制度に戻す権限を持っており、その権力は絶大で、皇帝の言葉に全て従うシステムを有している。

その皇帝の言葉を支えるために「円卓の騎士」達が今も存在するのだ。全ての騎士団及び軍はこの直下に位置する。これはまさしく「力による強権」であり、緊急時に有無を言わせないという姿勢が形になったものだ。

政治に関与することもなく権力も持たないと言われているが、ワイプは次期皇帝と子供達の保護を「詔」として残した。円卓の騎士会議では逆らう理由もなく、元老院にこの決議が「強制的に降ろされた」。

この経緯はバシル・バルバロッサと元老院にとっても誤算であったことだろう。余命わずかと言われていたワイプの寿命はバランシェの手によって引き延ばされ、ジークに加えて茄里が生まれ、その子らを密かにエラルドに移すことまで画策された。

この慧茄との会談の後、ジークと茄里はエラルド島に渡ったようだが、茄里がいつの間にかバルバロッサ家に預けられていた事実はジークを守るだけで精一杯だったのか、茄里が何らかの形で取引材料に使われたのか、今では不明である。

ラーンでは「ノルガン・ショーカム」と名乗っていたが、この名字は後にジークが引き継いでいる。

首元に付けているのはラーン教導学院で詩女よりもらった最優秀学生のメダルである。

ワイプにとってはフィルモア帝国皇帝の証やいかなる勲章よりも大切なものだったのだろう。



ファティマ・チャンダナ

Fatima Candana

身長162cm 体重40kg

2977年当時のチャンダナ。慧茄のパートナーであった頃だ。そのあとダイ・グをパートナーとするが、連載のとおり、このチャンダナが今後どう動いていくのかが非常に気になる。

(今回より身長体重を変更、調整)



リリ・ニーゼル ブラウ・フィルモア女王

Queen Brau Fillmore
Riri Neezel

身長180cm

ショーカム、つまり皇子ワイブの妻でフィルモア帝国ブラウ・フィルモア筆頭王家の女王。皇子を出すのはボルガ王家系列ということが判明したが、ブラウ・フィルモア王家は双頭の竜の紋章とサイレンのガット・ブロウを受け継いでいる。また、皇帝の証である首飾りはレーダー王家に、統制を示す皇帝笏はバルバロッサ家が引き継ぎ、歴代の皇帝に渡されていく。この皇帝の証は歴代の皇帝が所持しているが、ガット・ブロウだけは「不戦の証」としてブラウ王家が持ち、直系の皇子を守るための「サクリファイス」となる人物が引き継いでいる。ご存じのとおり今はリリが所有しているはずである。

このリリの姿は巨大なボンネットとマントに覆われて見えないブラウ王家女王のドレスで、オレンジと黒のストライプとなる。

リリが変わってしまったのはバルバロッサに茄里を奪われたからなのか、それとも自分の力が足りず、茄里がジークのどちらかを手放さざるを得なかったのか。ブラウ王家の力の衰退と共にリリの顔は変わっていった。しかし成長したジークと会う頃からまた戻りつつあるようだ。

ワイブと知り合った頃にはすでに女王に即位していたが、学業中でもあったのでブラウ王家は彼女を表には出さず、リリがブラウ女王として登場したのはかなり後である。リリの立場、フィルモア王家にしてワイブや慧茄との繋がりはさまざまな確執を生んだらしく、慧茄は12巻でそういうことを言っている。



ダイ・グ・フィルモア王子

Prince Dai Gu Fillmore

身長120cm 体重22kg

幼いダイ・グである。バランシェ邸のオデットのシーンでバランシェが「ファティマは血の繋がった者を認めることが多い」との言葉通り、慧茄の血を引くダイ・グをパートナーとした。

慧茄と一緒にバランシェ邸に行くことに何か理由があると幼いダイ・グはすでに思っていたのかもしれない。次期皇帝にと皇子ワイブから言われた時の気持ちはいかばかりだったのだろう。その後、ジークと一緒に過ごすことになり、ダイ・グもジークもお互いの置かれている立場を子供なりに考えていたのだろう。

この2人の思いは同じで、どちらも命をかけて相手を守る。守らなければならない。と。



ファティマ・オデット/オディール

Fatima Odette / Odder

身長159cm 体重39kg

バランシェ・ファティマNo.8。
一人ではなく「複数のマスターに使える」ファティマで、「オデット」と「オディール」という別の呼び方もされるファティマである。

オデット、オーロラ、ジゼルという舞踊3姉妹の姉。
連載ではオーロラが大活躍……中だが、このオデットは物語の中で出てきたのか出てきていないのかいまいちわからないという謎なファティマで、それもそのはず、「オディール」という別人格を持つバランシェ・ファティマである。意図して作られたのは間違いないが、その後のハルベル(インタシティ)やアウクソーなど、このオデットがベースとなっているようなファティマは多い。

ということでオデットは今まで発表されていたバランシェ邸でのメイド服も午前服と午後服で登場し、キャラクターシートもデカダン・スーツはこれが正式版となる。今までのニュータイプカレンダーのイラストで描かれていたもので若干仕上げが気になっていたので今回描きなおした。しかし、オデットもオディールも複数のマスターに仕えるという状況で、リリに付いてナカカラの会議に出た数ヶ月後にはフィルモアのバルバロッサ別邸で茱里とカステポーに出陣とまあ、本当に忙しそうである。オデットがリリで、オディールが茱里ということではなく、単に2人がそういう呼び方をしているだけだろう。

呼べば来るのだろうが、リリと茱里の関係はいったいどうなっているのやらである。たぶん誰かを仲介してその時のマスターのもとにいるのだろう。



…さん ナカカラ＝クルル国立高等学校制服

身長165cm

……。
ラストはこれですか……。
普段は帽子でいつも隠している髪型が判明。まあ、もうこの人はこんなもんでいいかと。
両親はジュノー星、コーラス王朝のロンド大陸の東にあるカリーニン大陸のイエダーン連合共和国エレシス出身だが、彼女はボォス星で産まれているので詩女の資格はあるのだ。で、育ったナカカラ王国時代の制服である。

まあ、魔導大戦中は陰謀と謀略と策略とかけひきの中心、非常に出番も多く、全星団の国家を現在も絶賛振り回し中である。さすがである。
アマテラスはこういう人物を最も嫌うが、本人はピアノに会って、ほよよ〜ん、ダイ・グに会って、ほよよ〜ん。と、ガンガンにプレまくっているのでアマテラスはたぶん気に入る。
つか、アマテラスとこの人は魔導大戦のラストでついに会うことになりますが。

モラード博士との30年にわたる試行錯誤の末に制御不能で危険極まりないタワーをなんとかアマテラスに引き渡せたのはこの人のおかげです。
タワーは機嫌が悪いと星ひとつ消滅させちゃうので、本当にご苦勞様である。命がけであったことだろう。
さすがアルルと桜子という子供を育てた方である。
野獣のような奴らの扱いは慣れているということなのか。それもひどい話だが。
話が進むとわかるが、この人そこら中で浮いた噂をまき散らす方なので、ハリコンと出会ったのもきっとこの当時。

ミノグシア中部、草原の国とはいえ、きっちりとしたトラディショナルな制服である。制服はツーピースのオーソドックスなものだが、付け襟がとても可愛い。
学生時代にこういう人いたわな——。という感じの人物である。
学校やクラスではたいてい明るくて性格が良くてかわいい子が「一番かわいい子、ミス〜学園」とかになるのだが、よく後から考えると一番の美人は影に隠れて目立たないが、勉強もでき、頭の回転も速く、何をするにもそつがなく、行動力もあり、スペックが高すぎて同世代の異性は誰も近寄れないというか、まあそんな感じの人である。
とはいえ、詩女がこういう完璧系の女性ばかりではなく、ナカカラのようなトホホタイプからムグミカのような箱入り娘タイプまで様々なので、大動乱の魔導大戦時はこの人物のような詩女でなければ乗り越えられなかったのかもしれないし、それは事実であった。
たぶん最も登場機会の多い詩女。

好きな教科：国語、経済
好きな食べ物：メロンクリームのコッペパン。千葉県産のピーナッツ。





XROSS JAMMER

付録



チューンホーン

顔がうつむいているので俯角になっているが、これは最大俯角で、顔と水平状態である。通常は30度ほど上に跳ね上げている。Z.A.P.の特徴ともなる2本の角で、2本からなる背骨のその1本ずつからエネルギーを供給されている。供給されているということは……それは武器ということである。この2本のチューンホーンから発射される「サテライト・ポリフォニック・ビーム」は市街地一つを完全に灰にするくらいの威力を持っている。プラズマの渦が2本の角の間で巻き起こるので、発射時は後方にブローバックしてホーンが溶けるのを防ぐ。Z.A.P.の「殲滅用兵器」ということである。「攻撃用兵器」は「フレーム・ランチャー」である。チューンホーンという名前の由来は「音叉」のように見えるからである。

ヘッドバック・ハロ

頭頂部にセットされる放熱ペールである。中空のヘリオス装甲で作られ、そんなに重くはない。ペールとも呼ばれるのはそれくらい軽いからでもある。

ベンダー・ウィグ

2段目と3段目はベンダー・ウィグと呼ばれ、ヘッドバック・ハロの補助デバイスとなる。2本の背骨から出る熱を振り分けて放熱している。

マルチウェイ・アーム・バイパス

ホース状だが、ツインシングシステムが内蔵されているので自在に動く。このバイパス自体がフレーム・ランチャーの支持架となっているので、Z.A.P.が手を離してもフレーム・ランチャーは浮いている。通常はフレーム・ランチャーを後方に立てかけるように浮かせている。

エネルギーキャタライザー

胸部からのメインのエネルギーをプラズマエネルギーに変換するシステムで、主力武器の「フレーム・ランチャー」に送るバイパスである。後部の肩フライヤーがキャタライザーで、これは「J型駆逐戦闘兵器」と同じレイアウトである。

スタティック・ロングテール

脚部から送られたエネルギーが胸部のファンクション・ジェネレーターで増幅されるため、その熱を真っ先に逃がすために後部の腰スカートパネルにエクステンションする形で装着されている。ここから放出されるのはプラズマ化した余剰エネルギーのためにバリバリと放電する。バーガ・ハリやユーレイが後頭部につく放熱スタビライザーと同じで、Z.A.P.はこの位置にあるということだ。長く伸びているためにアンクルクレーンや本体の動きに邪魔にならないよう2つのテールは並行位置を維持したまま他のパーツと干渉しないように自動的に動く。このイラストでは収縮した状態で戦闘時はもっと長く伸びる。どこまでも派手である。

アンクルクレーン

片側4対のアイゼンパーツから成り、GTMの動きに連動して邪魔にならないように動く。脚部にあるエンジン本体の放熱が目的だが、取り外して行動することも可能だ。また4対ではなく2対だけ装着していることもある。完全に取り外している時は「対GTM戦闘」の場合で、エンジンの出力は通常のGTMほどまで落とされるが、それでも大パワーである。この「対GTM戦闘」は2989年のコーラス戦や3960年の黒騎士との戦いにて確認されている。

スーパーロボット
ツアラトウストラ・アプターブリンガー

Super Robot
ZARATHUSTRA Apterbringer Panzer Kampf Roboter

略称は「Z.A.P.」。「ゼット・エー・ピー」と呼ばれる。ドイツ語での「ツァー・アー・ペー」でもかまわないが、語呂の問題である。これは「ツアラトウストラ・アプターブリンガー・パンツァー・カンプフ・ロボーター」の略で、ツァラとアプターとパンツァーの頭文字を取り出してある。作者は単純に「ツアラトラ」と表記しているが、物語のセリフではさらに省略した方が案なので「Z.A.P.」と呼んでいる。

わずか15騎で星団全てを制圧した名実共に星団史上最強のロボットである。4100年までにその出撃回数はわずかに7回。そして敗北は一度もないという無敵のロボットでもある。このロボットだけはGTMと呼ばれず、なぜか皆「ロボット」または「スーパーロボット」と呼んでいる。

ファイブスター物語にGTMという新しいロボットを登場させるに当たって、「カイゼリン」よりも先に完成させる必要があったロボットで、その基本デザインは最も早く、全てのGTMの雛形となっている。なのでカイゼリンの持つ特徴の全てをこのツアラトラが持っている。完全透明に黒のパーツ、後方に伸びた肩からのパーツ、クロームメッキの細い胴体なども同じである。かかとの「アンクルクレーン」以外はほぼカイゼリンも持っている。単行本12巻の表紙ではクリスの持つ剣がガット・ブロウの先行デザインで、同レイアウトで描かれたエストのセルイラストにはアシリア・セバレートの雛形とも言うべきかかたとにアンテナ基部が付けられている。これらは全てこのツアラトラの先行的なイメージで、同時進行でこのロボットのデザインが進んでいた。つまりGTMとファティマのアシリア・セバレートは並行してデザインされていたのだ。アシリア・セバレートはGTMのパーツと特徴を持ち、GTMはアシリア・セバレートの特徴を持っている。GTMを制御する人工生命体のファッションが似ているのは当たり前ということだ。また、「デザインズ1」でお目見えした「ザ・ブライド」もこのツアラトラのイメージをそのままウェディングドレスに置き換えたものだ。このあたりは先行デザインとシルエット、アイデアが交差しているいろんなものに今も引き継がれている。

このロボットのデザインそのものに関しては何も書くことがない。ダッカスのように、細部に至るまで注意深くデザインされてはいない。適当に、まあ、格好いいとか強そうってこんな感じだわな。と、自分の好きなようにちょいちょいと描いたからだが、そうはいってもこのツアラトラの一番格好いいところは、「フレーム・ランチャーの上部に走った赤色のライン」である。これが作者のデザイナーとしての格好いいポイントなのだ。連載の時は炎の背景を入れざるを得ず、フレーム・ランチャーの赤いラインが目立たなくなってしまったのが一番悔やむところではあるが、まあ仕方ない。

各所の解説を見てのとおり、ツアラトウストラ・アプターブリンガーはエネルギーと熱と武器の魂が動いているようなものなので、行動時には全身が発光してしまう。「このロボットを見た時は死ぬ時である」と言われているのはその攻撃で殺されるのもあるが、「姿が確認できるほどの距離にいれば熱で灰にされる」というのもあるのだろう。2989年のコーラス戦時、3008年の公開時にはフレーム・ランチャーシステムを始め、長いチューンホーン、ヘッドバック・ハロやスタティック・ロングテール、そしてアンクルクレーンは装備されておらず、素の状態での公開であった。一見普通のGTMに見え、各国はそれほど警戒はしていなかった。というよりも巨大なJ型駆逐戦闘兵器に目を奪われて、ごく一部の者だけがZ.A.P.の怪しさに気がついたにすぎない。コーラス戦では出力は半分以下に落とし、ヘッドバック・ハロはショートタイプを装着していたようだ。

フレーム・ランチャー

Z.A.P.の主力武器。このロボットはガット・ブロウをほとんど使用しない。それは対GTM戦闘ではなく、殲滅と殺戮を目的に作られているからである。その本来の任務を敵GTMに邪魔されないようにGTMとしても星団最強の性能を持っているにすぎない。フレーム・ランチャーは簡単に言えば「火炎放射器」である。Z.A.P.の有り余るエネルギーがプラズマ化し、それを一気に放射されるのだから、目標にされた対象は灰になるしかないのだ。正確には灰すら残らないのだが。その威力のために放射口はスイングスライドして長く伸び、本体のZ.A.P.がそのプラズマと熱で溶けないようになっている。

しかし、なぜに天照はバスター砲やレーザー、ビームなどのエネルギー兵器ではなく火炎放射というものにこだわったのか？
「人類が最も恐れるのは炎だから」
まさに人ではない「もの」の思考である。



ツインエンジン

ハーモイドエンジン「閃1014」はここにセットされている。エンジンそのものはとても小さいが、発熱が天文学的なので後部のかかたとに装着されたアンクルクレーンで放熱している。

ツアラトウストラ・アプターブリンガー 頭部

異様に複雑な形の頭部装甲

曲がりくねったわけのわからない形をしているが、これはひとえにヘッドバック・ハロとチューンホーンをねじ込ませるためにこういう形になったのだろう。後頭部の重さで頭が後方に傾いてしまいそうだが、ヘッドバック・ハロは重くはないので、チューンホーンとの重さがちょうど釣り合うようになっている。

レインボースリット / エアバリア発生器

アイシャのフォクスライヒバイテでこの長方形のパネルの役割がおわかりになったかと思うが、自分に向かってくるエネルギーを湾曲させてリフレクターに集めるフィールドを発生させる装置である。

またこのフィールドは自ら発生する熱を遮断するエアバリアを張る。

これはツバンツヒのマーク2に搭載されていた大気圏突入時に空気摩擦熱を遮断するシステムと同じものが搭載された。

凄く科学力だ。ホントに。

アクティブ・ウェポン・リアクター

首のレインボースリットが発生するエネルギー湾曲フィールドでねじ曲げられたビーム砲などはこのリフレクターに吸い込まれる。まるで磁石にくっつくように吸い込まれてしまう。

連載開始当初どころかその前の「エルガイム」のC・テンブルあたりから作っていた装置なのだが、33年目にして初めてフォクスライヒバイテによって使われた。何とも気の長い話というか、この設定が33年ものあいだ風化しなかったのが凄くというか、今だに使おうというその根性を褒めるべきなのか、誰かなんか突っ込んで欲しいところだ。

頭頂部脱出ポート

この部分が吹き飛ぶ。

ファティマ・ハッチ

レインボースリットの下にある首装甲そのものがファティマが出入りするメインハッチである。レインボースリットのパーツは前方に倒れて開き、騎士とファティマの足場ともなる。このハッチは3008年の公開時にはない。ホーンがただの飾りで頭部のハッチから乗り込めたからだ。

騎士用ハッチ

ファティマ・ハッチ

緊急時以外は使われない。理由は右の通りである。

サイドパネルの開閉スイング

ここを軸に上方に跳ね上げられる。

プロムナード

ファティマの移動トンネルがここにある。全てのGTMが持っており、ファティマコクピット前方底部と騎士コクピットの天井部が繋がっている。

イヤリング

これは各種センサーが入っている。聴覚や振動の状況をモニターしている。

ツインスイングの頸椎部

GTMのフレームそのもので、発生する熱を各装甲に逃がす役目を持つ。ツインスイングフレームの名の通り、1本ではなく2本から成る。バーガ・ハリなどGTMの頭部が2つに割れた頭部装甲を持つのはこのため。Z.A.P.もご覧のとおり頭部装甲は2つに分かれている。

頭部のサイドパネルが外された状態

通常はサイドパネルに隠されているファティマ・コクピットのハッチが見えている。サイドパネル(耳部装甲板)は上方に持ち上がるので、取り外さなくても見えるのだが、かなり窮屈である。

ショッキングピンクで成形されたハッチは2本の「チューンホーン」のおかげで出入りすることはできない。一応ハッチの形にえぐられているが、チューンホーンは30度ほど跳ね上げたこの位置がデフォルトで、この角度以外だとハッチが塞がってしまう。普通だとファティマ・ハッチを中心軸にホーンが回転すれば大丈夫のはずなのだが、GTMは「ツインスイング」で全てのパーツは可動する。軸を中心とした可動はないのだ。ホーンは軸がオフセットされたような動きでレールに沿って可動し、ホーンを上を上げるとホーン自体は後方にスライドしながら上方に上がるのだ。これはホーン自体がブローバックスライドするため構内に近い稼働なのである。

ファティマは首のレインボースリットの奥にあるパーツがハッチとなっており、そこから首を通してコクピットに入る。緊急脱出時はサイドパネルとチューンホーンが吹き飛び、サイドハッチから脱出するか、それも危険な場合は何と頭部パネルが吹き飛んで、ファティマ・コクピット(ファティマ・シェル)ごと射出される。これはすべてのGTMに装備されている機能で、ほとんどのGTMは頭部カバーが吹き飛んで内部のファティマ・コクピットを射出するように設計されている。恐ろしい話だが、騎士よりも優先的な脱出システムを持っているのだ。これはファティマさえ生き残っていれば何とかなるということである。

騎士のコクピットも射出されるが、ファティマ・シェルに覆われていないので、脱出時はむき出しとなる。

とはいえ、組み上がったらファティマがハッチから入れないとか、天照は何を考えて作っているのだろうか。そんなことあるわけがないかお思いの方も多いだろうが、現実の兵器は往々にしてそういうことがある。というか、その方が多いくらいだ。兵器は乗用車ではない。人間が兵器に合わせるのが普通なのだ。ツアラトラではツバンツヒが首のハッチを追加してこの問題は何とかなった。

ツアラトウストラ・アプタープリンガー
全ミラージュ騎士のコードレター

Z.A.P.ことツアラトウストラ・アプタープリンガーにはその騎体ごとにナンバーが付けられているが、そのナンバーは搭乗するミラージュ騎士のナンバーやGTMのシリアルナンバーとはまったく無関係に付けられている。
配備数の隠蔽目的ともされるが、Z.A.P.は「自分の意志を持って稼働するGTM」であるということ、つまりファティマ同様ヘッドライナーを「選ぶ」GTMである。そのため固有のナンバーがバラバラになっているのだ。
以下、その全てのナンバーを示す。

A=斑鳩王子騎/天照家騎・ワスチャ・コーダント騎
I=レオバルト・クリサリス騎/タワー騎(元バーク・デ・ライツァー騎)
II=クロークル・ハーマン騎/剣聖ベルベット騎(元ベスター・オービット騎)
III=従帝アイシャ・“コーダント”騎/ルート・コーダント騎
III-j=Z.A.P. AAR(ディッパ・ドロップス担当騎・R指揮騎)
V=スペクター騎(出撃前に転んで大破。壊したのはポーター。のち修復済み)
VI=ステートバルロ・カイダ騎/サトバイ・シュレスコルハール騎
VII-j=Z.A.P. AAR(ヒューズ・カーリー担当騎・L指揮騎)
VIII=隊長騎・雷丸その四(黒の部分がダークブルー仕様/斑鳩王子も乗る)
VIII=スペクター予備騎だったがじゃーじゃーに奪われた(元スパーク騎)
X=ウラツェン・ジィ騎/ヨッヘンマ・ビストーチ騎(元エイドリアン・ターク騎)
XI=パナール・エックス騎/アラート・エックス騎(リィより引き継ぎ)
XII=エイブ・ロウ騎(元ポエシェ・ノーミン騎)
XIII=シトロ・メナー騎(元シャーリー・ランダース騎)
XIII=イマラ・ロウト・ジャジャス騎
XV=バイズビズ騎(元・ビヨトン・コーララ騎)AFが同じため
XVI=ミシャル・ハ・ルン騎/ヘルトバード・ゴドラ騎
XVII=ヨーン・バインツェル騎/バゴナ・ヘルバード騎
XVIII=ワスペン・クラック騎(元ティン・バイア騎)AFが同じため
XVIII B4=剣聖マキシ騎(特別騎テストニアス)
XX=バーナー・恋・ダウド騎(元ヌーソード・グラファイト騎)AFが同じため
XXI=アーレン・ブラフォード騎
XXII=ミューリー・キンキー騎
XXIII=エルディアイ・ツパンツヒ騎(ランドアンド・スパコーン騎共用)
XXIII=メイザー・ブローズ騎/ターストワイト・フォレット騎
XXV=マドラ・モイライ騎(ビッキング・ハリス予備騎)
XXVI=キュキィ・ザンダ・理津子騎
XXVIIウーラ・ソニック=エルディアイ・ツパンツヒ騎
XXVIII=キッド・オーシャン騎
XXVIII=メロウ・クリサリス騎
XXX=ウビゾナ・バーデンバーク騎
XXXI=ゼノア・アプタープリンガー=タワー騎
XXXII=カーレル・クリサリス騎
XXXIIIスカイア・ギフト=アラート・エックス騎
XXXIII破烈の人形=隊長騎・雷丸その六(ゲートシオン・マーク3)
XXXV=レディ・スペクター騎

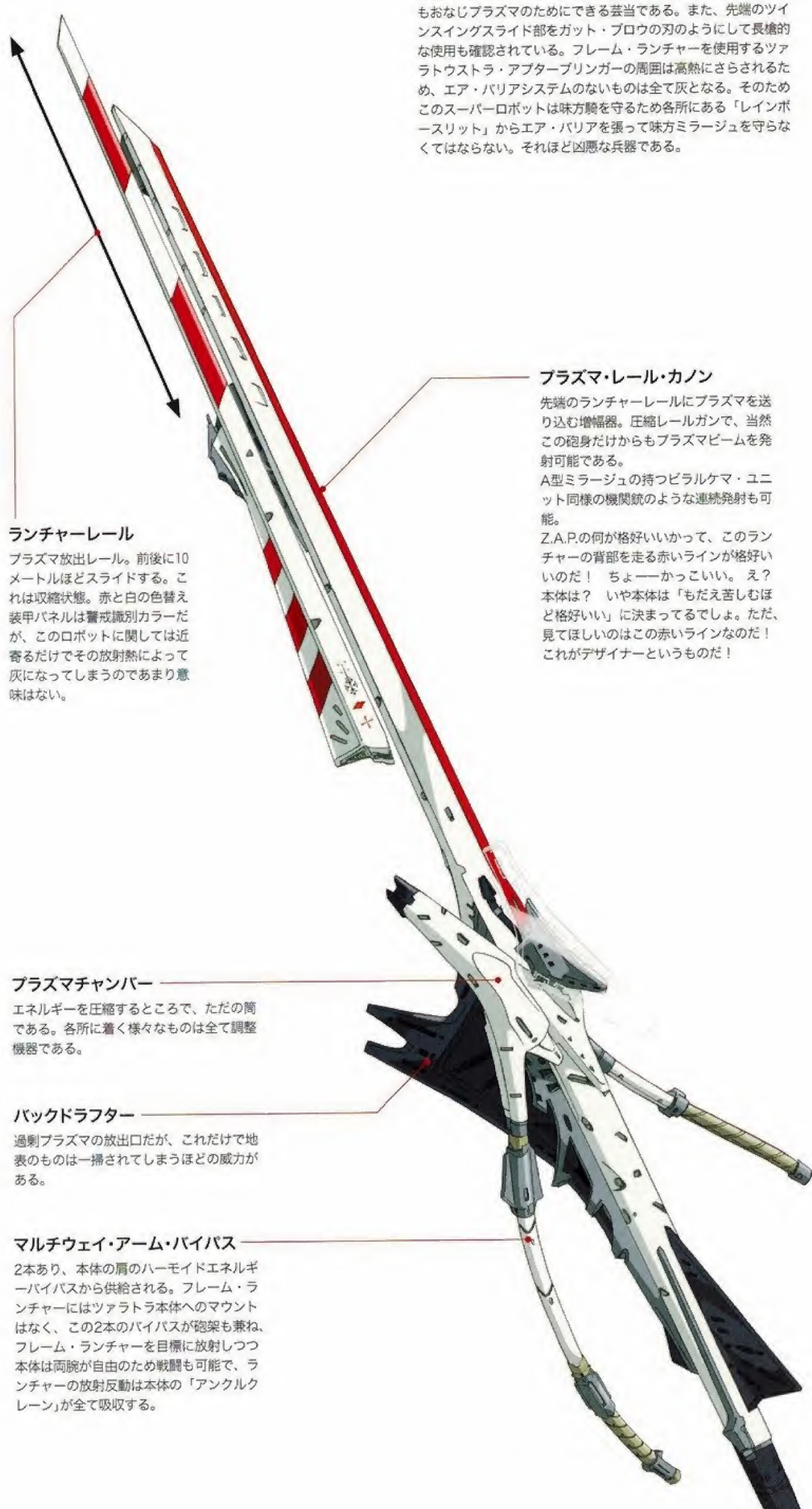
赤文字はZ.A.P.以外のミラージュGTM。
ミラージュXXXIII(34)のヴィクトリーはGTMに搭乗不可能のため入っていない。

Z.A.P. AARはJ型駆逐戦闘兵器の護衛専用のB型ミラージュで2騎製造されている。担当者は決まっているが固定ではなく、その時その時のミラージュ騎士が使用する。見た目は同じである。
XVIII(19番騎)はB4テストニアスという別型番のGTMである。同様にXXVII(27)とXXXIII(33)はスピード・ミラージュでZ.A.P.ではない。この歴代ミラージュ騎士全メンバーの対応ナンバーを見てもわかるとおり、Z.A.P.は1騎も失われていない。数百年後に別のミラージュ騎士が搭乗するだけである。まあ、出撃前に誰かが壊した1騎は別としてだが。

また、自分が乗るGTMには全て「雷丸」という名前を付ける困った御仁がいるが、Z.A.P.VIIIには「雷丸その四」、ゲート・シオンマーク2No.3には「雷丸その五」、破烈の人形には「雷丸その六」とか付けているが、そう呼んでいるのはご本人だけなのでまったく正式名称ではない。ご注意ください。
ちなみに焔帝シュツツイェンには「元祖雷丸」と名付けている模様。残る「雷丸その式」はどうもホルダー・プリンガーであるようだ……。なんやそれは。ミラージュh型なんだろうけどさ。Φ型(ファイ型)にはどうせ「雷丸その七」とか付けるはずである。
で、「その参」は?? どこいった?

フレーム・ランチャー《インフェルノ・ナバーム》

過剰なエンジンのエネルギー全てを放射プラズマに置き換え、8000度を超える炎をビーム砲のように放出する。チャージしたプラズマをバスター砲のように打ち込むことも、放射プラズマを放電プラズマに切り替え、超広範囲の落雷攻撃も可能で、炎も雷もおなじプラズマのためにできる芸当である。また、先端のツインスイングスライド部をガット・ブローの刃のようにして長槍的な使用も確認されている。フレーム・ランチャーを使用するツアラトウストラ・アプタープリンガーの周囲は高熱にさらされるため、エア・バリアシステムのないものは全て灰となる。そのためこのスーパーロボットは味方騎を守るため各所にある「レインボースリット」からエア・バリアを張って味方ミラージュを守らなくてはならない。それほど凶悪な兵器である。



ランチャーレール

プラズマ放出レール。前後に10メートルほどスライドする。これは収縮状態。赤と白の色替え装甲パネルは警戒識別カラーだが、このロボットに関しては近寄るだけでその放射熱によって灰になってしまうのであまり意味はない。

プラズマ・レール・カノン

先端のランチャーレールにプラズマを送り込む増幅器。圧縮レールガンで、当然この砲身だけでもプラズマビームを発射可能である。
A型ミラージュの持つビラルケマ・ユニット同様の機関銃のような連続発射も可能。
Z.A.P.の何が格好いいかって、このランチャーの背部を走る赤いラインが格好いいのだ！ ちょ——かっこいい。え？ 本体は？ いや本体は「もたえ苦しむほど格好いい」に決まってるでしょ。ただ、見てほしいのはこの赤いラインなのだ！これがデザイナーというものだ！

プラズマチャンバー

エネルギーを圧縮するところで、ただの筒である。各所に着く様々なものは全て調整機器である。

バックドラフター

過剰プラズマの放出口だが、これだけで地表のものは一掃されてしまうほどの威力がある。

マルチウェイ・アーム・バイパス

2本あり、本体の肩のハーモイドエネルギーバイパスから供給される。フレーム・ランチャーにはツアラトラ本体へのマウントはなく、この2本のバイパスが砲架も兼ね、フレーム・ランチャーを目標に放射しつつ本体は両腕が自由のため戦闘も可能で、ランチャーの放射反動は本体の「アングルクレーン」が全て吸収する。

新旧名称の対応表

ニュータイプ本誌でも発表した「新旧対応表」を掲載しておくので固有名称の移行を確認されたい方はどうぞ。現時点で登場しているGTMも可能な限り旧MHの名称と対比させた。

尚、MHでは登場、または名前の出ているロボットでもGTMで未登場なものは名称がまだ確定していない。

また、GTMではすでに登場しているがMHでは存在していなかったものなどもあるが、これは「該当無し」としてある。

これらはそのうち登場、または名前が出てくる時に決定する予定である。

この対応表を見てわかるとおり、過去連載に登場、または名前だけ公開されているほとんど全てのロボットの名称に対応している。

途中で名称変更したり設定から消された名前のロボット。ひとコマだけ登場しているロボットな

ども可能な限り載せてみた。GTMとなって復活をした旧名称のロボットも多く、ミラージュのK型などはその典型である。

また、連載再開時にこの新旧名称の変更を載せなかったのは一部ストーリーのネタバレがあるためで、そのあたりは今回も曖昧にしていることをご了承ください。

ミラージュモーターヘッドから変更となった型番について

対応表でほぼ全てのGTMが登場したことで、ここではあらためてミラージュGTMの型番について記しておく。

「デザインズ」において今までC型とされていた「クロス・ミラージュ雌型」がG型へと変更された「クロス・ミラージュ」がH型へと変更された。

「デザインズ」をお持ちでない方はいつの間に

そんなことになったのかわからない方も多かっただろうと思う。

この「デザインズ」において密かに変更された型式はもちろん「花の詩女」公開後から変更されるGTMの型式に対応させたからである。

クロス・ミラージュと入れ替えになる「グリット・プリンガー」は英語のスペルの頭を取って「G型」。テロル・ミラージュと入れ替えになる「ハイファ・プリンガー」はH型であるという理由からだ。

で、名前とアルファベットが合致していないB

型の「ツアラトウストラ・アフタープリンガー」と、D型の「マグナパレス」なのだが、ツアラトラのB型は「プリンガー」のBである。ミラージュGTM、つまりはプリンガーシリーズと呼ばれるそのお

もとのプリンガーであるということだ。マグナパレスは正式名称「デイスティニー・プリンガー」のDである。

新旧名称対応表

主要単語

単行本13巻以降

単行本12巻まで

GTM ゴティックメード	MH モーターヘッド、MM マシンメサイア
ファティマ（変更なし。軍用語として AF が追加）	ファティマ
Z.K.K.M. ミラージュ騎士団	F.E.M.C. ミラージュ騎士団
ツアラトウストラ・クリーグ・カンブリッター・ミラージュ	ファースト・イースター・ミラージュ・コア
MMT、デモン、ハINAS、グライア（変更なし）	MMT、デモン、ハINAS、グライア
タイカ・スペース、泰華十曜（変更なし）	タイカ・スペース、泰華十曜
ライフ・ウォッチング・オーバーロード（変更なし）	ライフ・ウォッチング・オーバーロード
ハーモイド・システム、ハーモイド・エンジン	イレーザー・システム、イレーザー・エンジン
バスターランチャー（変更なし）	バスターランチャー
騎士・ヘッドライナー（変更なし。旧称ウォーキャスター）	騎士・ヘッドライナー
ガーランド	マイト
スライダー	マイスター
詩女（うため）	アトールの巫女
超帝国ユニオ、ファロスディー・カナーン（変更なし）	超帝国ユニオ、ファロスディー・カナーン
炎の女皇帝・ナ・イ・ン（変更なし）	炎の女皇帝・ナ・イ・ン
ヤーン・ダッカス・カステボー	ヤーン・バッシュ・カステボー
ディメンション・イクゼスティング・セントリー&スレイ	ディメンション・イクゼスティング・ドラゴンネイチャー&スレイ
ライブ（ゴッド・オブ・ファイブスターストーリーズ）	L.E.D.（ホワイトドラゴン）
ブリッツ（ザ・ネビュラスストーム）	サンダー（ブルードラゴン）
マグマ（ザ・プラストフォルネス）	アース（グリーンドラゴン）
カラット（ザ・リフレクションズ）	フェザー（ゴールドドラゴン）
バルサー（ザ・ペネトレーター）	ジェット（ブラックドラゴン）
グリント・ツヴァインゲン	ダイバー（ダイバーパワー、ダイバーフォース）
ボルテッツ	ダイバー
スコーパー	バラ・サイマル
グレイン	ルシェミ
オペラ	ハイブレン
デュブル	パイア
長剣ガット・ブロウ、短剣ガット・ブロウ・ヴィーニツヒ	長剣スパイド（YAPPA）、短剣スパッド（DOS）
セイラー、スキッパー、バージ、ストライカー	シップ、フロッサー、ティグ、ストライカー
GTM 関連	MH 関連
GTM ステープル（厩舎、整備場）	MH ハンガー
GTM トリマー（整備テーブル）	該当無し
ケージ、ケージパレット（GTM 移送キャリアー）	カーゴ、カーゴキャリアー
GTM セイラー、パレットセイラー	モータードリー

ミラージュ騎士団

Aa 型（C 型レオバルト・フレームに転用）	Aa 型イーエス、イーエル、イーノウ、（量産試作騎）
Ab 型（B、D 型ティティン・フレームに転用）	Ab 型（該当無し）
A 型 アフォート・プリンガー	A 型 ルージュ・ミラージュ（旧称エレス）
B 型 ツアラトウストラ・アフタープリンガー（Z.A.P.）	B 型 L.E.D. ミラージュ
B4 型・曉姫（ジャグワ・フレーム GTM）	B4 型 曉姫
C 型 キャメラート・プリンガー（G 型の雄型）	C 型 クロス・ミラージュ（雄型、雌型は G 型に）
D 型 帝騎マグナパレス	D 型 ナイト・オブ・ゴールド
D2 型 帝騎メガロコート（バトラクシェ・プリンガー）	D2 型 ナイト・オブ・ゴールド AT（バトラクシェ・ミラージュ）
E 型 エンツート・プリンガー	E 型 エンベリアル・ミラージュ
F1 型 フルトリム・プリンガー	F 型 フレーム・ミラージュ
F2 型 フォックス（フォクスライヒバイテ）	F2 型 ハカランダ・ミラージュ
G 型 グリット・プリンガー	G 型 クロス・ミラージュ雌型
H 型 ハイファ・プリンガー	H 型 テロル・ミラージュ（G 型から変更）
J 型 天照家 J 型駆逐戦闘兵器（正式名称は 3159 年に発表）	J 型 天照家 J 型駆逐戦闘兵器ヤクト・ミラージュ
（生産時点では E 型。のちに J 型に変更）	（生産時点では E 型。のちに J 型に変更）
イェンハウ（バスター砲の名称〜通称）	オレンジライト
リョクタイ（バスター砲の名称〜通称）	グリーンレフト
K 型 キルライン・プリンガー（ジャグワ・フレーム GTM）	K 型 クルツ・ミラージュ（3020 年時点では生産されず）
L 型 ルーシェイン・プリンガー（ジャグワ・フレーム GTM）	L 型 ルクス・ミラージュ（3020 年時点では生産されず）
R 型 リューガル・プリンガー（ジャグワ・フレーム GTM）	R 型 ルガー・ミラージュ（3020 年時点では頭部のみ存在）
S 型 スピード・ミラージュ（ティーガー・フレーム GTM）	S 型 スピード・ミラージュ
スカイギフト	ワンダー・シェッツェ（ワンダー・スカッツ）
ウーラソニック	ヴォルケ・シェッツェ（クラウド・スカッツ）
Φ 型 GTM 一切不明	α 型ミラージュ・マシン、プレジジョン LED ミラージュ II
h 型 ホルダー・プリンガー	h 型 ホーンド・ミラージュ
天照家 GTM（モルフォ・シリーズ）	天照家 MH/MM
モルフォ・ザ・スルタン	オージェ
モルフォ・レス・トリパネル	オージェ・アルスキュル
現在別名称 GTM	ナイト・オブ・クローム “ザ・シュベルター”
アマテラス設計外のミラージュ GTM	アマテラス設計外のミラージュ MH
Am-J 型 ジ・エンドレス SR4（エンジンは B 型ミラージュ）	Am-J 型 SR4 ジャッジメント・ミラージュ
Am-O 型 破烈の人形リッタージェット Mk3	Am-O 型 破烈の人形バング
Am-X 型 ゼノア・アフタープリンガー	Am-X 型 ゴウト・ミラージュ
ゲートシオン・Mk2 No3 雷丸	ゲートシオン・Mk2 No3 雷丸
(S 型系列は「スペック」の設計関与。K,L,R 型は「クラック」関与)	(S 型系列は「スペック」の設計関与。K,L,R 型は「クラック」関与)

ミラージュ GTM の K 型などはジャグワ・フレームを使用したコンパクトな GTM でレオバルト・フレームとバンター・フレームを融合させたようなフレームで広義にはバンター・フレームである。ただ、設計者がクラック、つまりマウザーのため彼自身が区別するために別名称を与えたのであろう。

各国主力GTM/MH

単行本 13 巻以降		単行本 12 巻まで	
ガマッシェーン共和国			
ハロ・ガロ〜ラミアス・エリュアレ		ファントム（白）	
エクベラハ		シンカー	
スイセン		ルビコン	
スコータイ		コルサール	
バキン・ラカン帝国			
ホーザイロ・グロウダイン		クルマルス・ヴァイ・オ・ラ	
アル・タイ		フェードラ	
グラーマス		ツァイト	
トラン連邦共和国			
ホーザイロ・ケルキメナス		クルマルス・ビプロス	
カイリーダウン・ハッシー		クローマ	
未登場		ヌーベル・イザッド	
ウモス国			
ハルシュカ（紅騎士）		ローテキャバリー	
X-8 青騎士・紫仙銅（ボルドックス）		X-8 青騎士・紫仙銅	
X-9 青騎士・紫苑銅（ボルドックス）		X-9 青騎士・紫苑銅	
ライモンダ		デヴォンシャ	
ロッソ帝国			
ボイスオーバー GA2		ラインシャルビューメトリ	
グロアッシュ		ヘルマイネ	
バヤデルカ		バルンシャ	
メヨーヨ朝廷			
姫神金剛アグニム（ブランデン F）		姫神金剛（フランベルジュ・テンブル）	
ホウライ		アシュラ・テンブル	
ジャスタカーク公国			
オスカード（ユーレイ M 型）		グルーン（サイレン M 型）	
ハイグロン		シャクター	
コーネラ帝国			
SBB-00 デモール・ゾロ		カン・アーリィ	
SBB-0E デモール・レガーター		ロクサーヌ	
SBB-0I デモール（パイブルス）		カン	
バッハトマ魔法帝国			
カーバゲン（ブランデン G）		ガスト・テンブル	
未登場		アウェケン	
ディー・ヨーグン連合			
フドー		バルブド	
ズダルダ		該当無し	

ダイヤモンド設計GTM/MH	
ブランデン A・ホウライ	アシュラ・テンブル（メヨーヨ MH）
ブランデン B・未登場	ブラッド・テンブル（AKD ゴーズ MH）
ブランデン C・未登場	コーカサス・テンブル
ブランデン D（ワイマール SR2）	ドラクロア・テンブル（ベルリン SR2）
ブランデン E・未登場	エンバー・テンブル
ブランデン F・姫神金剛アグニム	姫神金剛フランベルジュ・テンブル
ブランデン G・ガイランド・カーバゲン	ガスト・テンブル（バッハトマ MH）
ブランデン H・テ・ハビラント	ハーブーン・テンブル（イオタ MH）
ブランデン I 未登場	インフェルノ・テンブル
ブランデン G（HL1SR3 のデッドコピー）	ジェイド・テンブル（ジュノーン SR3）
マイティ・シリーズ	マイティ・シリーズ
バビロンズ B2 雷丸その参	B2 雷丸バビロンズ
プリンガー B3 替王丸	B3 ハイドラ・ミラージュ替王丸
グリッター B4 暁姫（1 号騎）	B4 テストニアス暁姫

汎用量産GTM/MH	
アル・タイ / グラーマス（同型 GTM）	フェードラ / ツァイト / アパッチ（同型 MH）
スイセン / スコータイ（同型 GTM）	ビルドゥー / ルビコン（同型 MH）
ライモンダ（ウモス生産）	デヴォンシャ / ザカー（ウモス生産）
バヤデルカ（ライセンスのロッソ GTM）	バルンシャ（ウモスライセンス MH）
スカラベア	マグロウ
ブーレイ・オデオン	ブーレイ・スプートニク
ブーレイ・ラムアド	ブーレイ・ポストーク

ダイヤモンドのGTMはまだ未登場が多く、あえて名称は決めていないGTMがある。
各種汎用型のGTMはスコータイ(ルビコン)、グラーマス(アパッチ)など、エンジンはツパンツヒ設計でバンターフレームを使用したワンオフのフルカスタムからハイブリッドで安価なアッセンブルGTMまで、あまりに多数で設計製造国家なども多様であるためひとくくりにされている。物語中後方などに描かれているロボットはほとんどスコータイ型やライモンダ型である。

単行本13巻以降		単行本12巻まで	
コーラス王朝			
ハイレオン（HL1）・コーラス GTM		ジュノーン・コーラス MH	
SR1・アハメス（スルーエクセルナ）		エンゲージ SR1	
ハイレオン SR2, ハイレオン SR3		エンゲージ SR2, ジュノーン SR3	
SR4・ジ・エンドレス		ジュノーン SR4, ジュノーン odk	
ワイマール、ワイマール SR2		ベルリン、ベルリン SR2	
ビチカート公国		ビチカート公国	
カイリーダウン・アマルカルバリ		該当無し	
カイリーダウン・シャドンラ		該当無し	
黒騎士ダッカス・ザ・ブラックナイト		黒騎士バッシュ・ザ・ブラックナイト	
フィルモア帝国			
ホルダ 3I ユーレイ		サイレン	
カイゼース		該当無し	
ウィリーズ		プロミネンス	
メロウラ		V・サイレン	
アルカナ・オーデル（レイシィ・バイカル）		アルカナ・サイレン	
ラミアス（ハロ・ガロ、ファー・インマー、イー・ズィー・イー）		ファントム	
ラミアス量産型・ドージョージ		該当無し	
ホーザイロ・グレント		クルマルス・パイロン	
ミノグシア連合（旧ハスハ連合）			
ディー・カイゼリン		ジ・エンプレス	
バーガ・ハリ各型		A・トール各型	
ハスハント工場製		ハスハント工場製	
バーガ・ハリ BS コブラ（スパース隊一部）		A・トール BS（スパース隊）	
バーガ・ハリ BSR ハーブ		A・トール BS コブラ	
バーガ・ハリ SKS、DS（スキーン隊、ドーチュー隊）		A・トール SkS、DS（スキーン隊、ドーチュー隊）	
バーガ・ハリ MS（マルコンナ隊）		A・トール MS（マルコンナ隊）	
バーガ・ハリ EB（エンブリヨ隊）		A・トール EB（エンブリヨ隊）	
バーガ・ハリ ESSQ（遊撃支隊スクリティィ）		A・トール ESSQ（スクリティィ隊）	
ギーレル工場製		ギーレル工場製	
バーガ・ハリ HS（ハローラ隊）		A・トール HS（ハローラ隊）	
バーガ・ハリ・ダンダグラード		A・トール・ダンダグラード（ダンダグラード隊）	
ナオス工場製		ナオス工場製	
バーガ・ハリ FR（ディスターブ隊）		A・トール FR/ フィニトライブ（ディスターブ隊）	
バーガ・ハリ La（ラーン近衛支隊）		A・トール La（ラーン近衛支隊）	
イェンシング工場製		イェンシング工場製	
バーガ・ハリ JG（ジャグド隊）		A・トール JG/ ジャグド（ジャグド隊）	
バーガ・ハリ・ファンディ（スパチュラ隊）		A・トール・エンシー（スパチュラ隊）	
バーガ・ハリ KK（ツラック隊）		A・トール KK（ツラック隊）	

ダリ・キア〜アトール聖導王朝	
アイルフェルノア製 GTM	アイルフェルノア製 MH
バーガ・ハリ全形式	A・トール全形式
アトラ	該当無し
エビキュラ	該当無し
ラングルン	該当無し

クバルカン法国	
SSI クバルカン（ショルティ・スーパー・イモータル）	SSI クバルカン
破烈の人形 リッタージェット Mk3	破烈の人形・バング
ルッセンフリード 白の婦人	スチルコア（ルーン騎士団）
ルッセンフリード 赤の婦人	スチルコア（ローテ騎士団）
リッター・ジェット Mk4 マツハ・シャルトマ	カーディナル・バング

超帝国	
ウーシング・ウーユー	該当無し
フェイスラ・シュツィエン	該当無し
ディグツァイト・シュツィエン	MM 時閃ディグツァイト・エンシー
ディグツァイト・シュツィエン雷丸（元祖）	MM 時閃ディグツァイト・エンシー雷丸（元祖）
バクシコア	雲龍壁（単行本 9 巻 183p 上右 MM）
ダイナニズム	睡蓮丸（単行本 9 巻 183p 上中 MM）
グラムラー	一角轟（単行本 9 巻 183p 上左 MM）

システム・カリギュラ	
ゾルダート 0・シオン（バクシコアのコピー）	該当無し
ゾルダート 1・カリギュラ（ダイナニズムのコピー）	該当無し
ゾルダート 2・ゲートシオン・マーク 2	該当無し
ゾルダート 3・フォルクール・ディー・フラウガング	該当無し
ゾルダート 4・チェングドゥー	該当無し

Last Word

あとがき

「デザインズ6 クロス・ジャマー」をお届けします。
第6話、魔導大戦前半におけるハイライト、大戦シーンが連続する「ツラック隊」のエピソードですが、このエピソードではいかに旧ハスハが分断され各国が混沌としているかというのを描いておく目的もありました。そして西太陽系そのものが延々と混乱し、安定しない星であることをいろいろな側面から描いておこうと思ったのが第6話です。この魔導大戦も後半は年表がどんどん進み、うっそお〜という速さで物語は進んでいくことでしょう。

今回のキャラクター解説ではベラ戦での各国の動きや戦略的なもの、戦術的なものまで文字数も多くなりましたが、あえて入れておきました。
兵士から騎士、各指揮官、国家間のそれぞれの立場、参戦にはそれなりの理由があることなど、なるべく物語の動きに沿った形で入れましたが、「ベラ戦とは？」と別コンテンツで解説するとわけがわからなくなっていくので、各キャラクターの立場という形で解説しました。
最初のミノグシアの戦況図では今回の戦いの他に次の「南部戦線」やナカカラの動きなどもわかるように入れておきました。地図を見ながらいろいろな想像をするのは楽しいですね。

ツラック隊はオールスター総登場で、正々堂々とした騎士達による大戦闘がメインで、登場人物達もアドレナリンが出っぱなし状態で、シリアスなんだかおちゃらけているんだかわからない描写も多くあったと思います。でも、どの描写も全てシリアスで、必死です。それも戦争なのだと思います。また、各国の騎士団もGTMもきれいに戦っていますが、こういう戦争は珍しいとも言えます。もっとどろどろして勝敗の決着も付かない。そういう戦争の方が多いはず。戦闘の最後に敵味方の負傷者や捕虜を交換するという余裕のある戦いはまれでしょう。そういう戦いであったからこそ各国の指揮官達も気持ちよく撤退したのでしょう。
死傷者が少なかったと言われるのは数倍の数で挑んだ枢軸にツラック隊は決死の覚悟で防戦をすることがわかっていたので、各枢軸軍は自軍の被害を最小に抑えるための消耗戦を狙っていたというのがありますが、バツハトマ軍のあったという間の崩壊によってきっちりケリが付いたというのもあったでしょう。ベラの戦いがあいう形で終結したのはどの国家も重要な地域ではなく、各国のデモンストレーションのような戦いであったからとも言えます。

で、「スプラウト・ソング」以後のものは次の作品集に収録予定です。これも超弩級のものがばかりが出てくるので頭が痛いですが…。まあ楽しみでもあります。
それではまた。

永野護

アドラー2977 バランシェ邸

Addler 2977 at Ballance Castle

ラストページにはいつも「なんですかこれは〜」とか「こんなの聞いてないし〜」という派手なキャラクターシートが掲載されることが多いのだが、今回はそういう「聞いてないし〜」というページは真ん中あたりにどどーんと掲載されているので、今回はショーカムとこいつ夫婦&その一家である。
左よりチャンダナ、バランシェ、アトロボス、ジーク、こいつ、ショーカム、クローソー、茄里、ラキシス、慧茄、ダイ・グ、オデットである。大所帯だ。

ショーカムとこいつの正装からボルガ・レーダー王家の色合いやブラウ・フィルモア正王家の色など、今までに出てこなかったフィルモア帝国の筆頭正王家の正式なカラーがわかる。ちょうど対比でエラルド・フィルモア王家の慧茄とダイ・グがいるので比較すると面白い。とはいえ慧茄のカラーは特別なのでダイ・グの衣装がエラルド王家の色である。

茄里がやっぱり母親そっくり。激しい気性も受け継いでいるが、現在はそれが悪い方向に出てしまっているようだ。

ラキシスはこの時はまだ黒髪なので、バランシェに再構成される前である。この時にラキシスはダイ・グに一目をかましているはずなのでダイ・グはラキシスを覚えている。このあたりを描くと話そのものがふれるのでカットされた。

フィルモア帝国の中枢と運命の3女神がいるという信じられない時代である。「二羽の小鳥」の冒頭のシーンではソーブもいたので、ソーブはジークと茄里の存在を知っている。それもあってジークをルミナス学園に入れたのかもしれない。
普段はこういう記念撮影に絶対に出ないバランシェがいるのが非常におかしい。







Automatic Flowers Studio EDITco.ltd

all illustrations and texts by MAMORU NAGANO

構成・イラスト・文
永野護

編集・担当
ニュータイプ編集部
角清人

装丁・デザイン
朝倉哲也(designCREST)

レイアウト
designCREST
田畑善行
保見千衣子
梶原悠里江

セル彩色
中内照美(アニモキャラメル)

印刷
谷川一彦(大日本印刷/プリンティング・ディレクター)
佐々木祐樹(大日本印刷)
石原明子(大日本印刷)

永野護マネージメント
株式会社KADOKAWA
ニュータイプ編集部

Thanks
井上伸一郎
榎本郁子
佐藤光洋(アニモキャラメル)

F. S. S. DESIGNS 6 XROSS JAMMER

ファイブスター物語 デザインズ6 クロス・ジャマー

著者 永野護 ながのまもる

2019年2月9日初版発行

2019年3月18日第2刷発行



EDITco.ltd

発行者 青柳昌行
発行 株式会社KADOKAWA
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
電話 0570-002-301(ナビダイヤル)



印刷・製本 大日本印刷株式会社

本書の無断複製(コピー、スキャン、デジタル化等)並びに
無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。
また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、
たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。

KADOKAWAカスタマーサポート
[電話] 0570-002-301(土日祝日を除く11時~13時、14時~17時)
[WEB] <https://www.kadokawa.co.jp/>(「お問い合わせ」へお進みください)
※製造不良品につきましては上記窓口にて承ります。
※記述・収録内容を超えるご質問にはお答えできない場合があります。
※サポートは日本国内に限らせていただきます。
定価はカバーに表示してあります。

©2019 EDIT

禁無断転載・複製
KADOKAWA CORPORATION 2019. Printed in Japan
ISBN 978-4-04-107991-1 C0076



MAMORU NAGANO'S

The Five Star Stories®